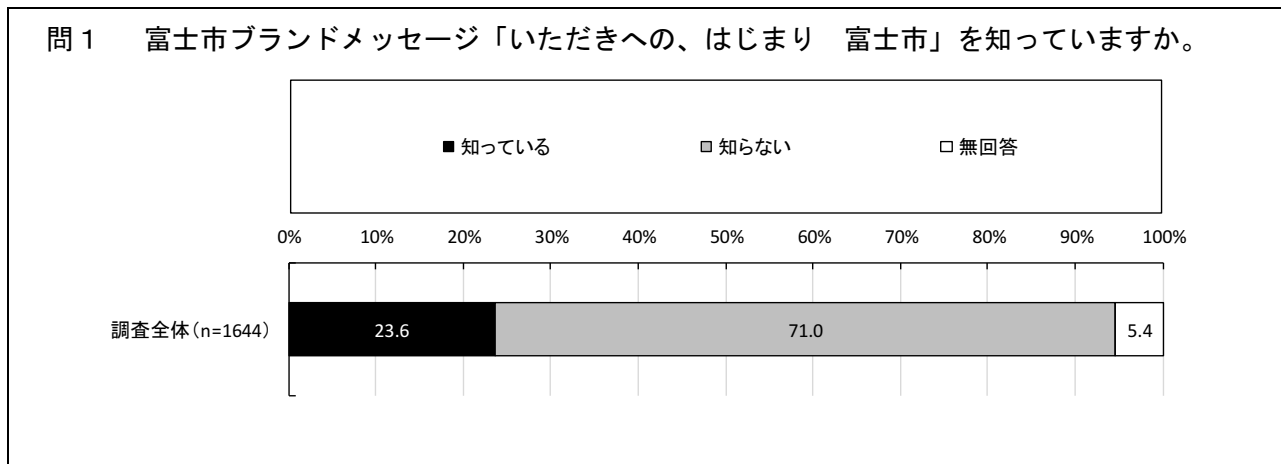


IV 調査結果

「ブランドメッセージ」について

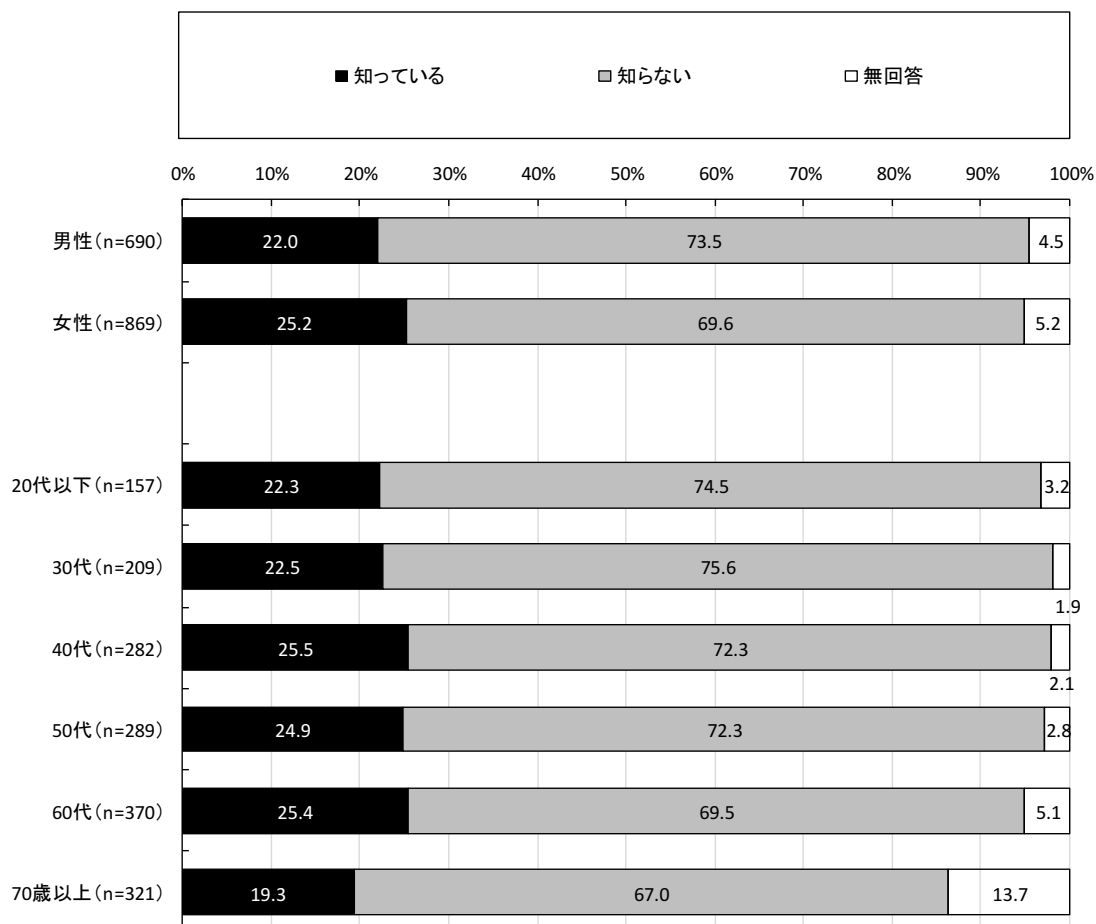
(1) ブランドメッセージの認知度



富士市のブランドメッセージの認知度について尋ねたところ、「知っている」は23.6%、「知らない」は71.0%となった。

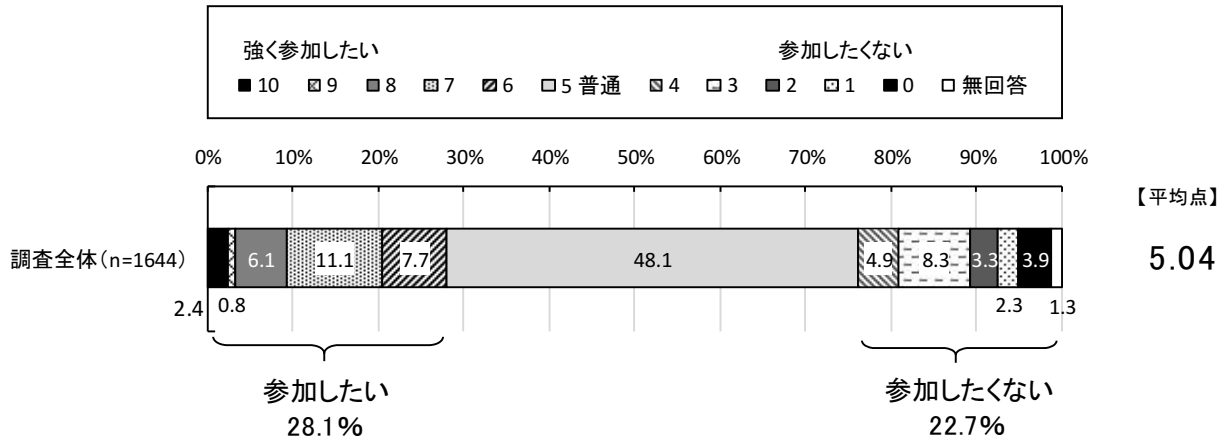
男女別に見ると、認知度は男性が22.0%、女性が25.2%で、女性のほうがやや高い結果となった。年代別に見ると、認知度は年代で大きな差は見られないが、40代～60代で25%前後とやや高く、20代、30代、70歳以上ではやや低い傾向となった。

【性別・年代別】



(2) 地域活動の参加意向 (10点評価)

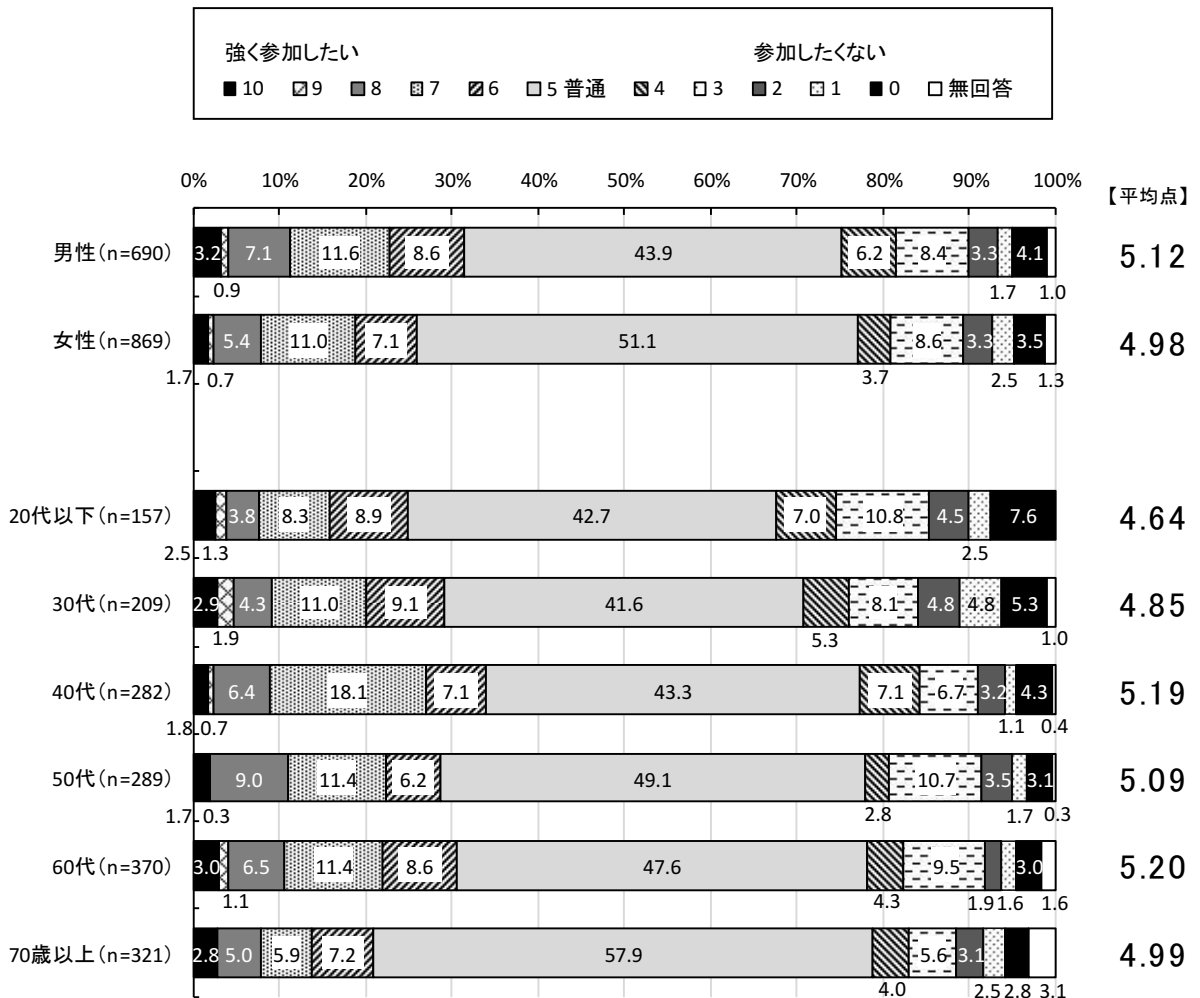
問2 あなたは、地域(まち)をよくする活動に、どの程度の気持ちで参加したいと思いますか。次の気持ちを表した数字(10から0まで)から1つだけ選んで○をつけてください。



地域活動の参加について尋ねたところ、「10～6」の“参加したい”割合が28.1%、「4～0」の“参加したくない”割合が22.7%で、平均点は5.04となっている。

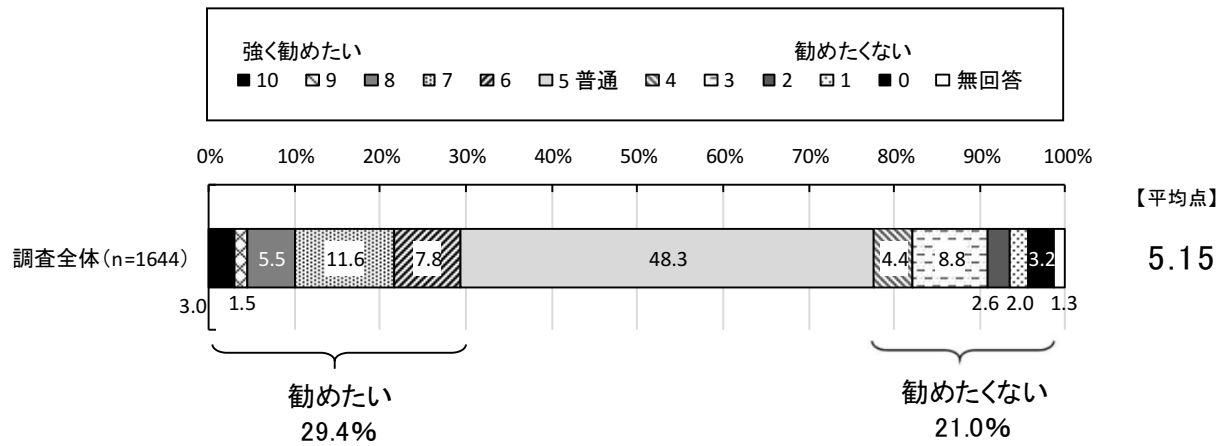
男女別に見ると、“参加したい”は女性より男性が高く、平均点も男性5.12、女性4.98となった。年代別に見ると、40代が最も参加意向が高く、“参加したい”割合が34.1%、平均点は5.19となった。

【性別・年代別】



(3) 地域の魅力の推奨度 (10点評価)

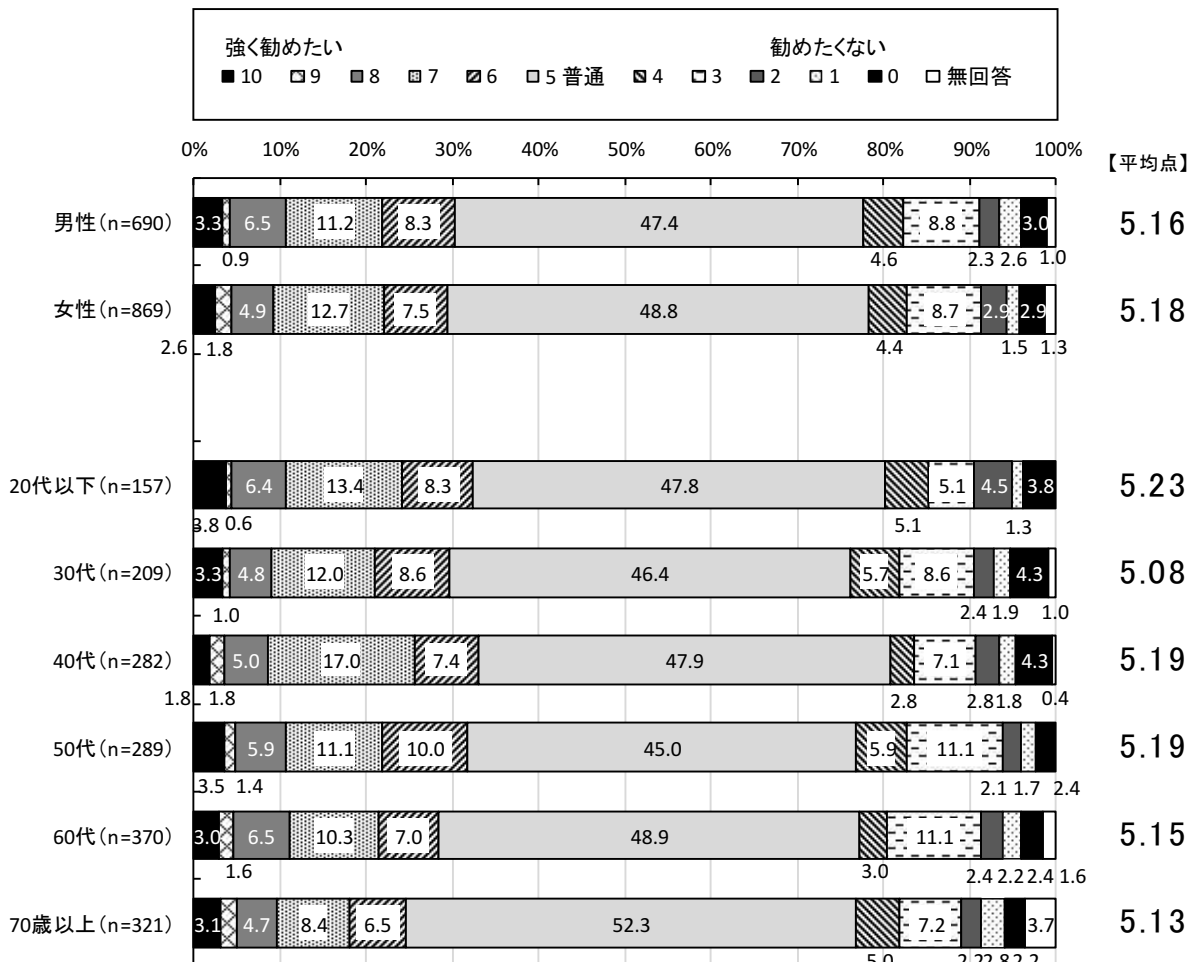
問3 あなたは、地域(まち)の魅力を、どの程度の気持ちで友人にお勧めしたいと思いますか。
次の気持ちを表した数字(10から0まで)から1つだけ選んで○をつけてください。



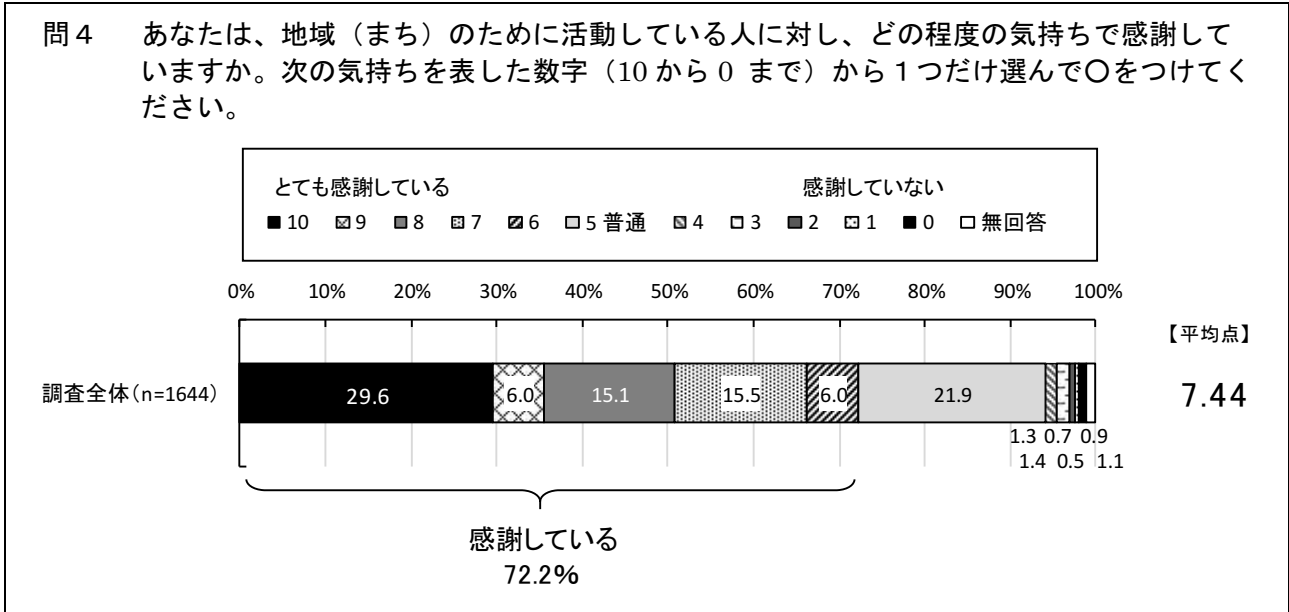
地域の魅力を友人に勧めたいかについて尋ねたところ、「10~6」の“勧めたい”割合が29.4%、「4~0」の“勧めたくない”割合が21.0%で、平均点は5.15となっている。

男女別に見ると、平均点は男性で5.16、女性で5.18と大きな差は見られなかった。
年代別に見ると、20代以下の平均点が5.23と最も高かった。

【性別・年代別】



(4) 地域活動をしている人への感謝度 (10 点評価)

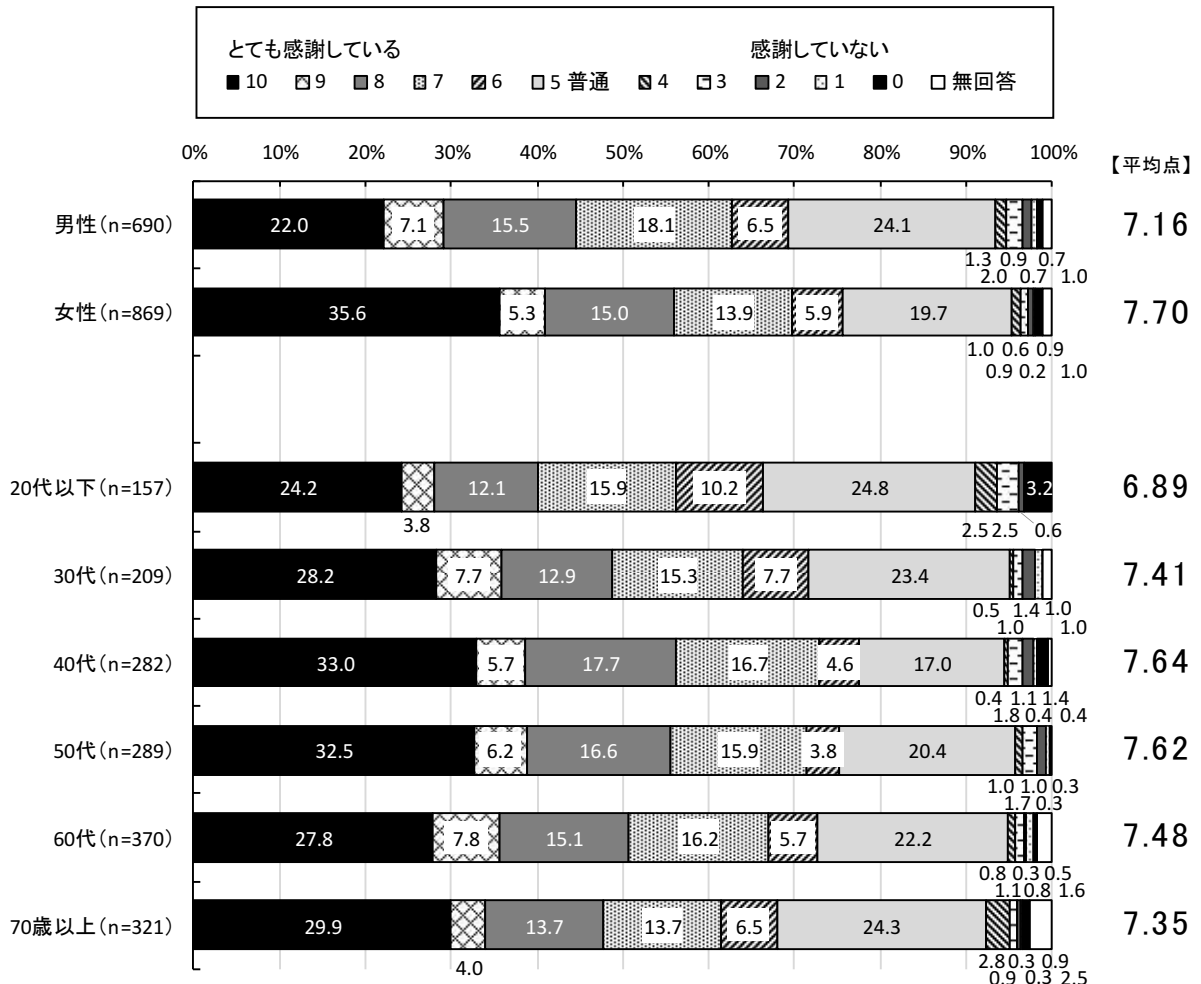


地域活動をしている人への感謝度について尋ねたところ、「10 とても感謝している」が 29.6%と最も高く、「10～6」の“感謝している”割合は 72.2%を占め、平均点は 7.44 となっている。

男女別に見ると、「10 とても感謝している」は男性で 22.0%、女性で 35.6%と男性より女性が高く、平均点も女性の点数が上回った。

年代別に見ると、30 代では平均点 7.64、40 代では平均点 7.62 と高くなっている。

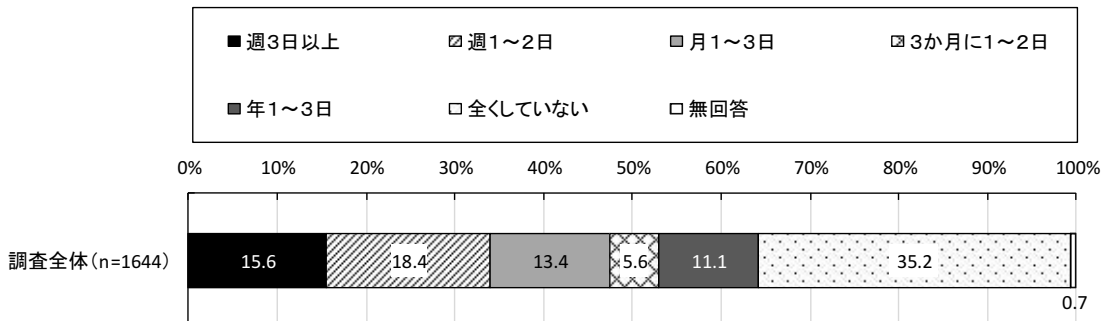
【性別・年代別】



「スポーツ」について

(1) 過去1年間の運動頻度

問5 あなたは、この1年間でスポーツや運動をどのくらいしましたか。次の中から1つだけ選んでください。(地区の体育祭やスポーツ教室への参加、ウォーキングなどを含む)

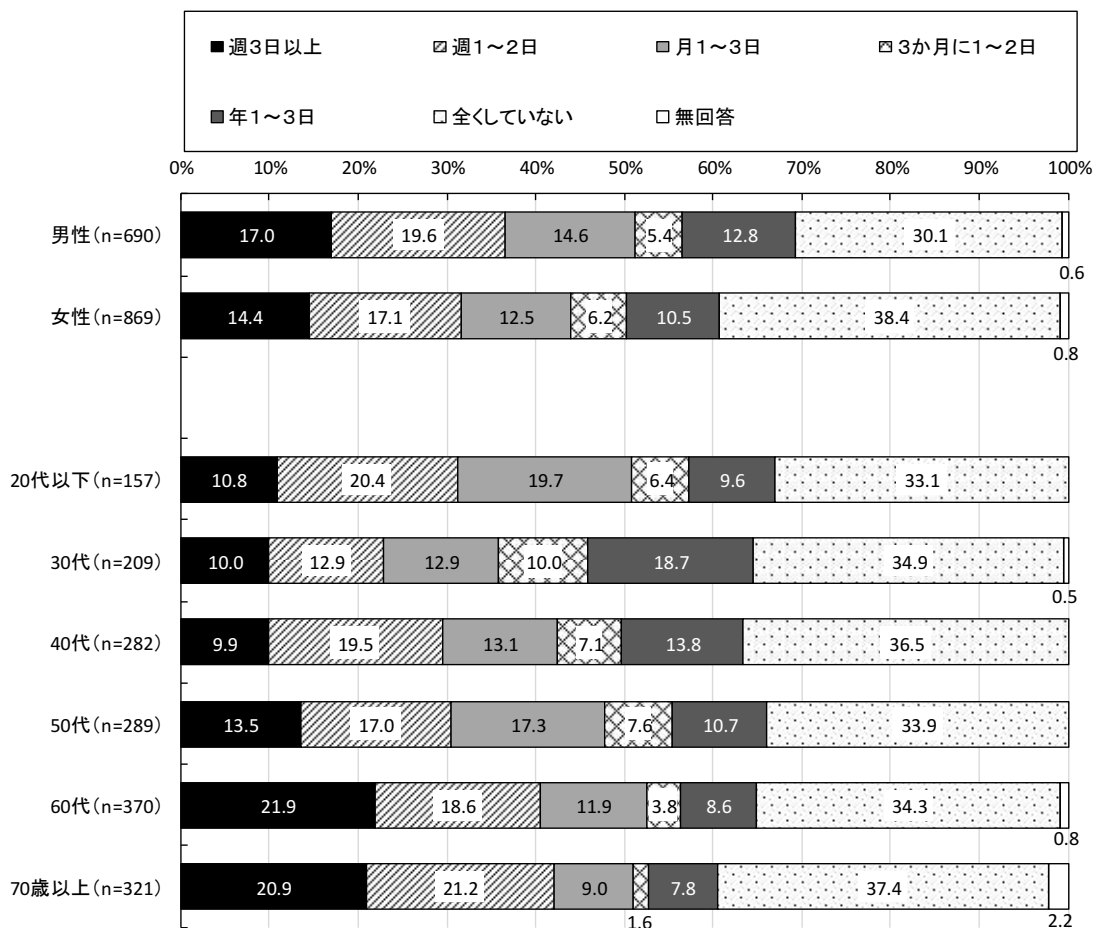


過去1年間の運動頻度について尋ねたところ、「週3日以上」が15.6%、「週1~2日」が18.4%で、“週1日以上”スポーツや運動をする人は34.0%となった。一方、「全くしていない」人は35.2%を占めた。

男女別に見ると、“週1日以上”の割合は、男性で36.6%、女性で31.5%であった。

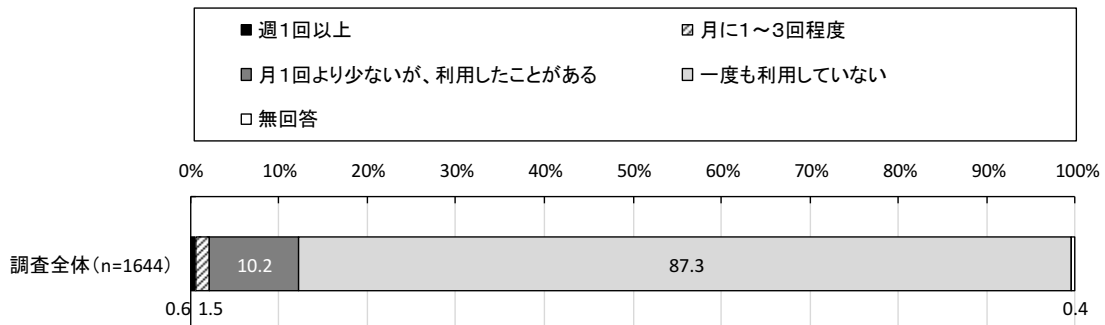
年代別に見ると、“週1日以上”の割合は、70歳以上で42.1%、60代で40.5%と高く、50代以下ではやや低い状況となった。一方、「全くしていない」はいずれの年代も3割強を占めている。

【性別・年代別】



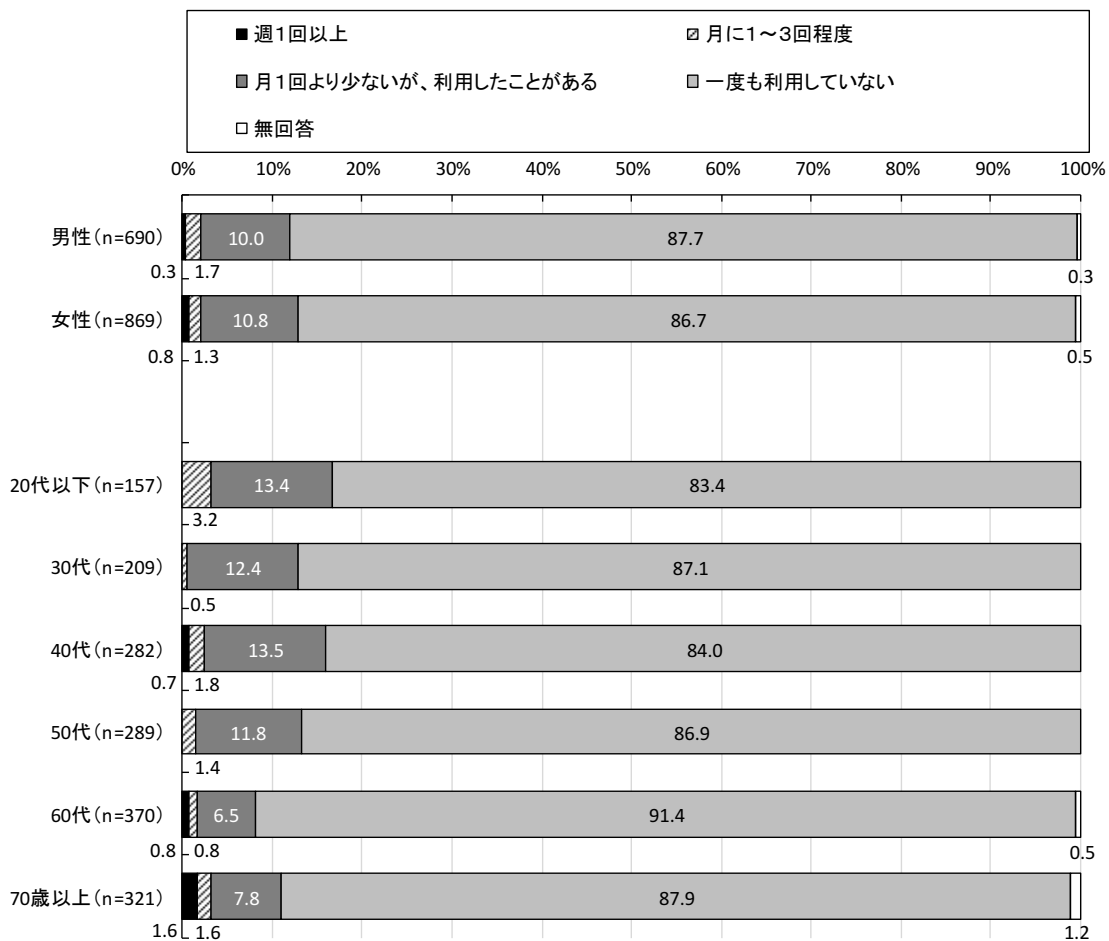
(2) 過去5年間の富士総合運動公園温水プール利用頻度

問6 あなたは、過去5年間で、富士総合運動公園温水プールをどのくらい利用しましたか。次の中から1つだけ選んでください。



過去5年間の富士総合運動公園温水プールの利用頻度について尋ねたところ、「週1回以上」が0.6%、「月に1~3回程度」が1.5%、「月1回より少ないが、利用したことがある」が10.2%となり、「過去5年間に利用した」割合は12.3%となっている。

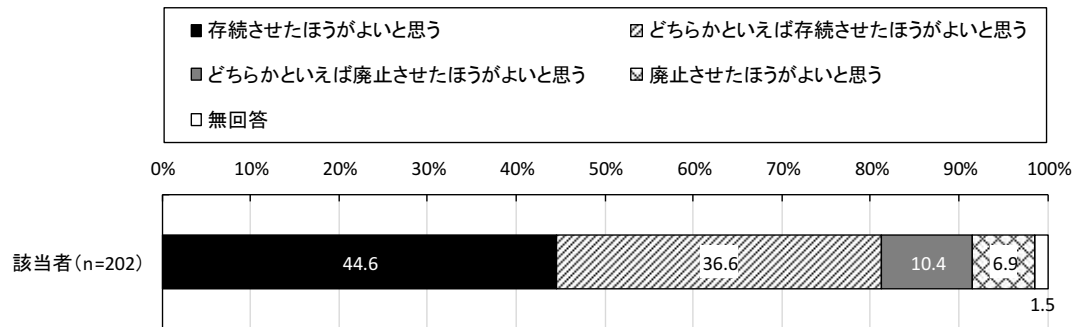
【性別・年代別】



(3) 富士総合運動公園温水プール存続について

〈問6で「1. 週1回以上」「2. 月に1～3回程度」「3. 月1回より少ないが、利用したことがある」と回答した方に伺います〉

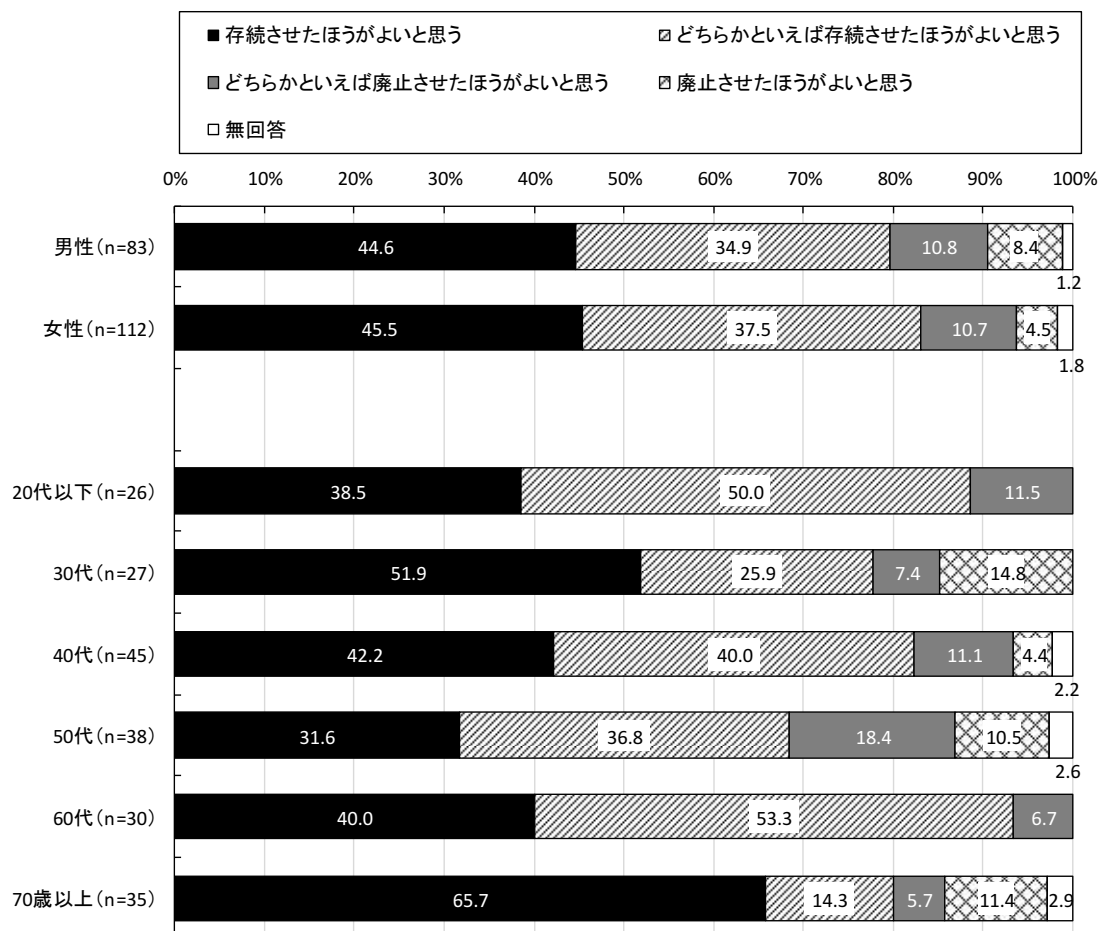
問7 あなたは、富士総合運動公園温水プールについて、どのように思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。



富士総合運動公園温水プール利用者に存続について尋ねたところ、「存続させたほうがよいと思う」が44.6%、「どちらかといえば存続させたほうがよいと思う」が36.6%で、“存続させたほうがよい”と回答した割合は81.2%を占めた。一方、「どちらかといえば廃止させたほうがよいと思う」「廃止させたほうがよいと思う」を合わせた“廃止させたほうがよい”と回答した割合は、17.3%となった。

年代別に見ると、「存続させたほうがよいと思う」は、70歳以上が65.7%と最も高く、次いで30代が51.9%となっている。

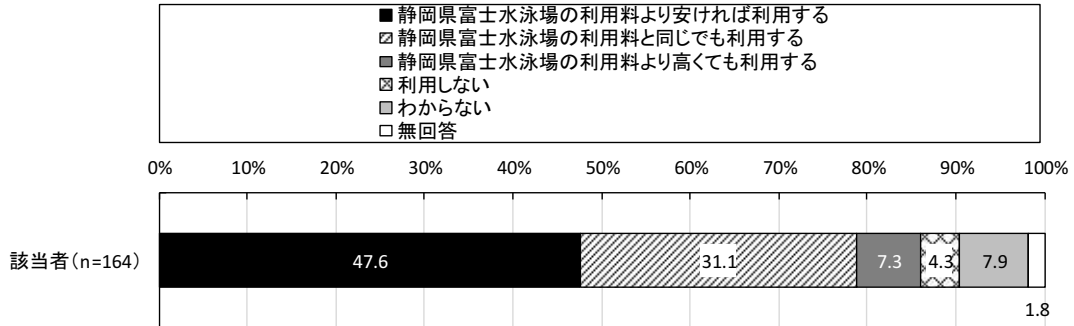
【性別・年代別】



(4) 富士総合運動公園温水プール利用料値上げ時の施設利用意向

〈問7で、富士総合運動公園温水プールを「1. 存続させたほうがよいと思う」「2. どちらかといえば存続させたほうがよいと思う」と回答した方に伺います〉

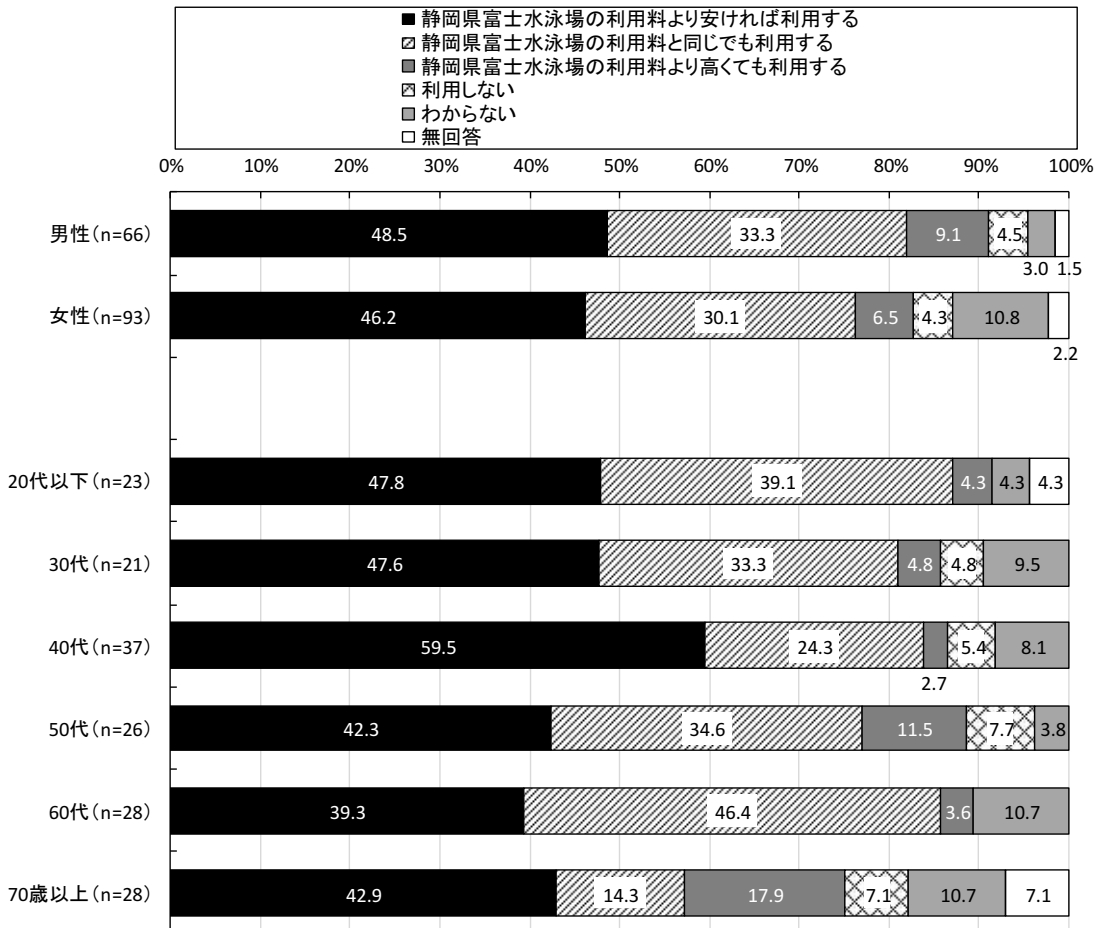
問8 新たな熱源設備の整備及び維持管理に関する費用を利用者に負担していただくために、利用料を値上げした場合、あなたはどのようにしますか。次の中から1つだけ選んでください。



富士総合運動公園温水プール利用者・存続希望者に利用料値上げ時の施設利用意向について尋ねたところ、「静岡県富士水泳場の利用料より安ければ利用する」が47.6%、「静岡県富士水泳場の利用料と同じでも利用する」が31.1%、「静岡県富士水泳場の利用料より高くても利用する」7.3%となり、「利用しない」は4.3%とわずかであった。

年代別に見ると、「静岡県富士水泳場の利用料より安ければ利用する」は40代が59.5%と最も高い。一方、60代では「静岡県富士水泳場の利用料と同じでも利用する」「静岡県富士水泳場の利用料より高くても利用する」の割合が50.0%を占め、510円以上の料金を許容する人の割合が最も高かった。

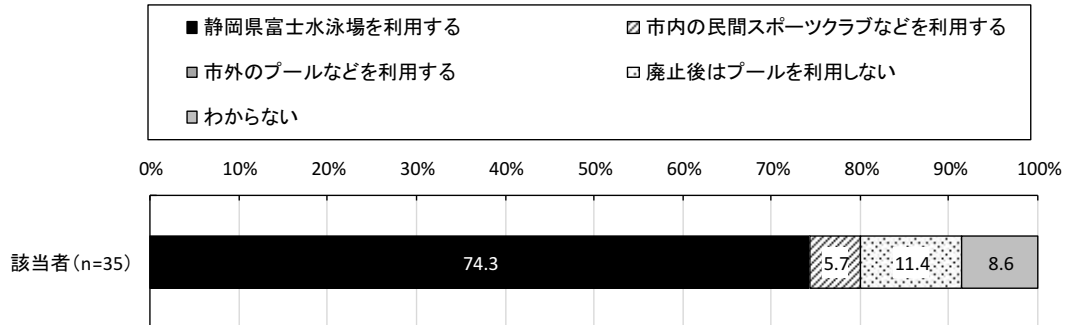
【性別・年代別】



(5) 富士総合運動公園温水プール廃止時のプール利用意向

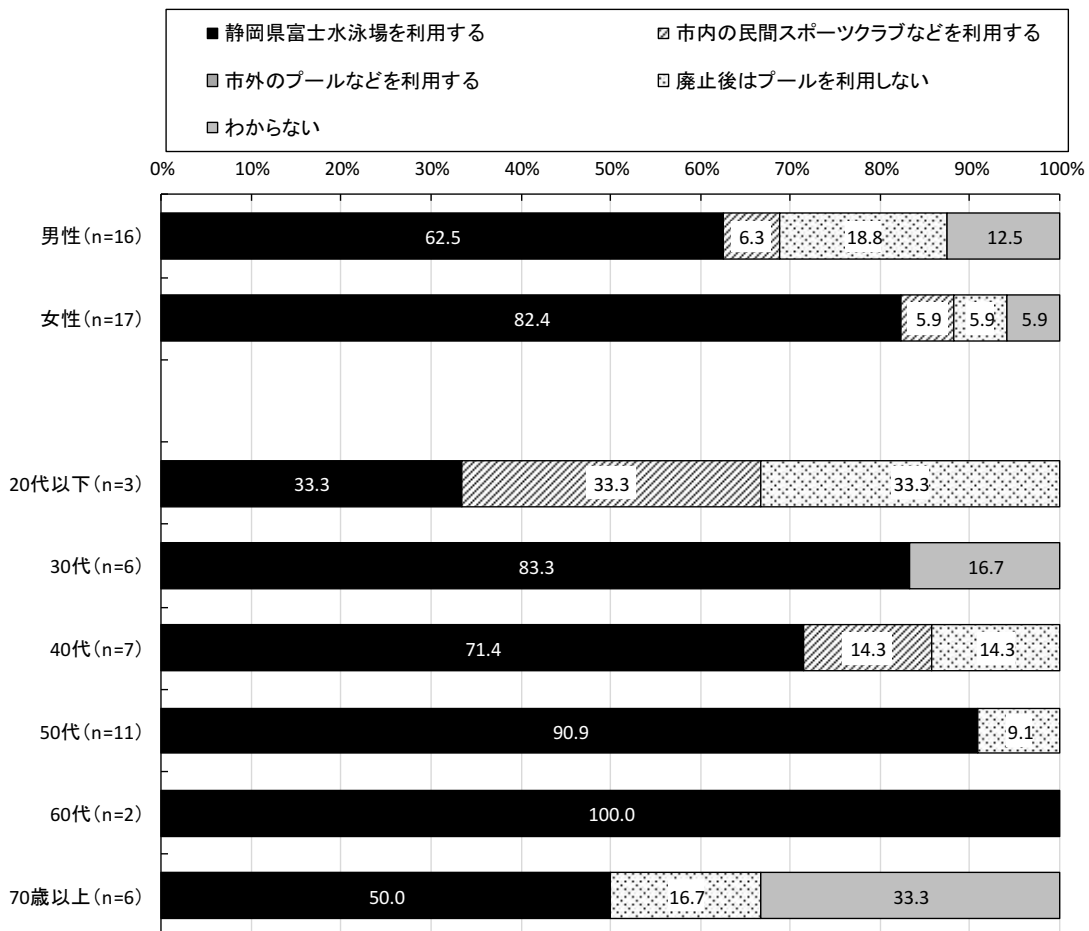
〈問7で、富士総合運動公園温水プールを「3. どちらかといえば廃止させたほうがよいと思う」「4. 廃止させたほうがよいと思う」と回答した方に伺います〉

問9 富士総合運動公園温水プールを廃止した場合、あなたはどのようにしますか。次の中から1つだけ選んでください。

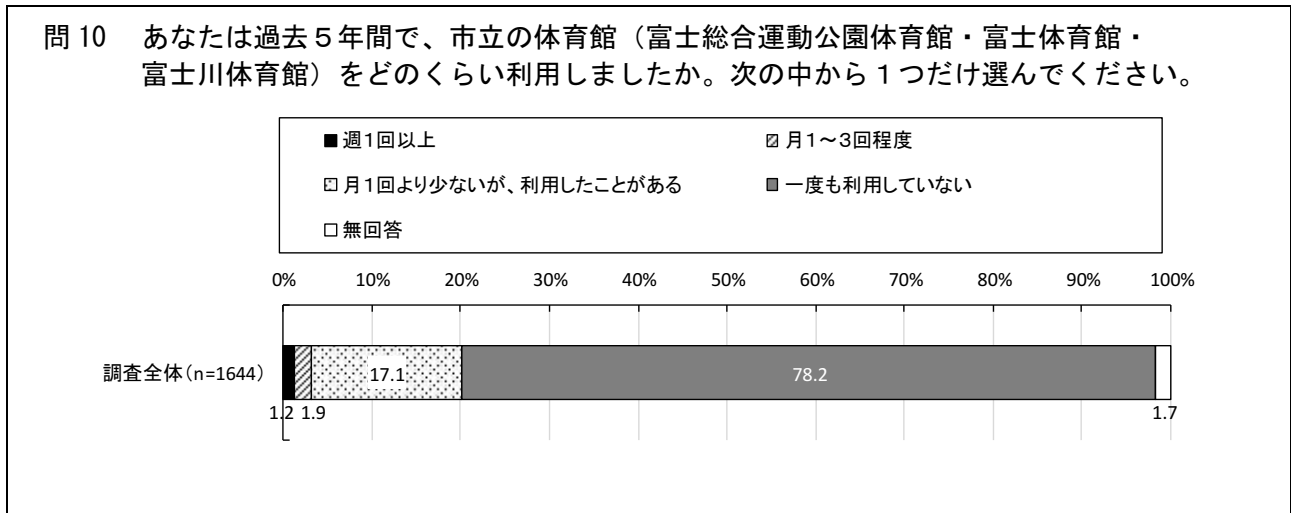


富士総合運動公園温水プール利用者・廃止希望者にプール利用意向について尋ねたところ、「静岡県富士水泳場を利用する」が74.3%、「市内の民間スポーツクラブなどを利用する」が5.7%となり、8割の人が市内の別の施設でプールを利用する意向であった。「廃止後はプールを利用しない」は11.4%に留まった。

【性別・年代別】



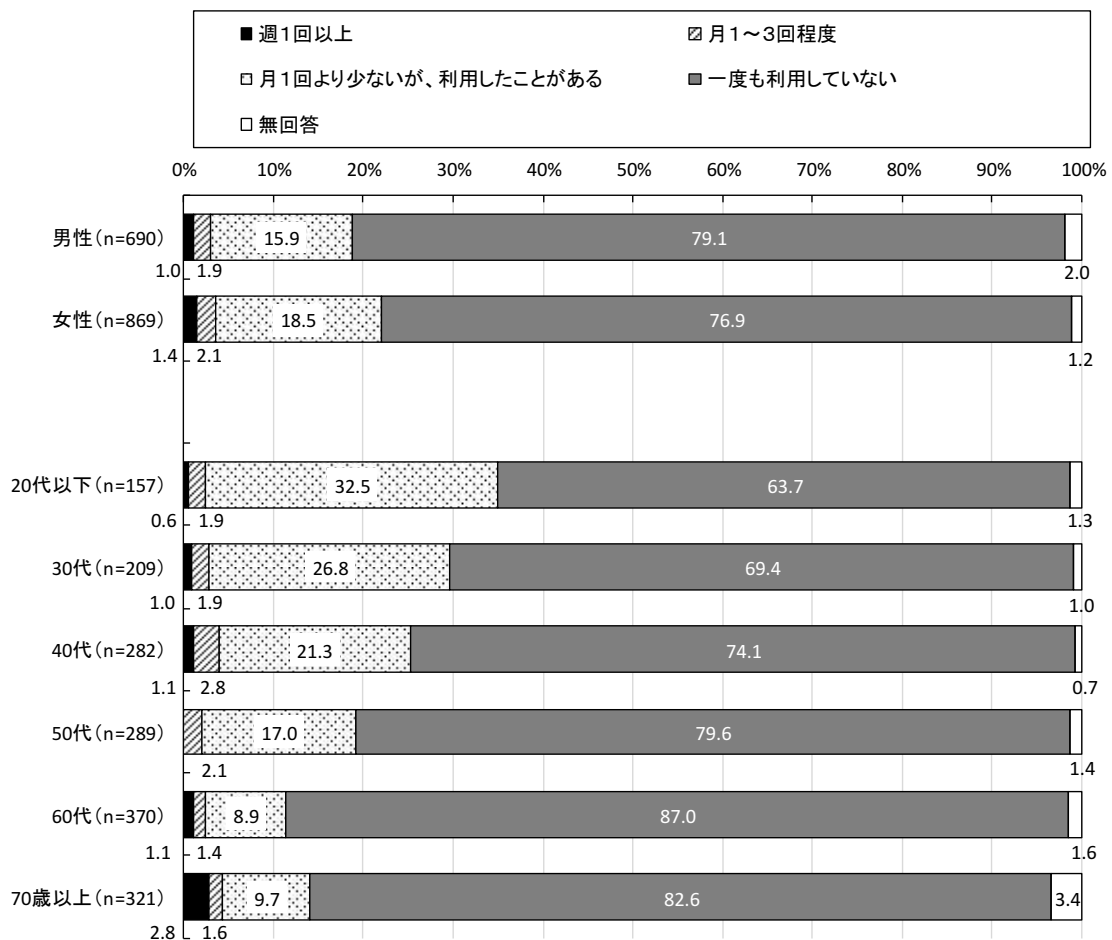
(6) 過去5年間の市立の体育館利用頻度



過去5年間の市立の体育館利用頻度について尋ねたところ、「週1回以上」が1.2%、「月1~3回程度」が1.9%、「月1回より少ないが、利用したことがある」が17.1%となり、“過去5年間に利用した”割合は20.2%となっている。

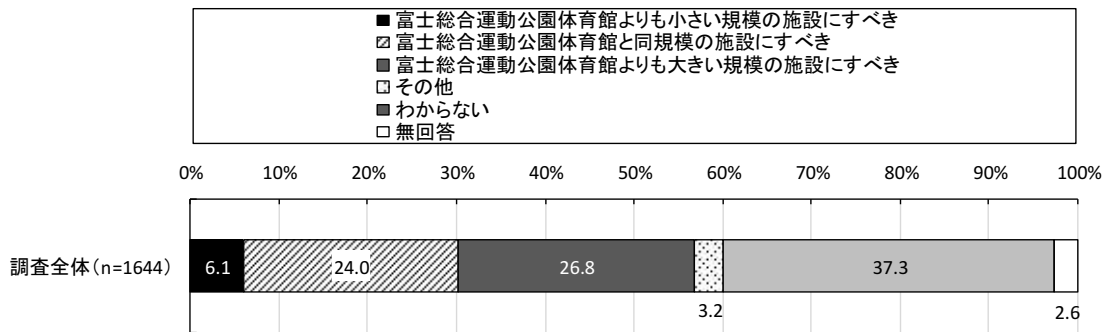
年代別に見ると、“過去5年間に利用した”割合は、20代以下で35.0%、30代で29.7%と、年代が若いほど高くなる傾向にある。

【性別・年代別】



(7) 新たな総合体育館の施設規模について

問 11 新たな総合体育館の施設規模について、あなたはどのように考えますか。
次の中から1つだけ選んでください。

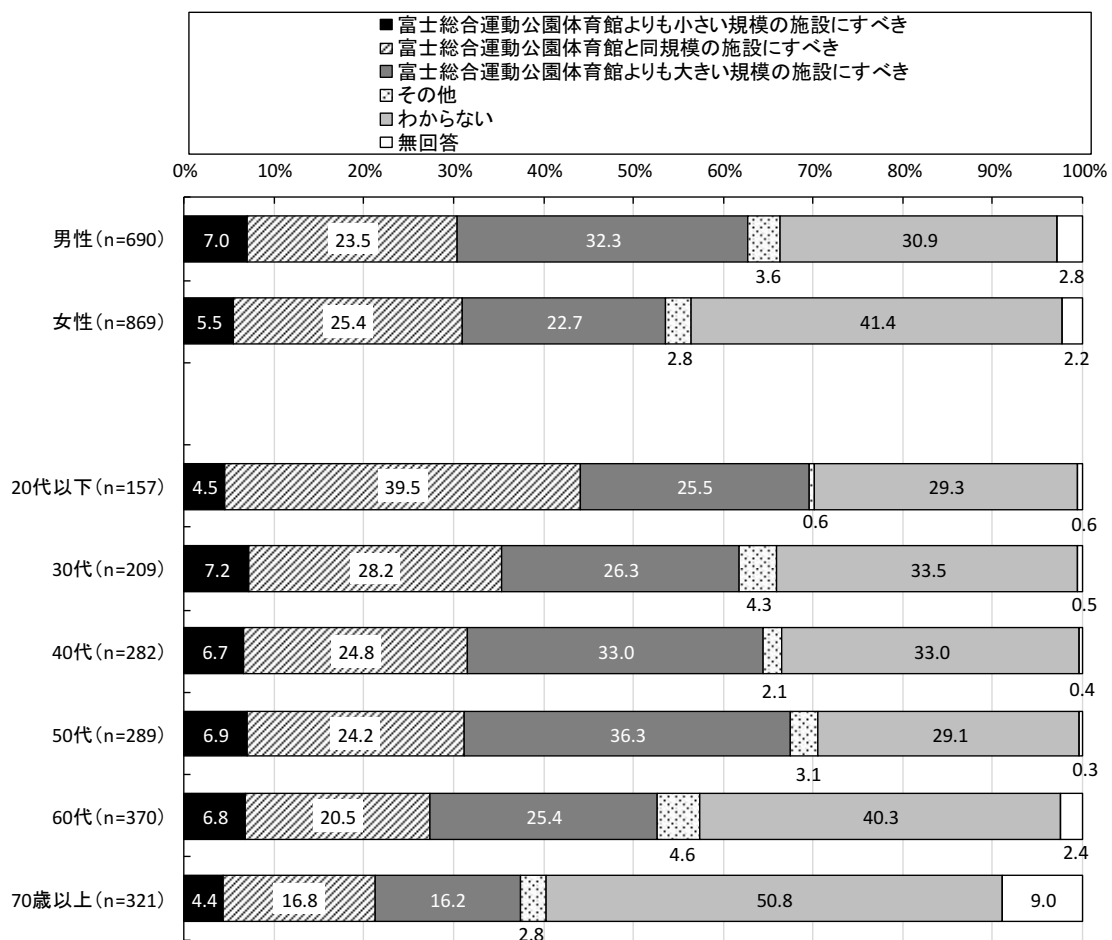


新たな総合体育館の施設規模について尋ねたところ、「わからない」が最も高く 37.3%を占めているが、「富士総合運動公園体育館よりも大きい規模の施設にすべき」が 26.8%、「同規模の施設にすべき」が 24.0%と、この2つが拮抗している。「小さい規模の施設にすべき」は 6.1%に留まった。

年代別に見ると、20代以下、30代の若年層は「富士総合運動公園体育館と同規模の施設にすべき」の割合が高く、40代、50代は「大きい規模の施設にすべき」の割合が高くなっている。

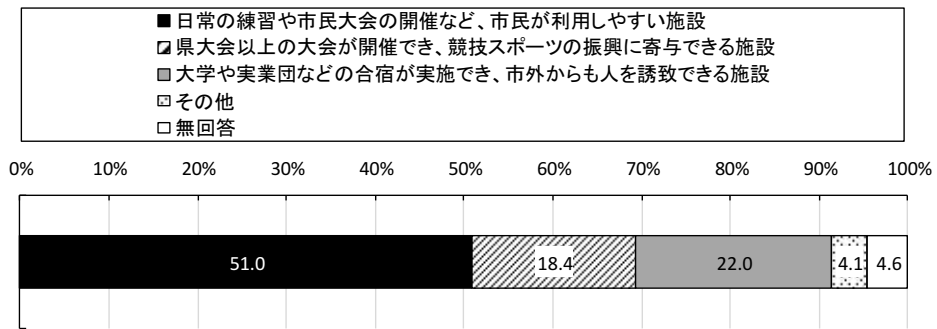
また、女性及び、60代、70歳以上では「わからない」と回答した割合が4～5割を占めた。

【性別・年代別】



(8) 新たな総合体育館の基本コンセプトの重視点について

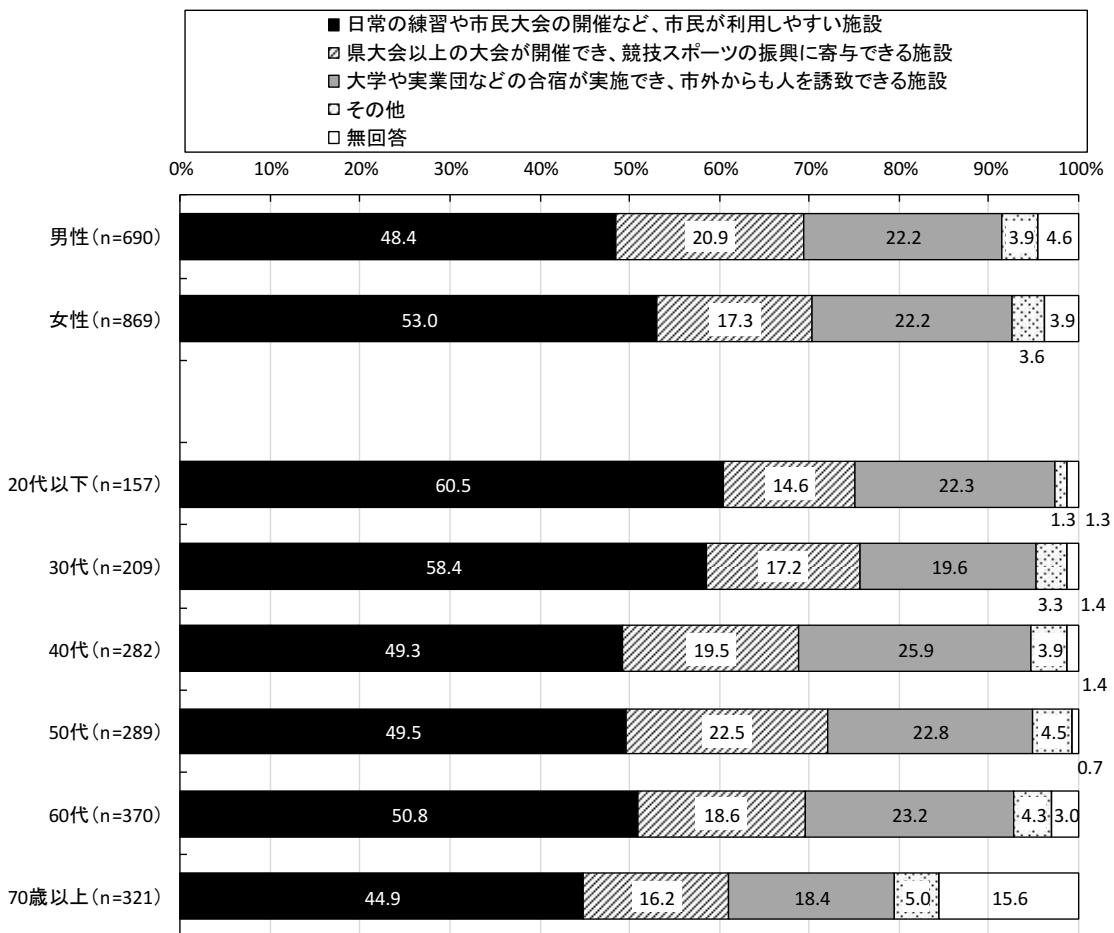
問 12 新たな総合体育館の基本コンセプトとして、あなたが最も重視するものを次の中から1つだけ選んでください。



新たな総合体育館の基本コンセプトの重視点について尋ねたところ、「日常の練習や市民大会の開催など、市民が利用しやすい施設」が51.0%を占めた。一方、「大学や実業団などの合宿が実施でき、市外からも人を誘致できる施設」は22.0%、「県大会以上の大会が開催でき、競技スポーツの振興に寄与できる施設」は18.4%で、市外からの誘客を視野に入れた施設を重視する割合は40.4%となった。

年代別に見ると、20代以下、30代の若年層は「市民が利用しやすい施設」を重視する割合が約6割を占める。一方、40代～60代では、「市民が利用しやすい施設」を重視する割合が5割を占めるが、「競技スポーツの振興」「合宿による誘致」といった市外からの誘客を視野に入れた施設を重視する割合も高い傾向が見られた。

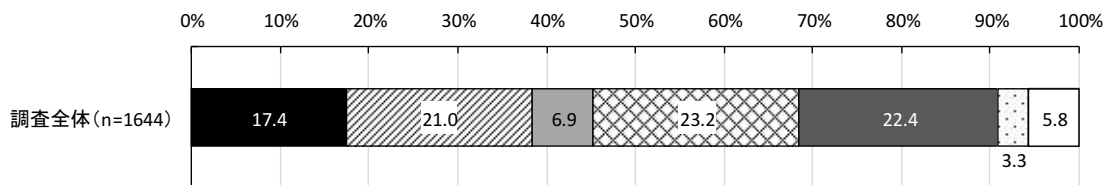
【性別・年代別】



(9) 新たな総合体育館に求める施設の内容について

問 13 新たな総合体育館に求める施設の内容について、あなたが最も必要だと思うものを次の中から1つだけ選んでください。

- 大きな大会が開催できる広さのメインアリーナを備えた施設
- ▨ 大会や合宿利用時でも、市民が日常の練習などを行えるサブアリーナを備えた施設
- ▩ 剣道や柔道の公式試合や稽古ができる武道場を併設した施設
- スポーツ以外でも集客ができるレストランや売店などを併設した施設
- 市民が日常のスポーツ活動を行うことができる必要最小限の施設
- その他
- 無回答

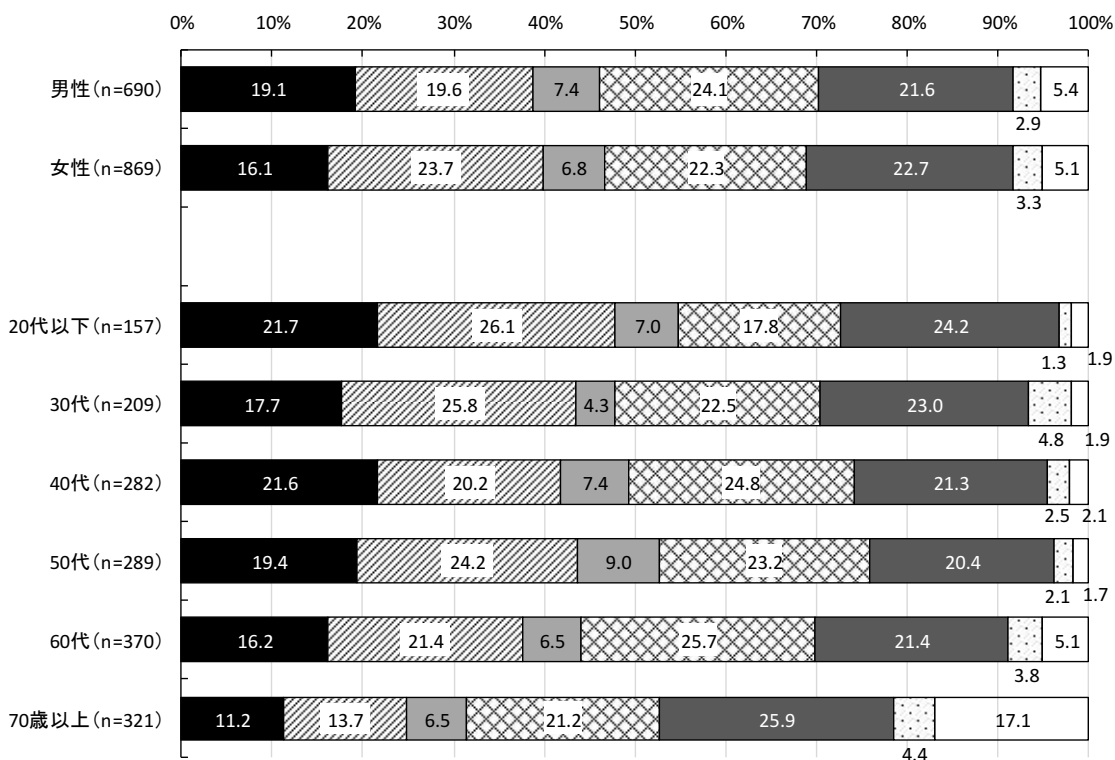


新たな総合体育館に求める施設の内容について尋ねたところ、「スポーツ以外でも集客ができるレストランや売店などを併設した施設」23.2%、「市民が日常のスポーツ活動を行うことができる必要最小限の施設」22.4%、「大会や合宿利用時でも、市民が日常の練習などを行えるサブアリーナを備えた施設」21.0%が上位となった。

年代別に見ると、「レストランや売店などを併設した施設」は40代～60代で、「日常のスポーツ活動を行うことができる必要最小限の施設」は70歳以上で、「サブアリーナを備えた施設」は20代以下と30代で、高い傾向となっている。

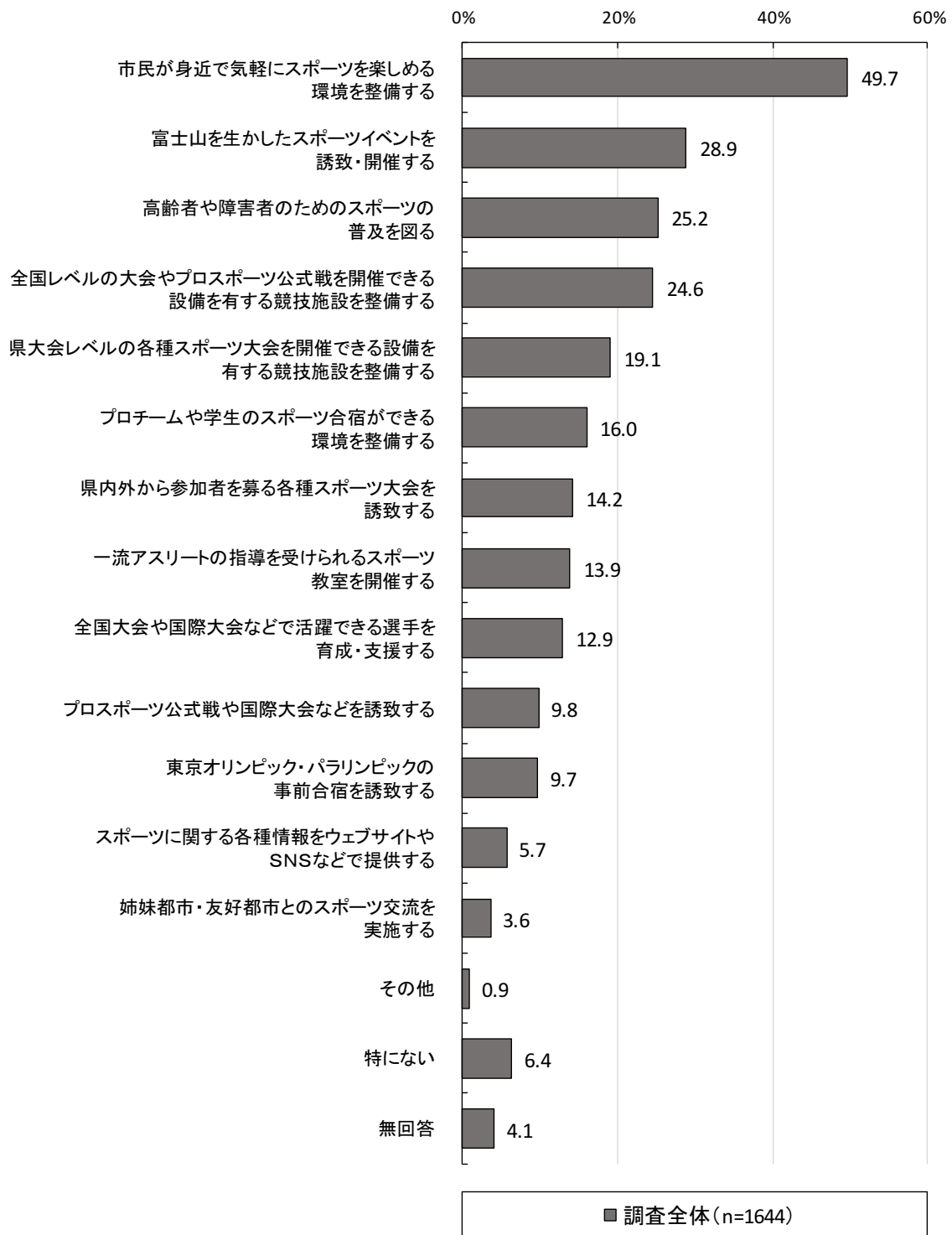
【性別・年代別】

- 大きな大会が開催できる広さのメインアリーナを備えた施設
- ▨ 大会や合宿利用時でも、市民が日常の練習などを行えるサブアリーナを備えた施設
- ▩ 剣道や柔道の公式試合や稽古ができる武道場を併設した施設
- スポーツ以外でも集客ができるレストランや売店などを併設した施設
- 市民が日常のスポーツ活動を行うことができる必要最小限の施設
- その他
- 無回答



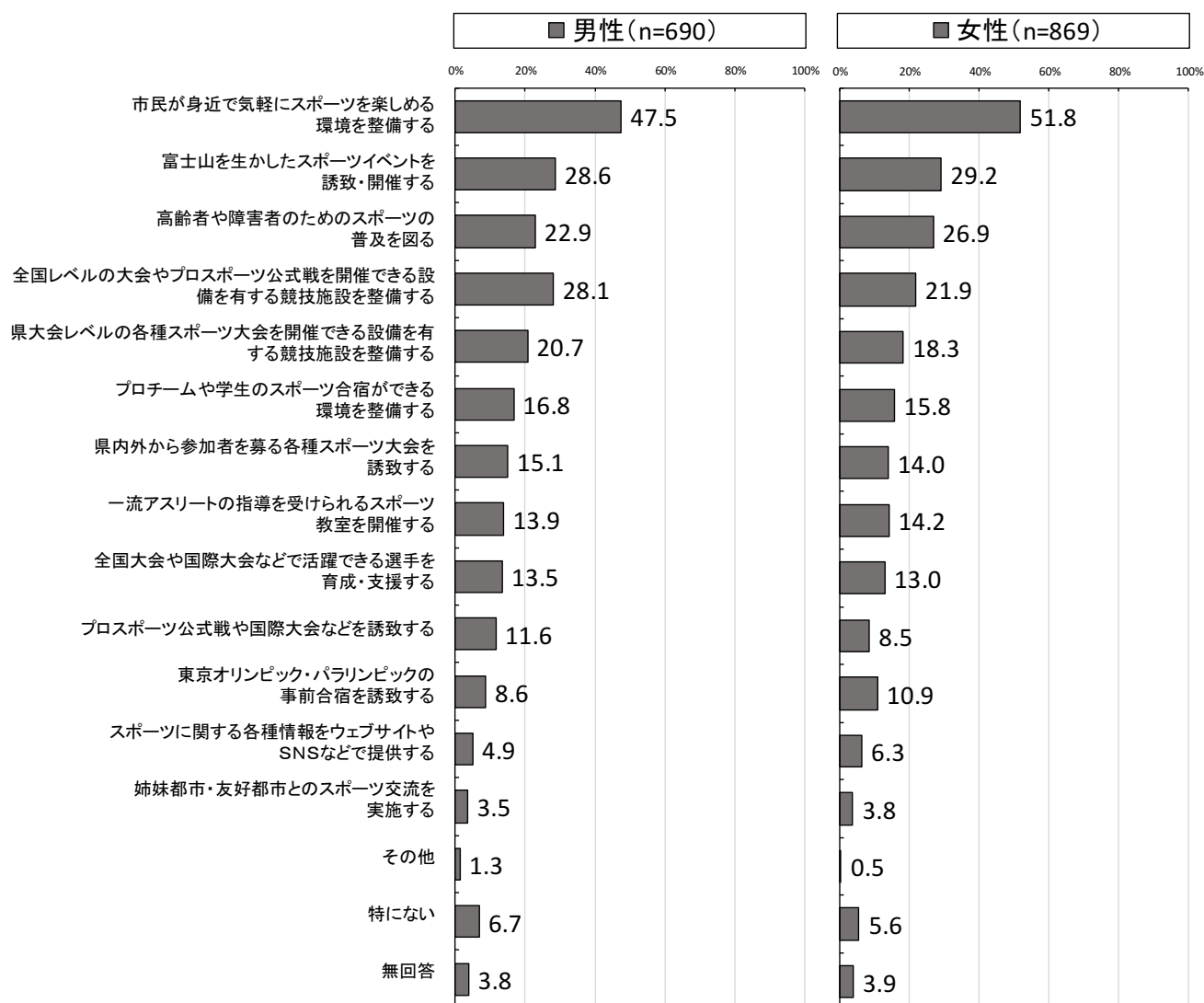
(10) 今後必要なスポーツ推進施策について

問 14 今後、富士市がスポーツを通じて市の活性化（観光交流を含む）を図っていくために、どのようなスポーツ推進施策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。（M. A.）



今後必要なスポーツ推進施策について尋ねたところ、「市民が身近で気軽にスポーツを楽しめる環境を整備する」が49.7%と最も高く、他の項目を圧倒している。次いで「富士山を生かしたスポーツイベントを誘致・開催する」28.9%、「高齢者や障害者のためのスポーツの普及を図る」25.2%、「全国レベルの大会やプロスポーツ公式戦を開催できる施設を有する競技施設を整備する」24.6%が上位となった。

【性別】

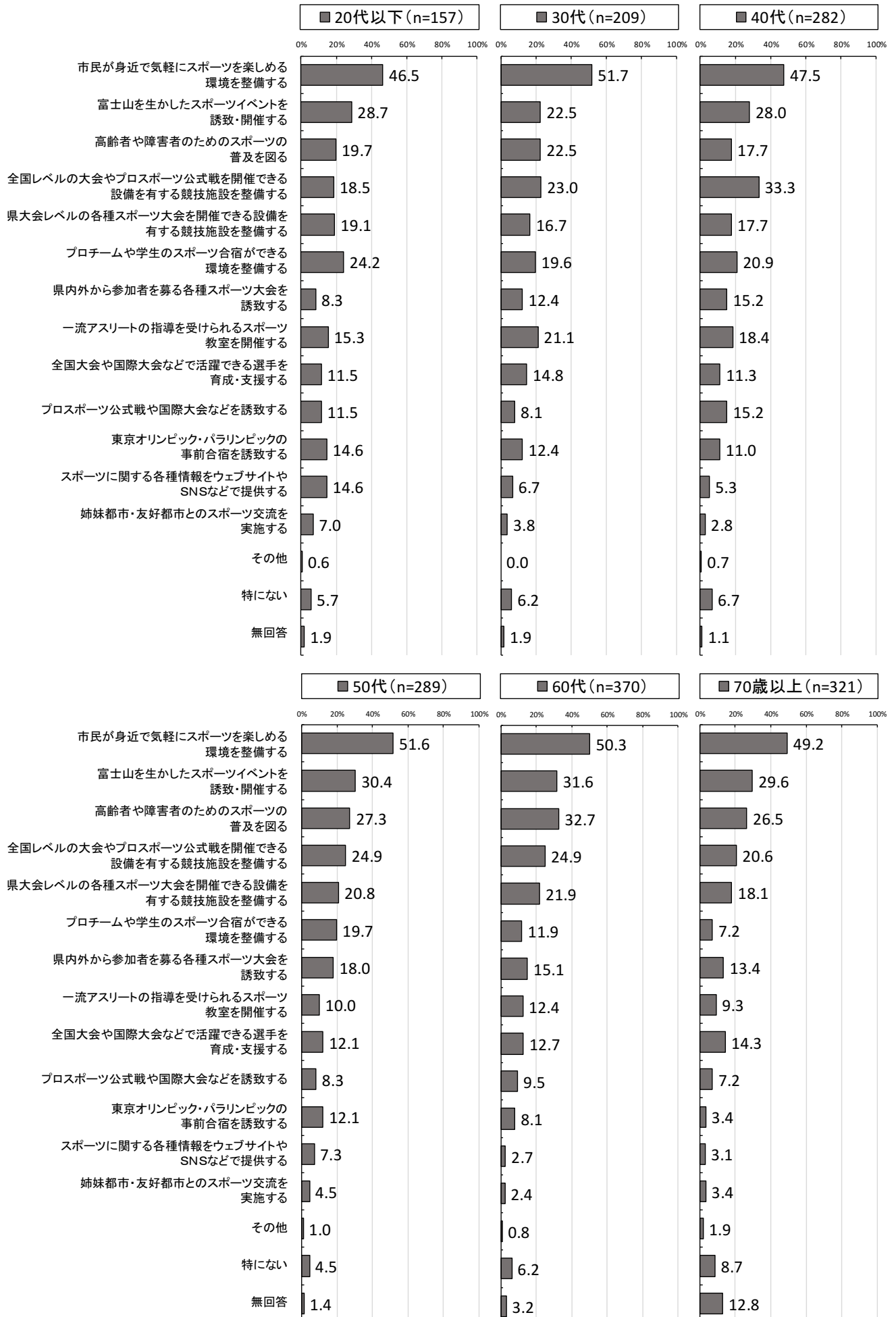


男女別に見ると、上位2項目に加えて、男性は「全国レベルの大会やプロスポーツ公式戦を開催できる設備を有する競技施設を整備する」が28.1%、女性は「高齢者や障害者のためのスポーツの普及を図る」が26.9%と高いのが特徴である。

年代別で見ると、40代は「全国レベルの大会やプロスポーツ公式戦を開催できる設備を有する競技施設を整備する」が33.3%、20代以下は「プロチームや学生のスポーツ合宿ができる環境を整備する」が24.2%と高くなっている。

IV 調査結果

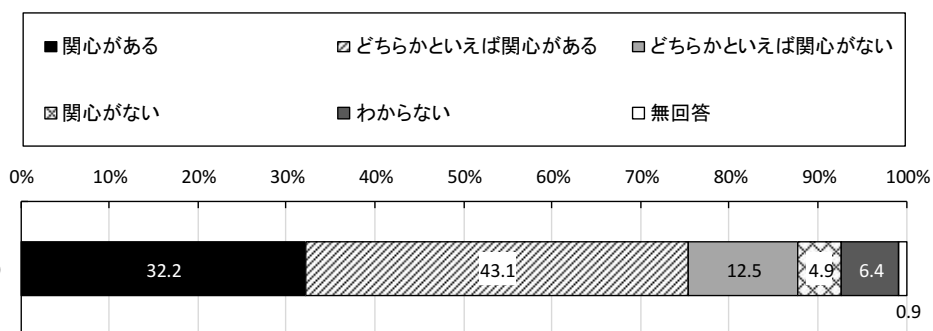
【年代別】



「食育」について

(1) 「食育」への関心度

問 16 あなたは、「食育」に関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

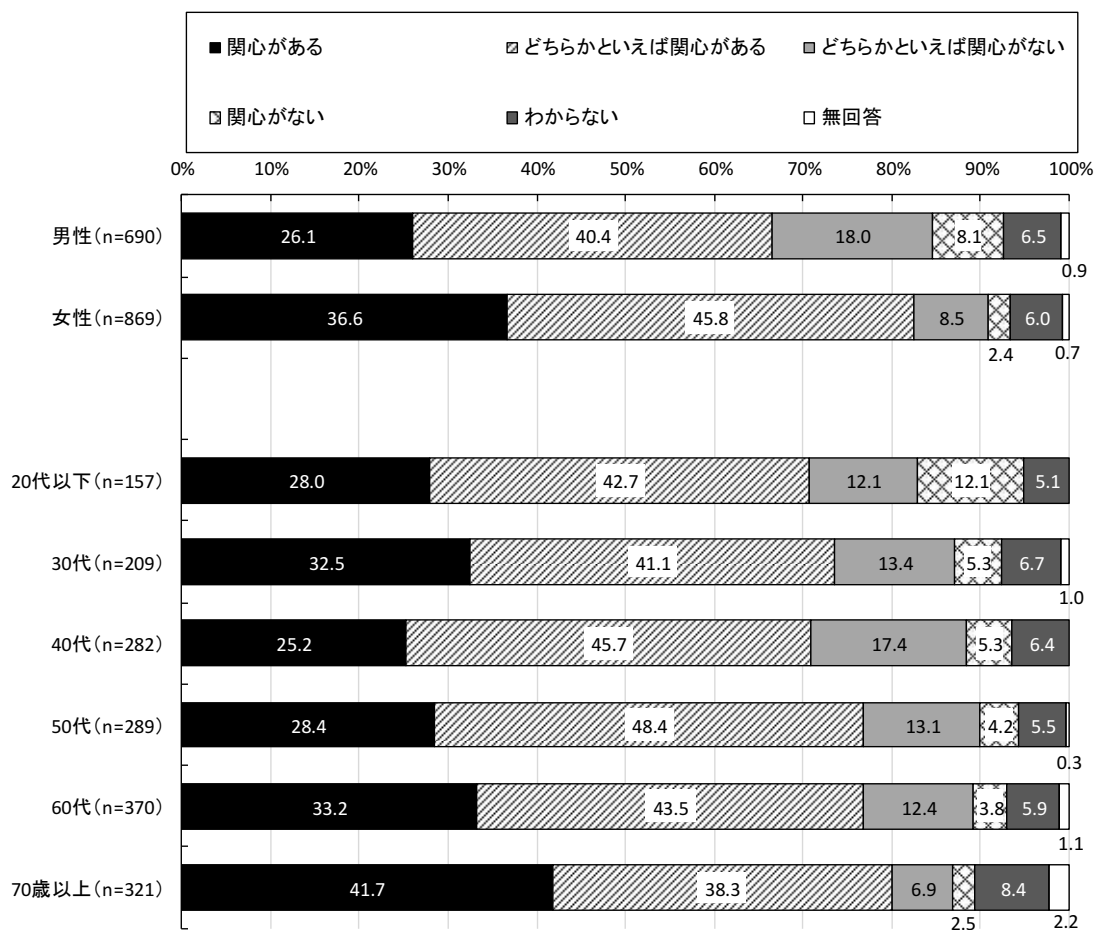


「食育」への関心度について尋ねたところ、「関心がある」が32.2%、「どちらかといえば関心がある」が43.1%となり、あわせると“「食育」に関心あり”と回答した割合は75.3%を占めた。

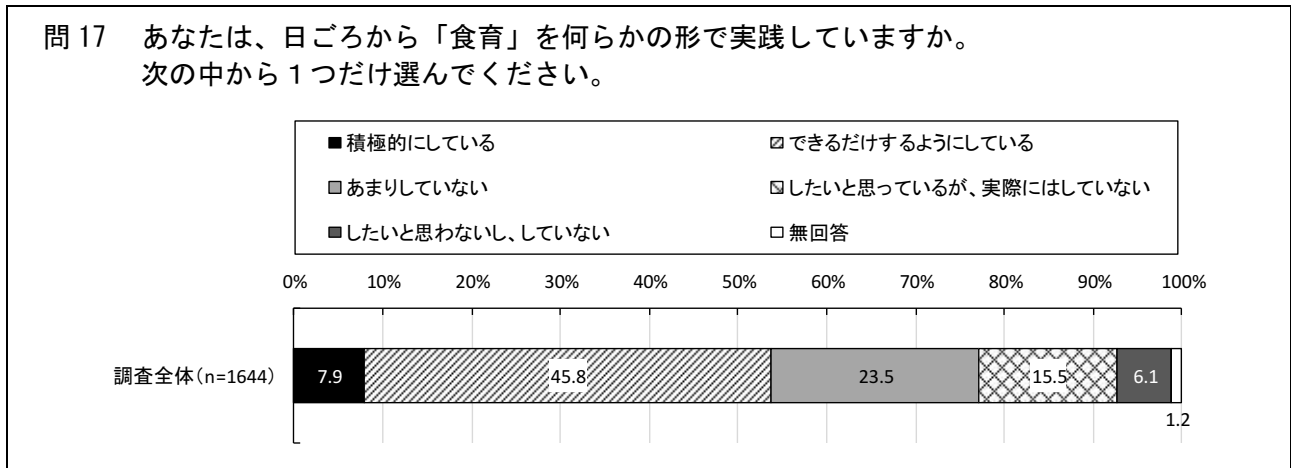
男女別に見ると、“関心あり”の割合は、男性が66.5%、女性が82.4%となっている。

年代別に見ると、「食育」への関心度は70歳以上で最も高く、「関心がある」は41.7%、「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心あり”の割合は80.0%を占めた。一方で、20代以下と40代は「食育」への関心度が低く、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心あり”の割合は、いずれも7割程度にとどまった。

【性別・年代別】



(2) 「食育」の実践度

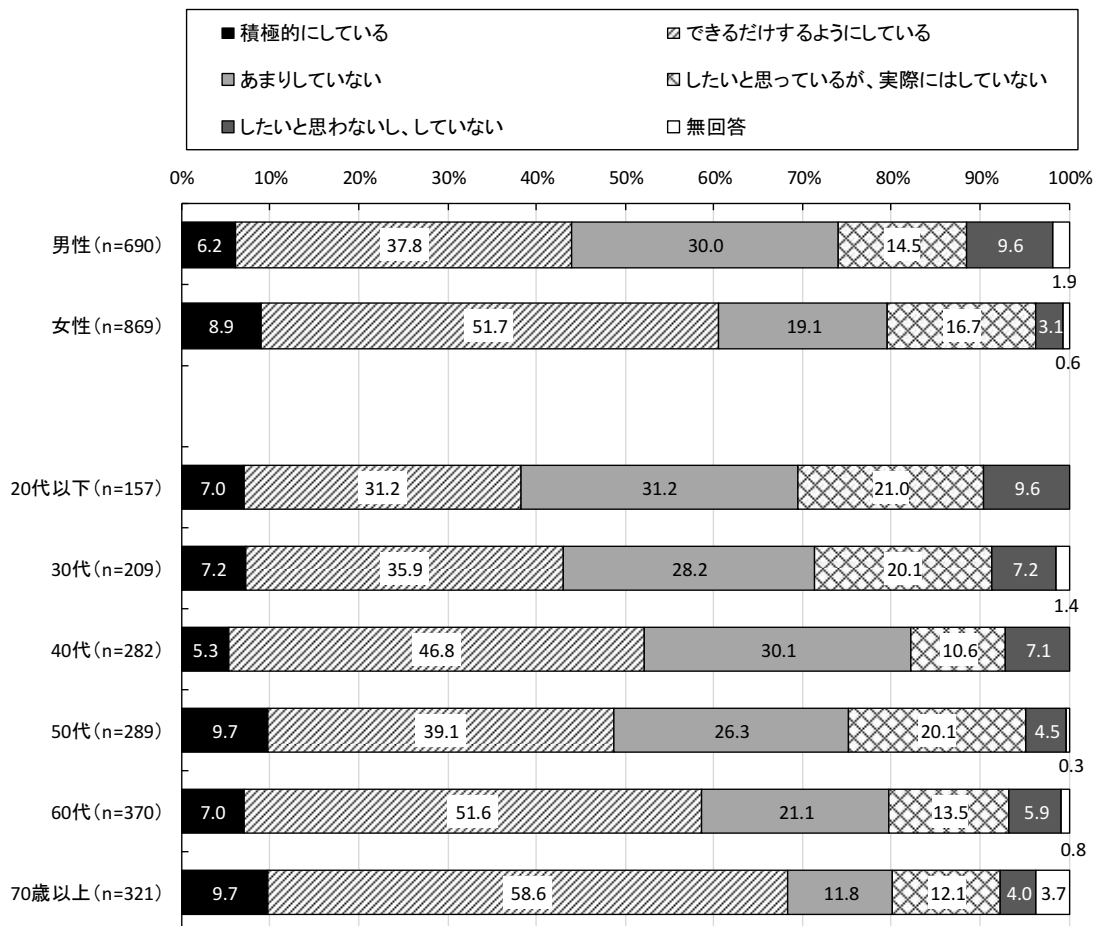


「食育」の実践度について尋ねたところ、「積極的にしている」が7.9%、「できるだけするようにしている」が45.8%で、“実践している”人は53.7%となっている。一方、「あまりしていない」は23.5%、「したいと思っているが、実際にはしていない」は15.5%、「したいと思わないし、していない」は6.1%となった。

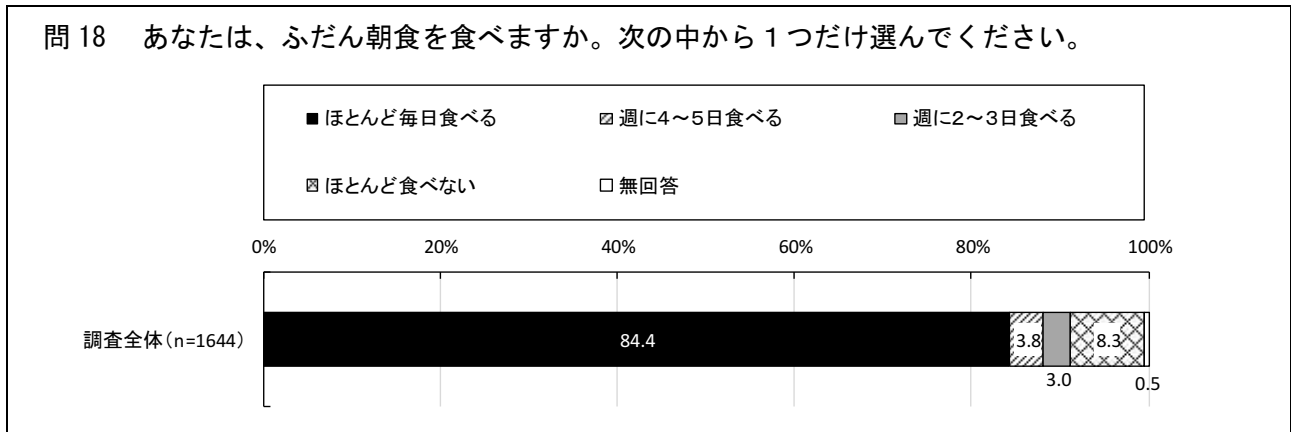
男女別に見ると、「積極的にしている」「できるだけするようにしている」を合わせた“実践している”人は、男性で44.0%、女性で60.6%となっている。

年代別に見ると、「できるだけするようにしている」割合が年代を追うごとに高くなる傾向にある。

【性別・年代別】



(3) 朝食摂取頻度

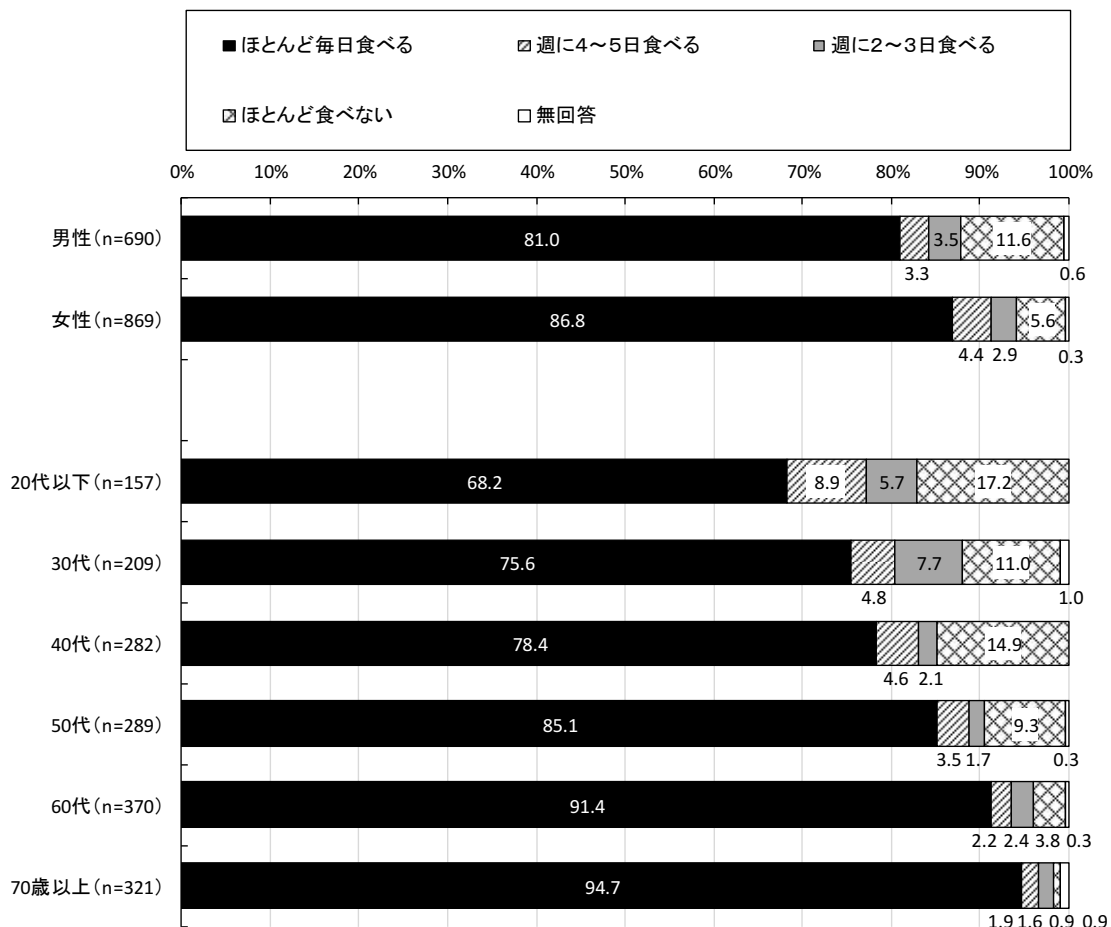


朝食摂取頻度について尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」は84.4%、「週に4~5日食べる」は3.8%となった。一方、「ほとんど食べない」割合(=欠食率)は8.3%だった。

男女別に見ると、「ほとんど毎日食べる」割合は男性で81.0%、女性で86.8%、「ほとんど食べない」割合は、男性で11.6%、女性で5.6%と、男性の朝食摂取割合が低い状況にある。

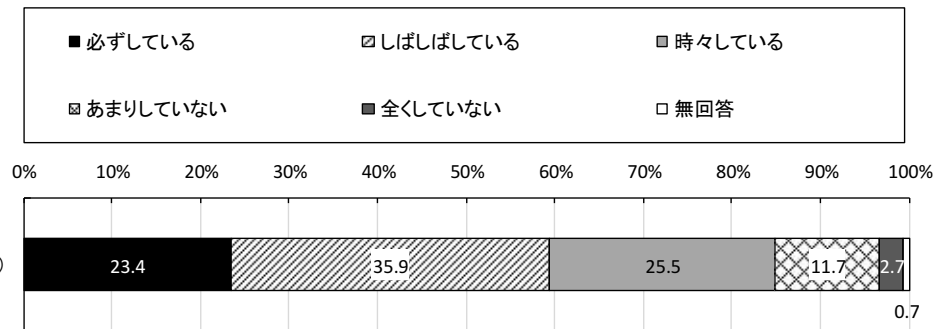
年代別に見ると、年代が若くなるほど「ほとんど毎日食べる」割合は低くなる傾向にあり、20代以下では「ほとんど毎日食べる」は68.2%となり、「ほとんど食べない」は17.2%を占めた。

【性別・年代別】



(4) 日本独自の食生活の実践や栄養のバランスへの配慮について

問 19 あなたは、米を中心として水産物、畜産物、野菜など多様な副食から構成された日本独自の食生活を実践したり、または、油の多いものを控えたりするなど、栄養のバランスに気をつけていますか。次の中から1つだけ選んでください。

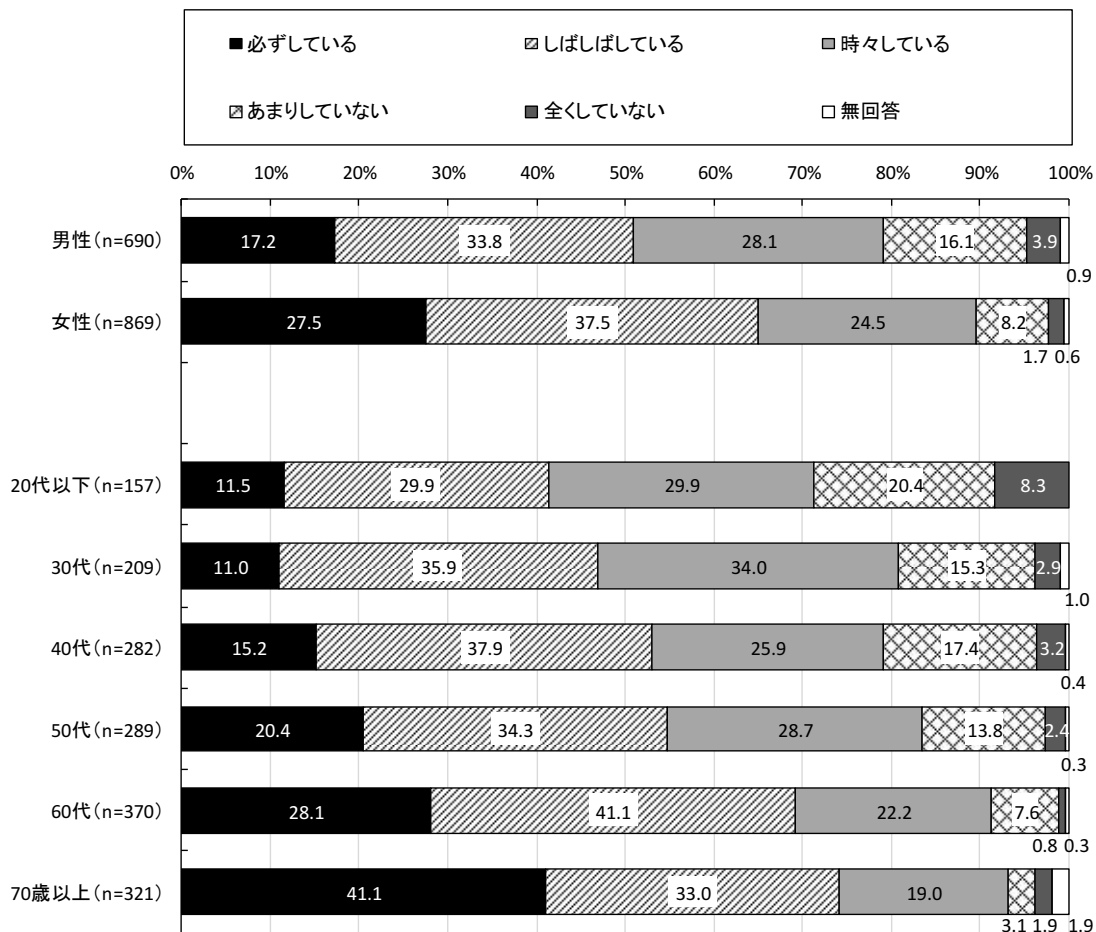


日本独自の食生活の実践や栄養のバランスに気をつけているかについて尋ねたところ、「必ずしている」が23.4%、「しばしばしている」が35.9%で、“おおむねしている”割合は59.3%となっている。

男女別に見ると、「必ずしている」「しばしばしている」の割合は、男性で51.0%、女性で65.0%と、男性の割合が低い傾向にある。

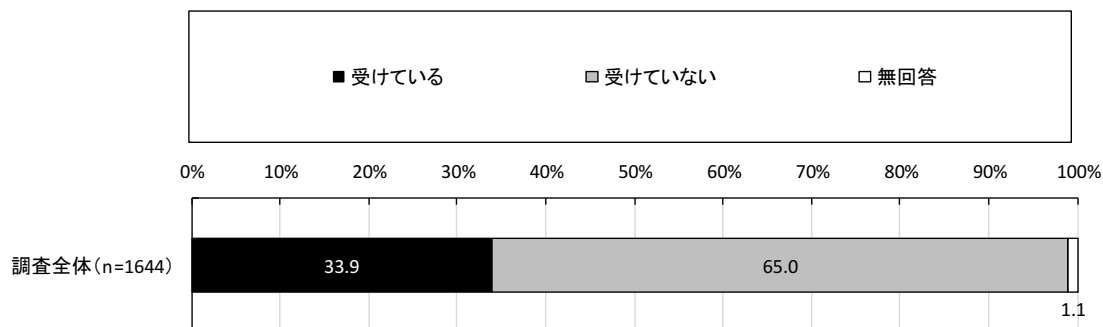
年代別に見ると、年代を追うごとに「必ずしている」「しばしばしている」の割合は高くなる傾向にあり、40代で53.1%、50代で54.7%、60代で69.2%、70歳以上では74.1%となっている。

【性別・年代別】



(5) 定期的な歯科健診の受診状況

問 20 あなたは、治療以外で、1年に1回以上、定期的な歯の健診を受けていますか。
次の中から1つだけ選んでください。

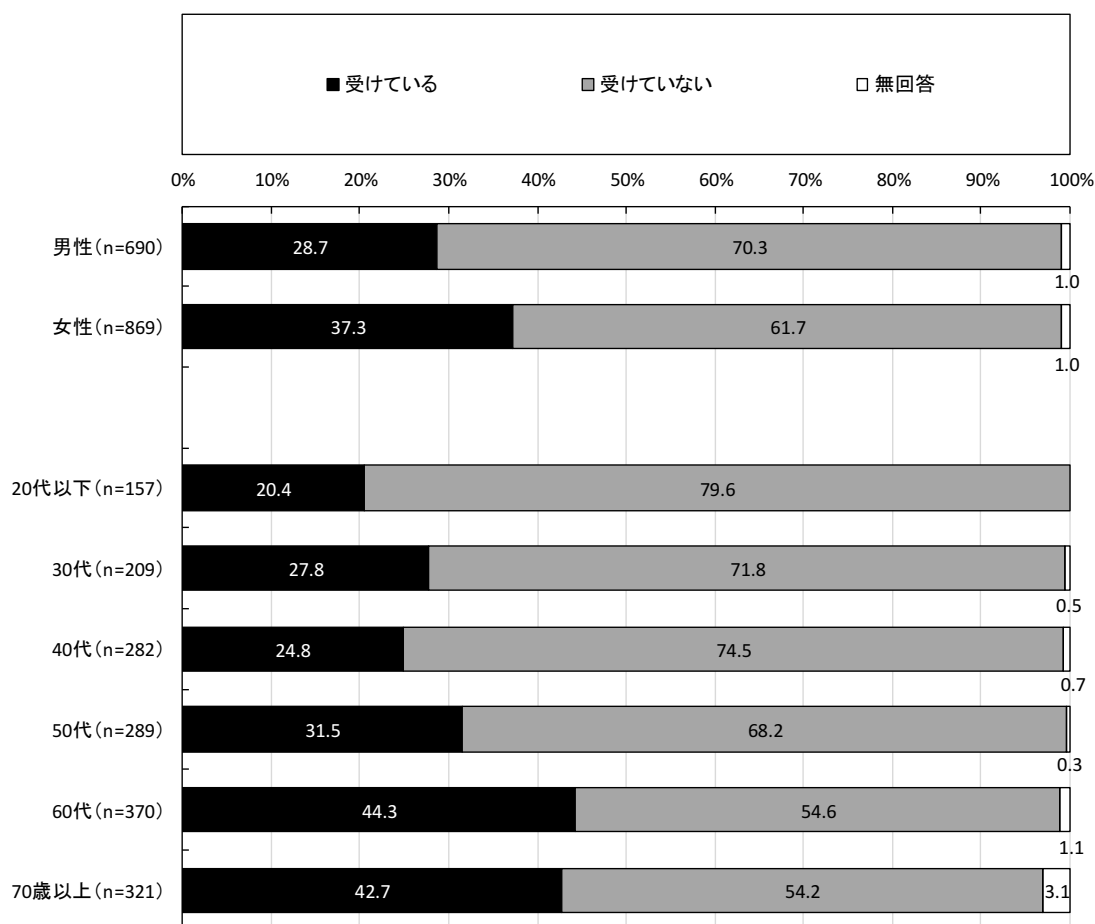


定期的な歯科健診の受診状況について尋ねたところ、「受けている」が33.9%、「受けていない」は65.0%となっている。

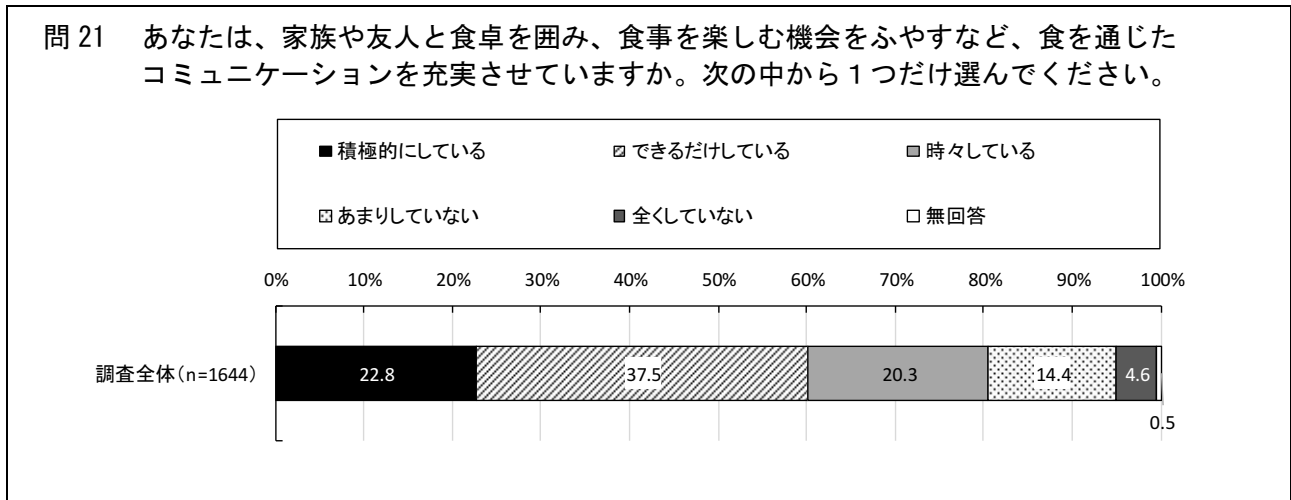
男女別に見ると、「受けている」は男性が28.7%、女性が37.3%となり、男性の割合が低い傾向にある。

年代別に見ると、60代、70歳以上で「受けている」割合は約4割と高いが、50代以下では2～3割となっている。

【性別・年代別】



(6) 食を通じたコミュニケーションについて

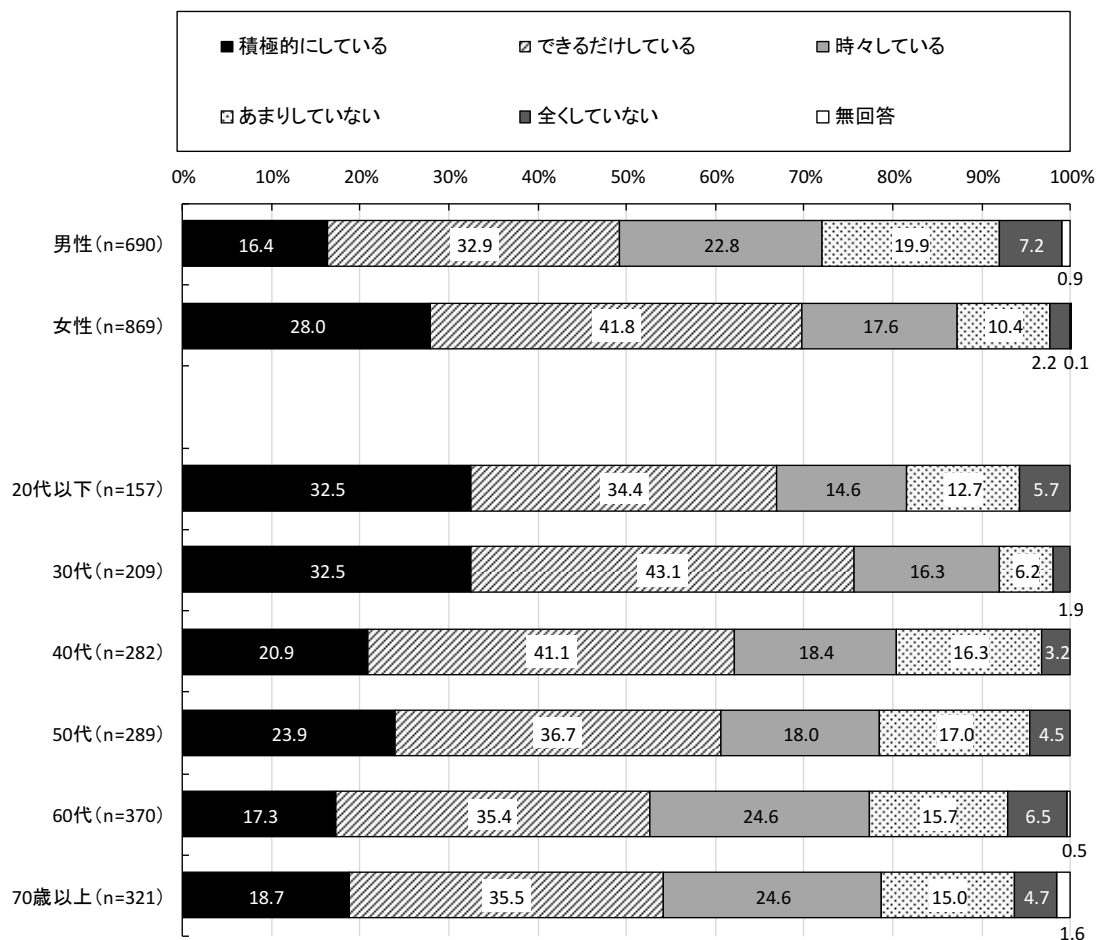


食を通じたコミュニケーションについて尋ねたところ、「積極的にしている」が22.8%、「できるだけしている」が37.5%で、“している”の割合は60.3%となっている。

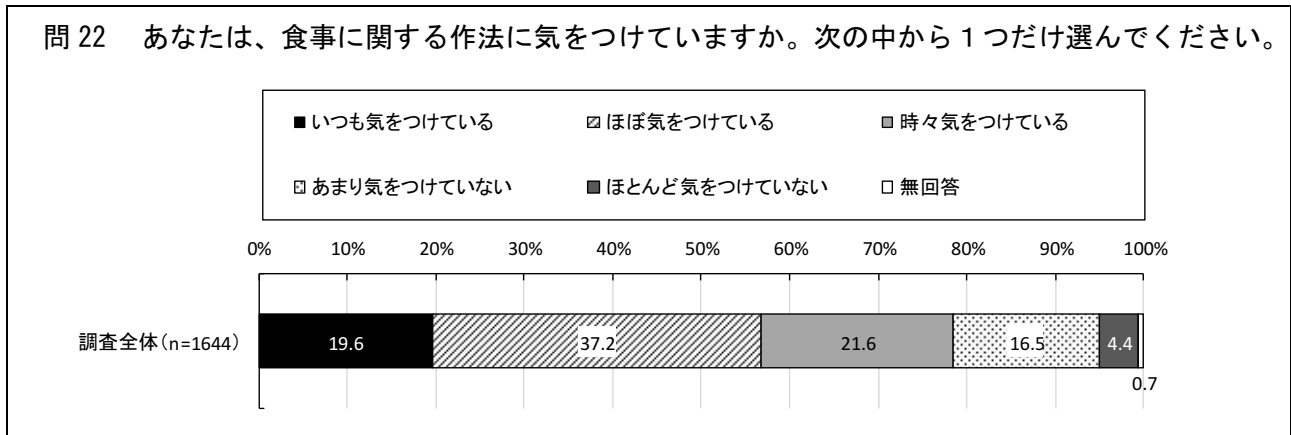
男女別に見ると、男性では「積極的にしている」16.4%、「しばしばしている」32.9%で、“している”割合は49.3%、女性では「積極的にしている」28.0%、「しばしばしている」41.8%で、“している”割合は69.8%となり、男性の割合が低い傾向にあった。

年代別に見ると、「積極的にしている」は、20代以下、30代でともに32.5%と高くなっている。

【性別・年代別】



(7) 食事に関する作法について

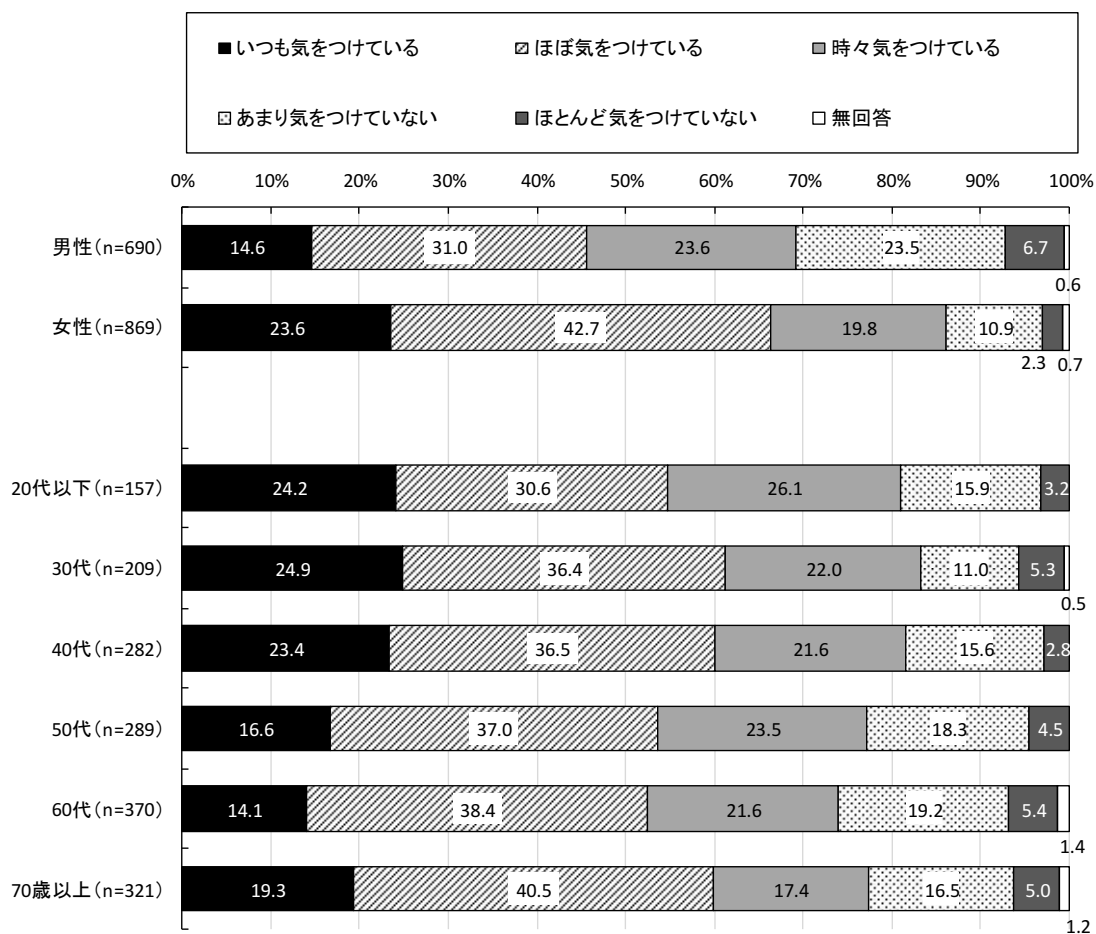


食事に関する作法について尋ねたところ、「いつも気をつけている」が19.6%、「ほぼ気をつけている」が37.2%で、“気をつけている”割合は56.8%となっている。

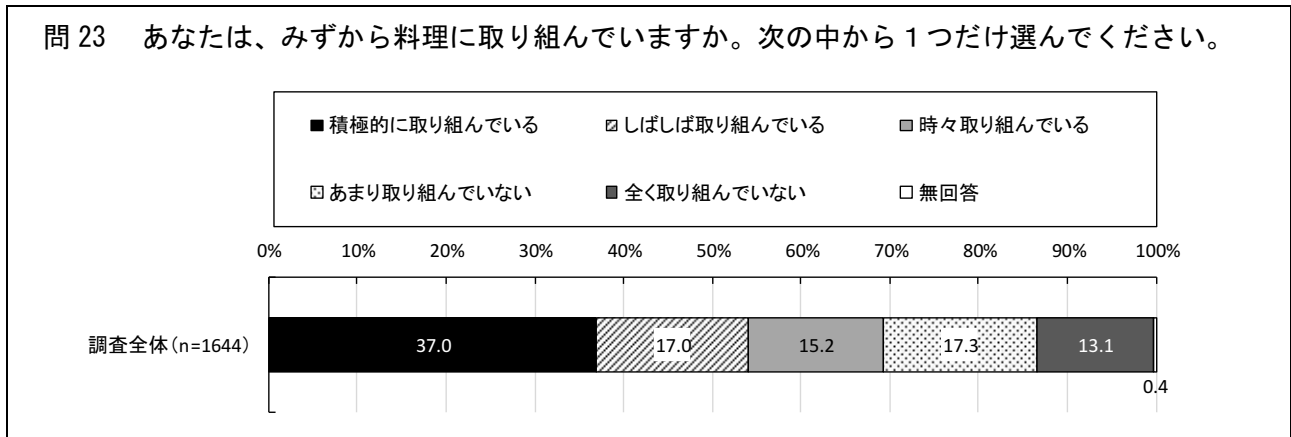
男女別に見ると、男性では「いつも気をつけている」14.6%、「ほぼ気をつけている」31.0%で、“気をつけている”割合は45.6%、女性では「いつも気をつけている」23.6%、「ほぼ気をつけている」42.7%で、“気をつけている”割合は66.3%となり、男性の割合が低い傾向にあった。

年代別に見ると、「いつも気をつけている」は20代以下が24.2%、30代が24.9%、40代が23.4%と高くなっている。

【性別・年代別】



(8) 料理への取り組み方

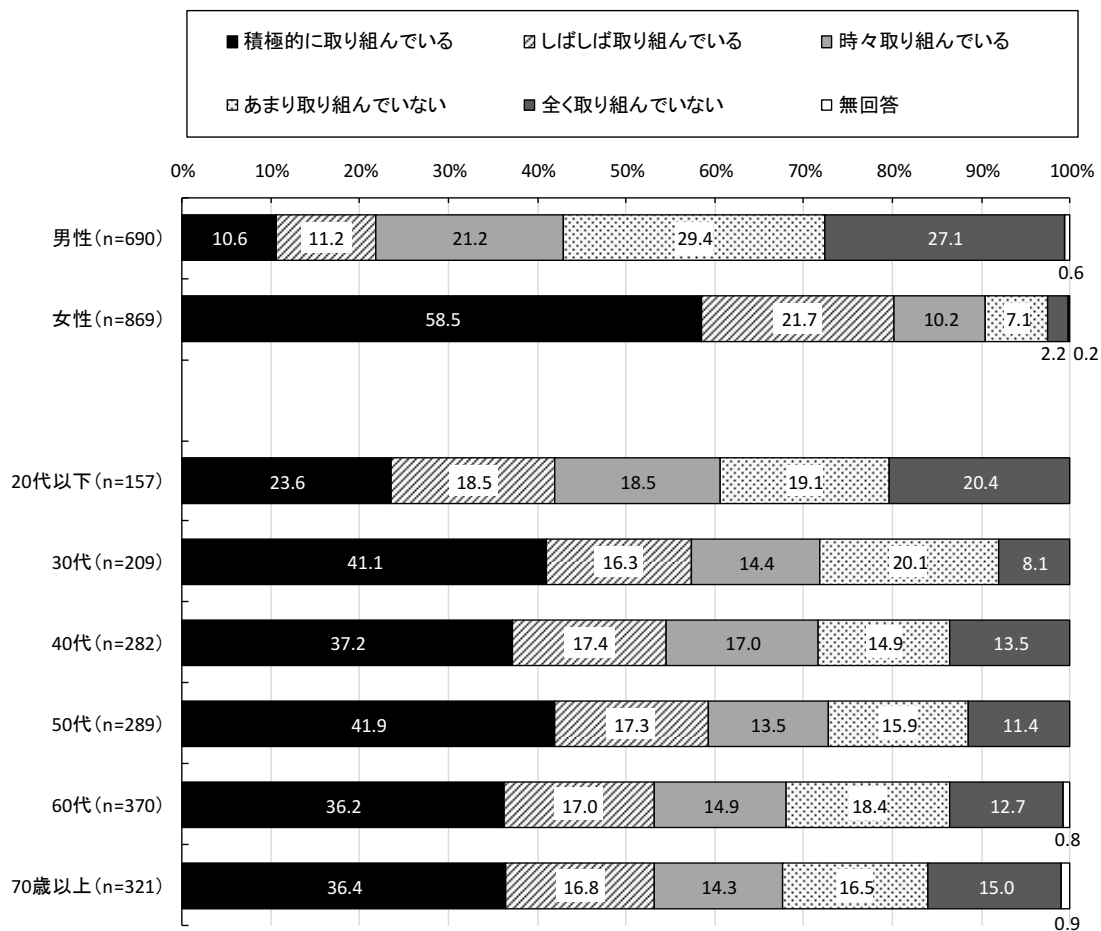


料理への取り組みについて尋ねたところ、「積極的に取り組んでいる」が37.0%、「しばしば取り組んでいる」が17.0%で、“取り組んでいる”割合は54.0%となっている。

男女別に見ると、男性では「積極的に取り組んでいる」10.6%、「しばしば取り組んでいる」11.2%で、“取り組んでいる”割合は21.8%、女性では「積極的にしている」58.5%、「しばしば取り組んでいる」21.7%で、“取り組んでいる”割合は80.2%となっている。男性では「全く取り組んでいない」割合が27.1%を占める。

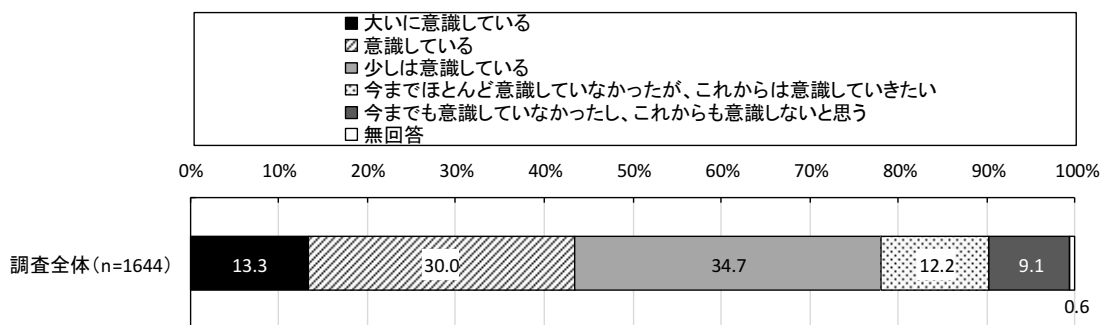
年代別に見ると、20代以下で「積極的に取り組んでいる」は23.6%、「全く取り組んでいない」は20.4%と、他の年代に比べて取り組みは低い状況にある。

【性別・年代別】



(9) 地産地消への意識について

問 24 あなたの家庭では、ふだんの買い物や食事の際に、地産地消を意識していますか。
次の中から1つだけ選んでください。

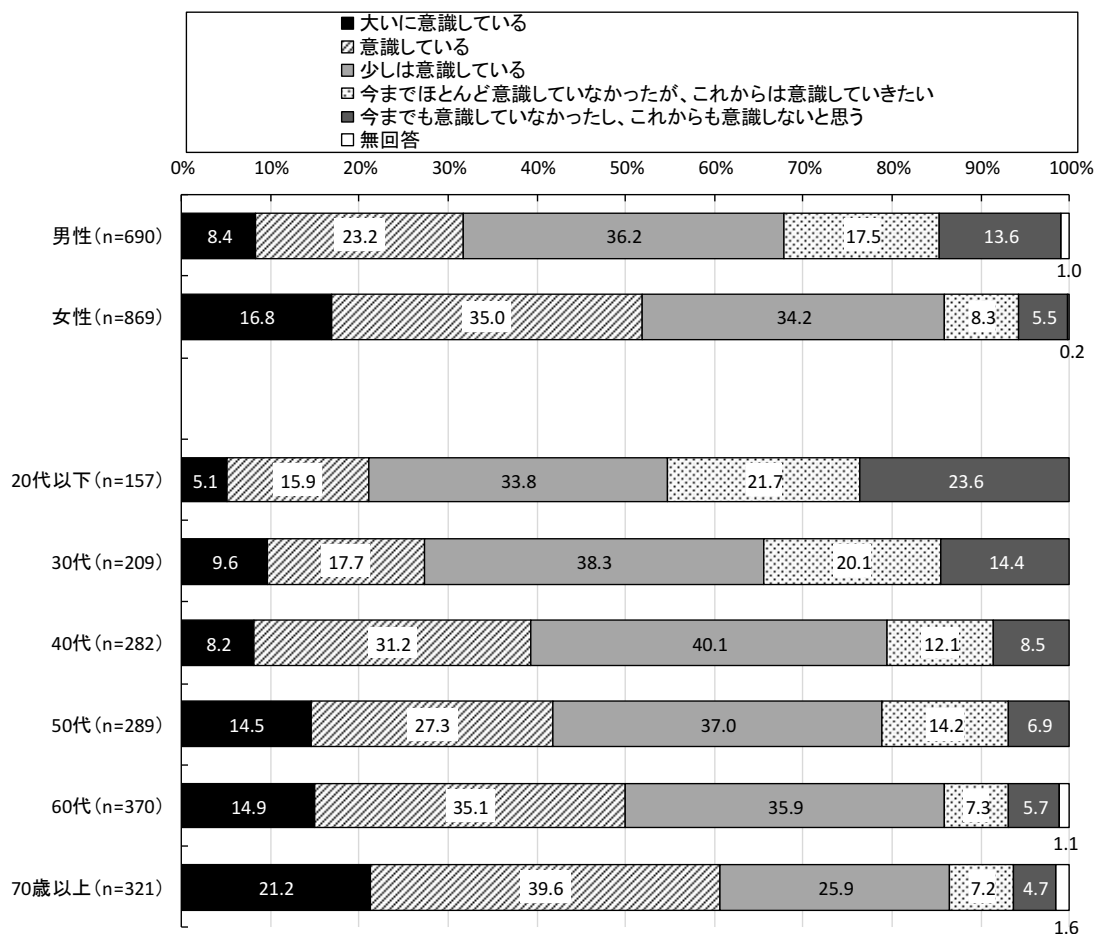


地産地消を意識しているかについて尋ねたところ、「大いに意識している」が13.3%、「意識している」が30.0%で、“意識している”割合は43.3%となっている。「少しは意識している」人が最も多く34.7%、また「今まではほとんど意識していなかったが、これからは意識していきたい」は12.2%、「今までも意識していなかったし、これからは意識しないと思う」は9.1%を占めた。

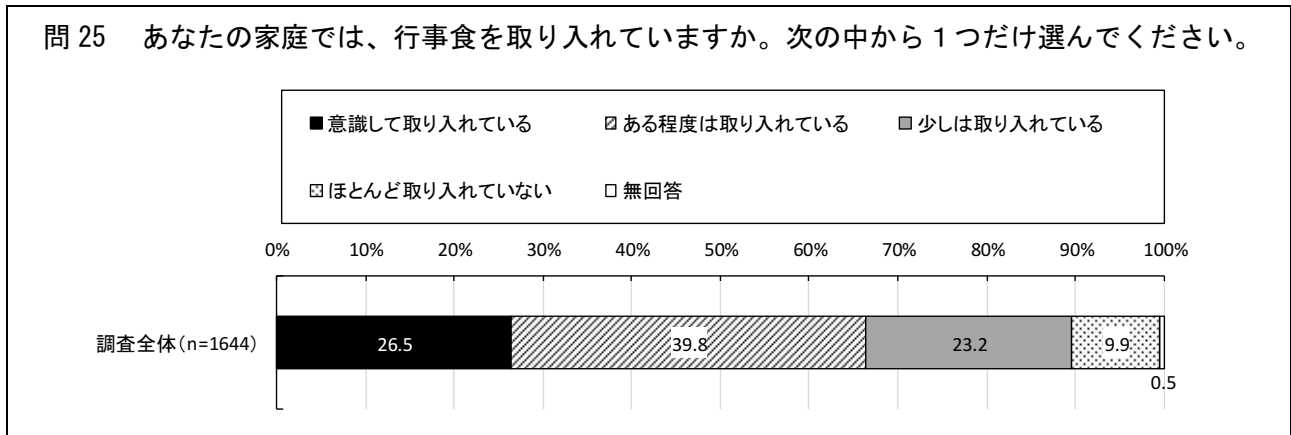
男女別に見ると、男性では「大いに意識している」8.4%、「意識している」23.2%で、“意識している”割合は31.6%、女性では「大いに意識している」16.8%、「意識している」35.0%で、“意識している”割合は51.8%となっている。

年代別に見ると、年代を追うごとに“意識している”割合は高まる傾向にある。一方で、20代以下は「今までも意識していなかったし、これからは意識しないと思う」が23.6%を占めた。

【性別・年代別】



(10) 行事食の取り入れについて

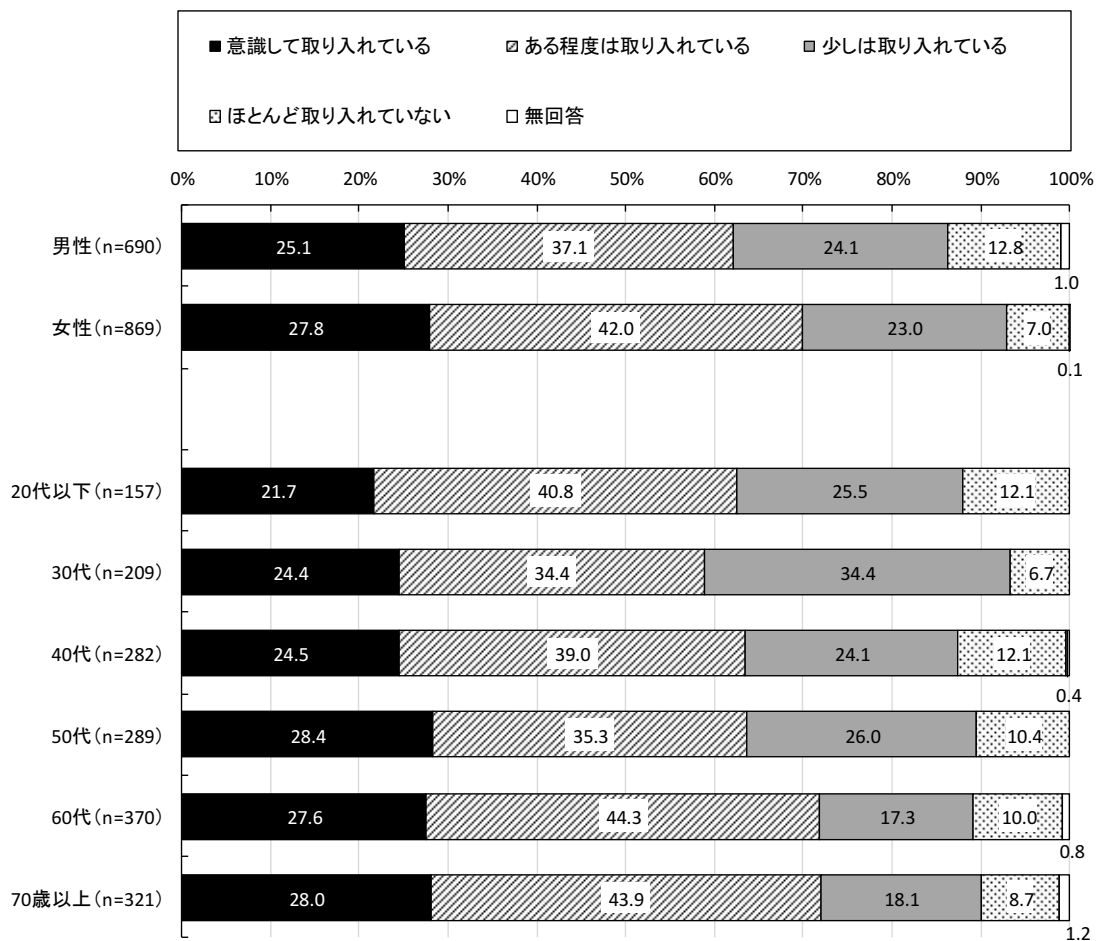


行事食の取り入れについて尋ねたところ、「意識して取り入れている」が26.5%、「ある程度は取り入れている」が39.8%で、“取り入れている”割合は66.3%となっている。

男女別に見ると、男性では「意識して取り入れている」25.1%、「ある程度は取り入れている」37.1%で、“取り入れている”割合は62.2%、女性では「意識して取り入れている」27.8%、「ある程度は取り入れている」42.0%で、“取り入れている”割合は69.8%となっている。

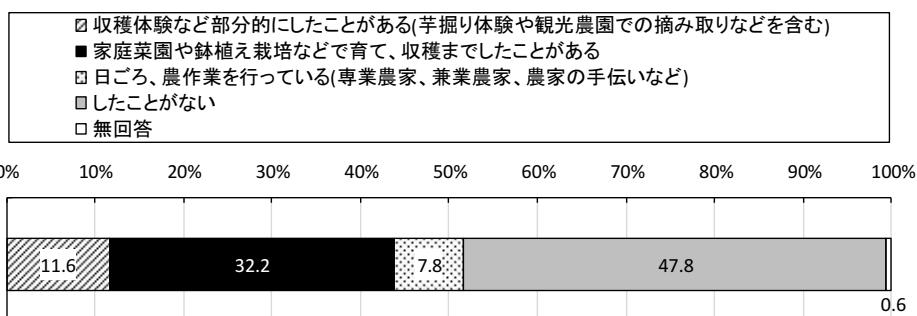
年代別に見ると、“取り入れている”割合は60代、70歳以上で約7割とやや高い傾向にある。

【性別・年代別】



(11) 過去3年間の農業体験

問26 あなたは、過去3年間に「農業体験」をしたことがありますか。
次の中から1つだけ選んでください。



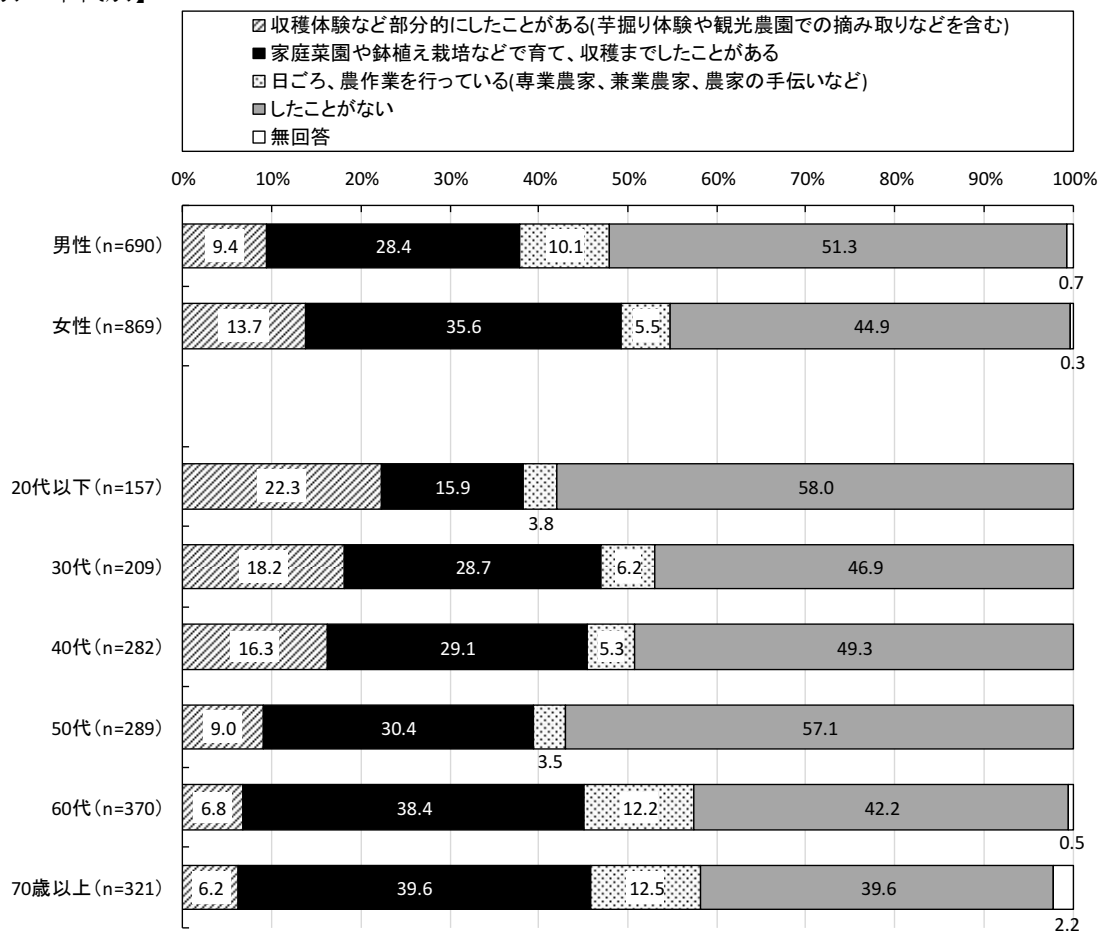
過去3年間の農業体験について尋ねたところ、「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て、収穫までしたことがある」が最も高く32.2%、「収穫体験など部分的にしたことがある」が11.6%、「日ごろ、農作業を行っている」が7.8%となり、「過去3年間に「農業体験」をした」割合は51.6%となっている。一方、「したことがない」は47.8%を占めた。

男女別に見ると、「過去3年間に「農業体験」をした」割合は、男性で47.9%、女性で54.8%となった。

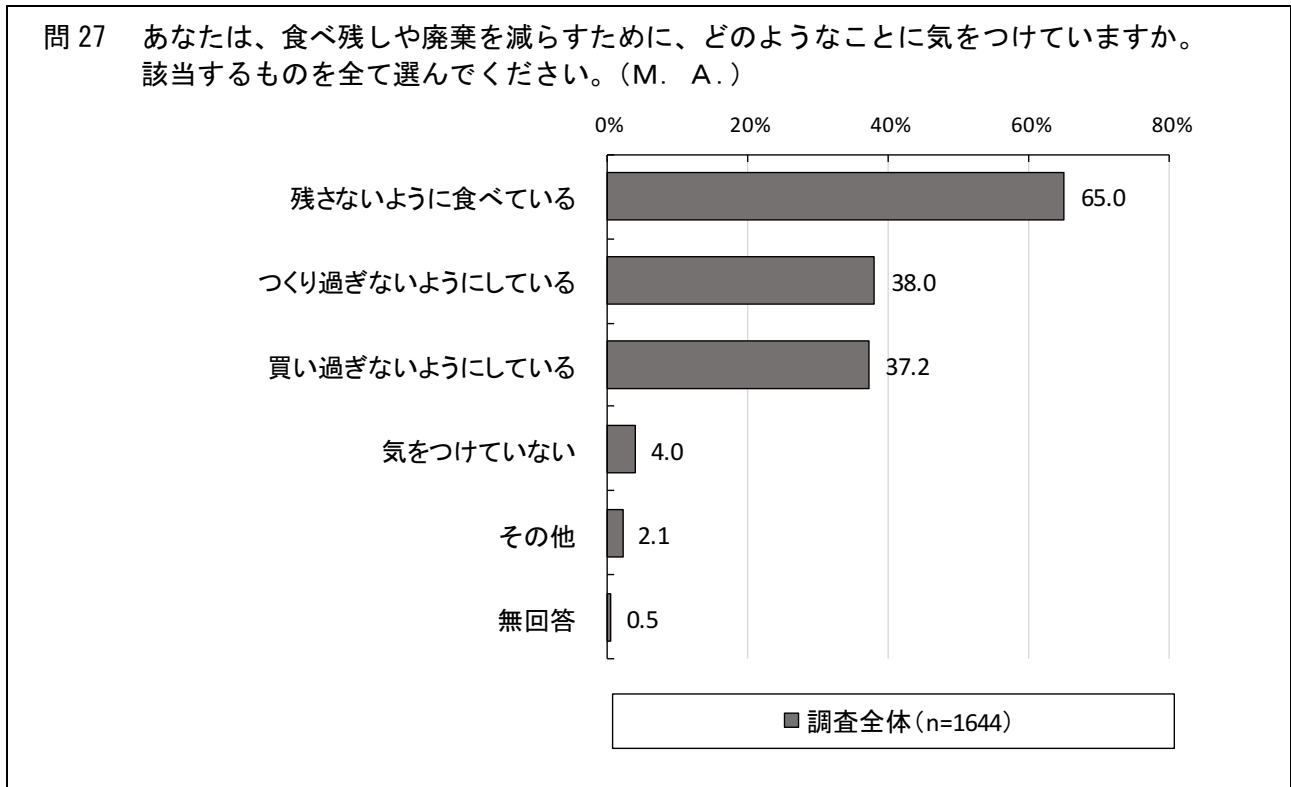
年代別に見ると、「収穫体験など部分的にしたことがある」は若年層ほど、「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て、収穫までしたことがある」は年配層ほど、高い傾向にある。

一方、「したことがない」割合は、60代以上で約4割、50代以下では5～6割を占め、特に20代以下で58.0%、50代で57.1%と高くなっている。

【性別・年代別】



(12) 食べ残しや廃棄を減らす意識について

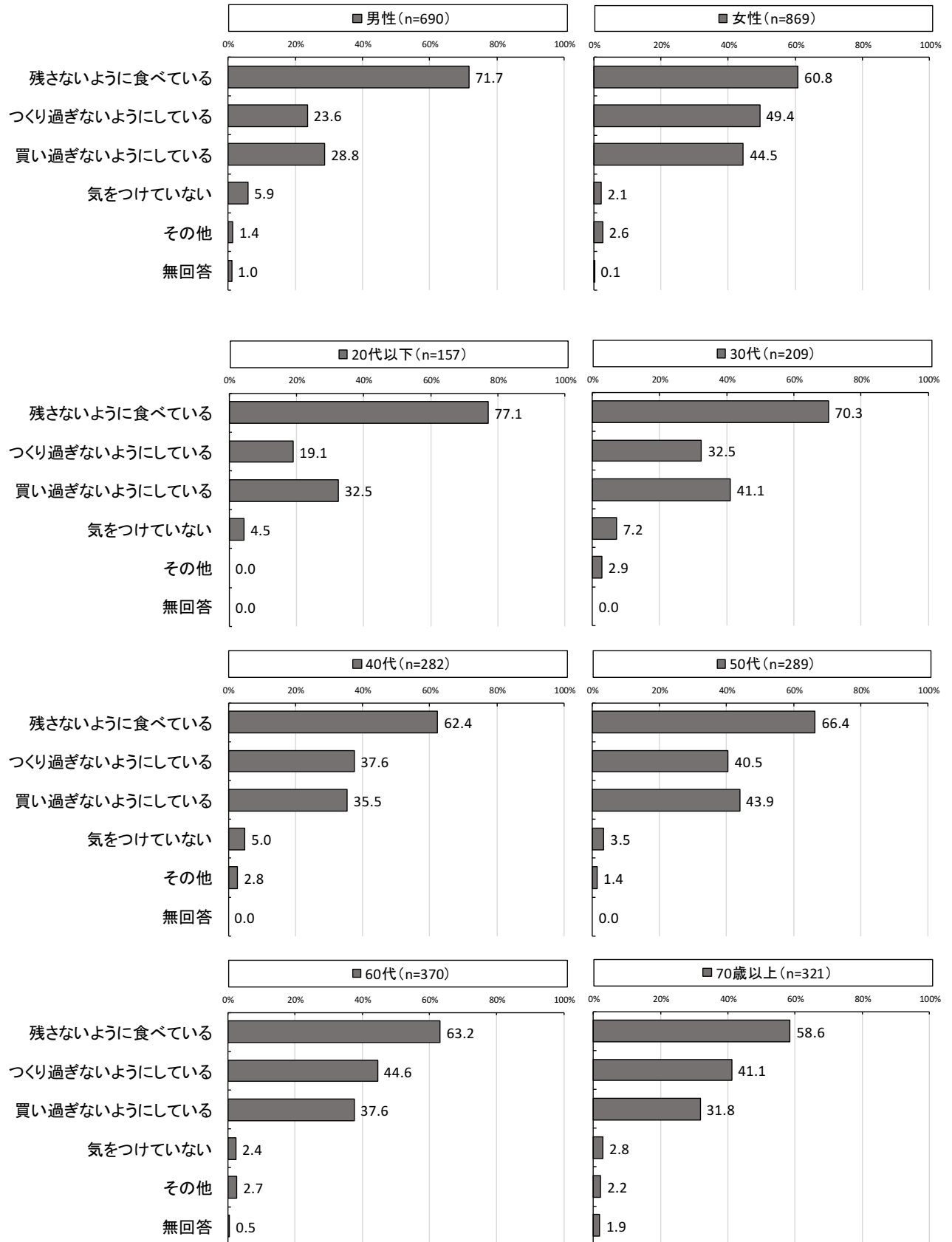


食べ残しや廃棄を減らすために気をつけていることについて尋ねたところ、「残さないように食べている」が最も高く 65.0%、次いで、「つくり過ぎないようにしている」が 38.0%、「買い過ぎないようにしている」が 37.2%となり、「気をつけていない」は 4.0%に留まった。

男女別に見ると、「残さないように食べている」は男性が 71.7%、女性が 60.8%で最も高い。「つくり過ぎないようにしている」「買い過ぎないようにしている」は男性より女性の意識が高い。

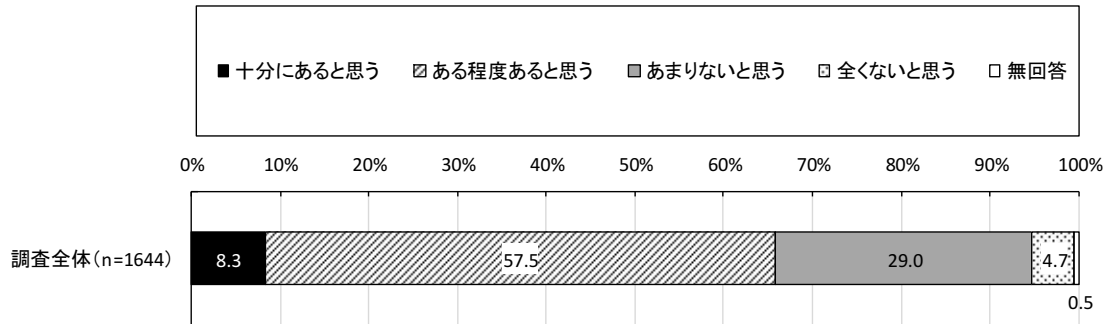
年代別に見ると、「残さないように食べている」は全年代で最も高く、特に 20 代、30 代では 7 割を超える。また 20 代、30 代、50 代では、「つくり過ぎないようにしている」より「買い過ぎないようにしている」割合が高く、40 代、60 代、70 歳以上では、逆に「買い過ぎないようにしている」より「つくり過ぎないようにしている」割合が高くなる傾向にある。

【性別・年代別】



(13) 食品の安全性に関する基礎的な知識の有無について

問 28 あなたは、安全な食生活を送るための食品の安全性に関する基礎的な知識があると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

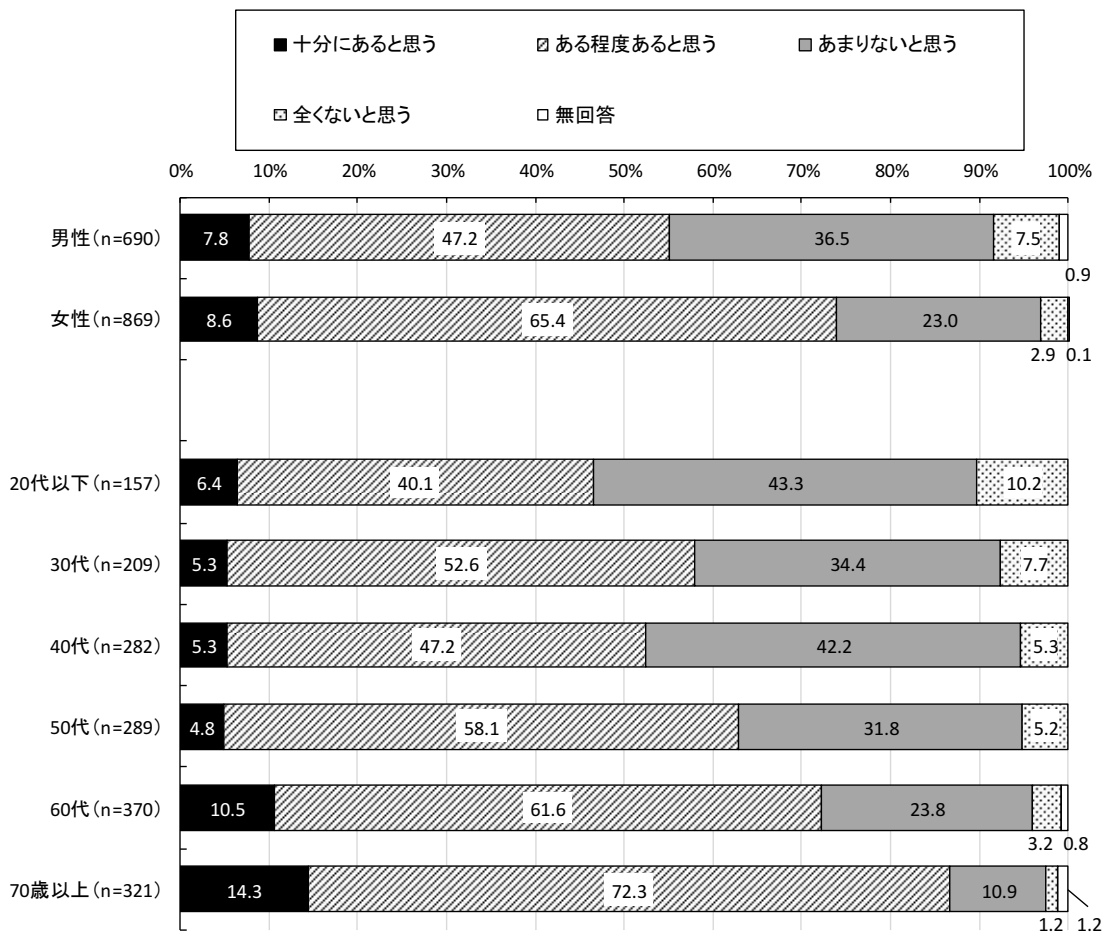


食品の安全性に関する基礎的な知識の有無について尋ねたところ、「十分にあると思う」が8.3%、「ある程度あると思う」が57.5%で、“あると思う”割合は65.8%となっている。一方、「あまりないと思う」は29.0%、「全くないと思う」は4.7%で、“ないと思う”割合は33.7%を占めた。

男女別に見ると、「十分にあると思う」「ある程度あると思う」をあわせた“あると思う”割合は、男性で55.0%、女性で74.0%となり、男女間の差が大きい結果となった。

年代別に見ると、年代を追うごとに、“あると思う”割合は高くなる傾向にあり、60代では72.1%、70歳以上は86.6%となっている。

【性別・年代別】

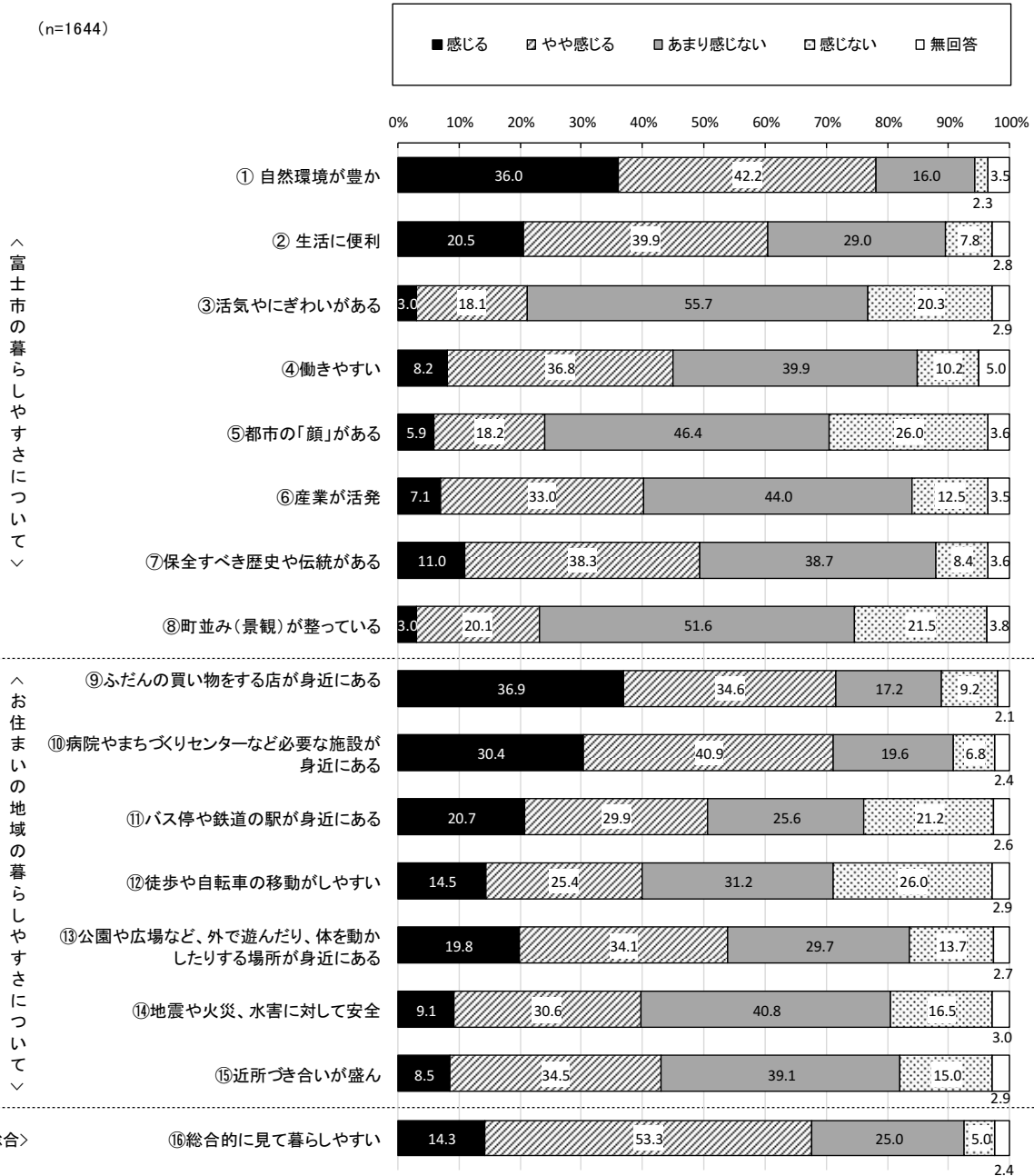


「都市づくり」について

(1) 「暮らしやすさ」について

問 30 「暮らしやすさ」について、あなたの考えに最も近いものを項目ごとに1つずつ選んでください。

(n=1644)



「暮らしやすさ」について尋ねたところ、「⑯総合的に見て暮らしやすい」は「感じる」が14.3%、「やや感じる」が53.3%となり、67.6%が「暮らしやすい」と感じている。

富士市の暮らしやすさについては、「①自然環境が豊か」「②生活に便利」「⑦保全すべき歴史や伝統がある」は「感じる」「やや感じる」が高い傾向にある。一方で「③活気やにぎわいがある」「⑤都市の「顔」がある」「⑧町並み(景観)が整っている」は「あまり感じない」「感じない」が高い傾向にある。

住んでいる地域の暮らしやすさについては、「⑨ふだんの買い物をする店が身近にある」「⑩病院やまちづくりセンターなど必要な施設が身近にある」は「感じる」「やや感じる」は高いが、一方で「⑫徒歩や自転車の移動がしやすい」「⑭地震や火災、水害に対して安全」「⑮近所づきあいが盛ん」は「あまり感じない」「感じない」が高い傾向にある。

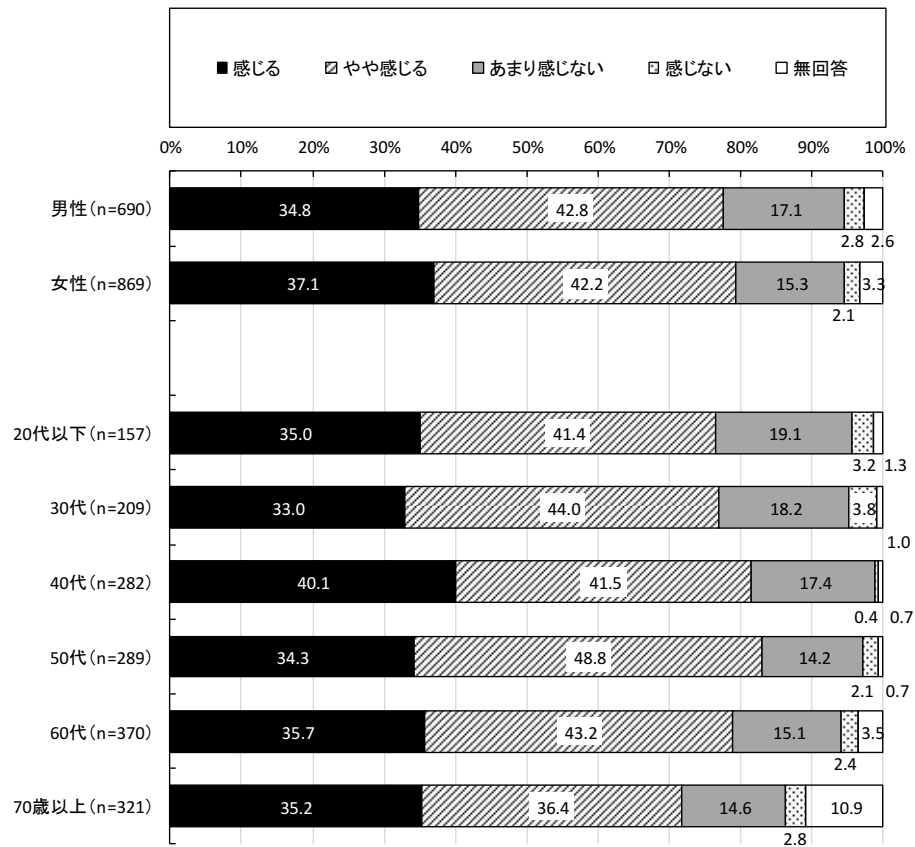
IV 調査結果

【性別・年代別】

① 自然環境が豊か

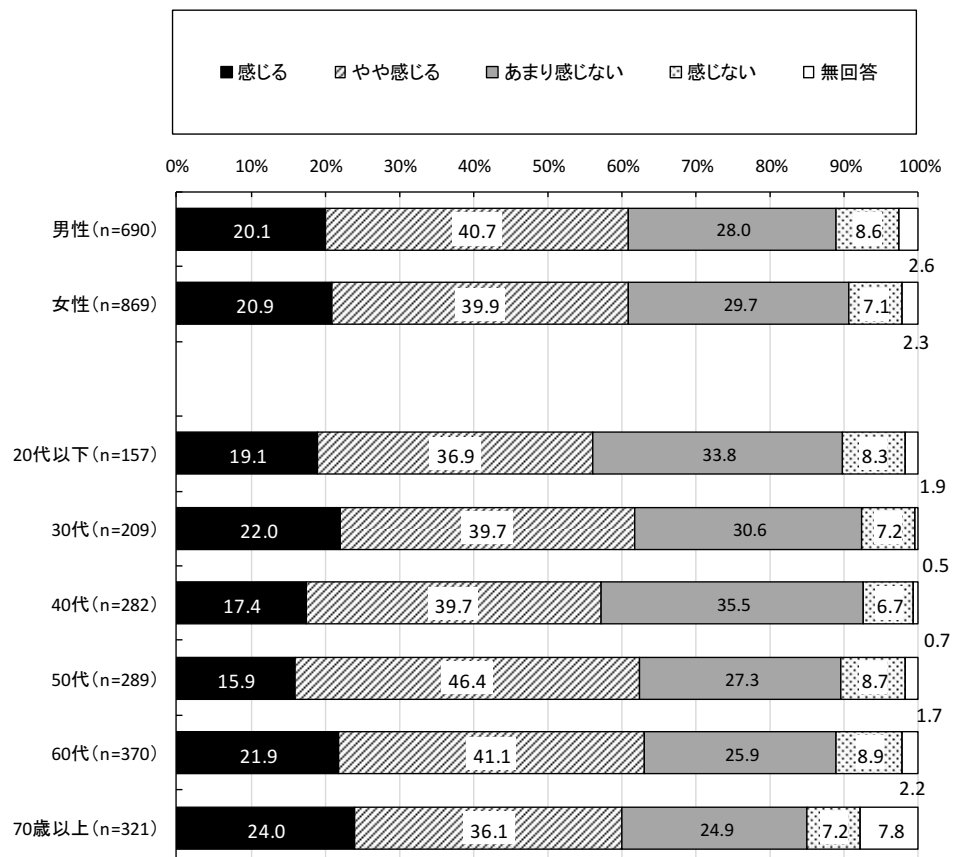
男女別に見ると、「感じる」は男性が34.8%、女性が37.1%で、女性の方がやや高くなっている。

年代別に見ると、「感じる」は40代が40.1%と最も高い。



② 生活に便利

性別・年代問わず、「感じる」が約2割、「やや感じる」が約4割となり、「感じる」「やや感じる」の合計は6割程度にのぼっている。

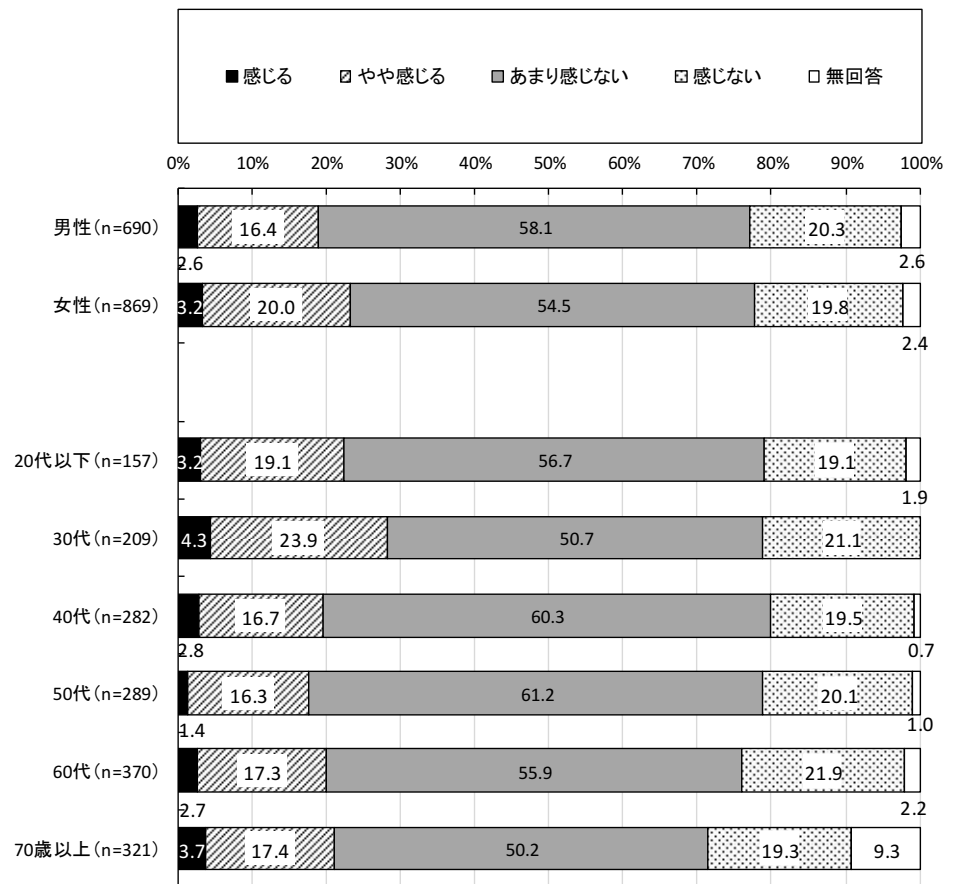


【性別・年代別】

③ 活気やにぎわいがある

男女別に見ると、「あまり感じない」「感じない」ともに女性より男性が高くなっている。

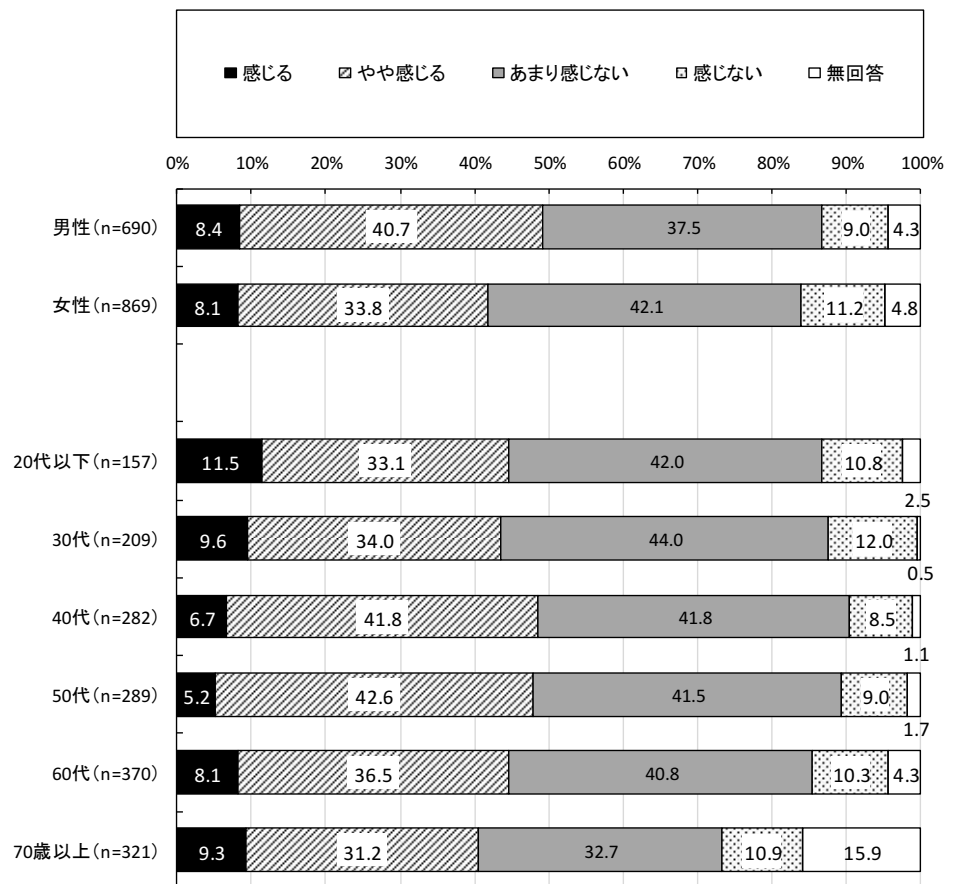
年代別に見ると、「感じる」「やや感じる」は30代が最も高い。



④ 働きやすい

男女別に見ると、「感じる」「やや感じる」は女性よりも男性が高くなっている。

年代別に見ると、「感じる」は20代以下で11.5%、30代で9.6%、70歳以上で9.3%と高くなっている。「感じる」「やや感じる」の合計では、40代、50代が高くなっている。



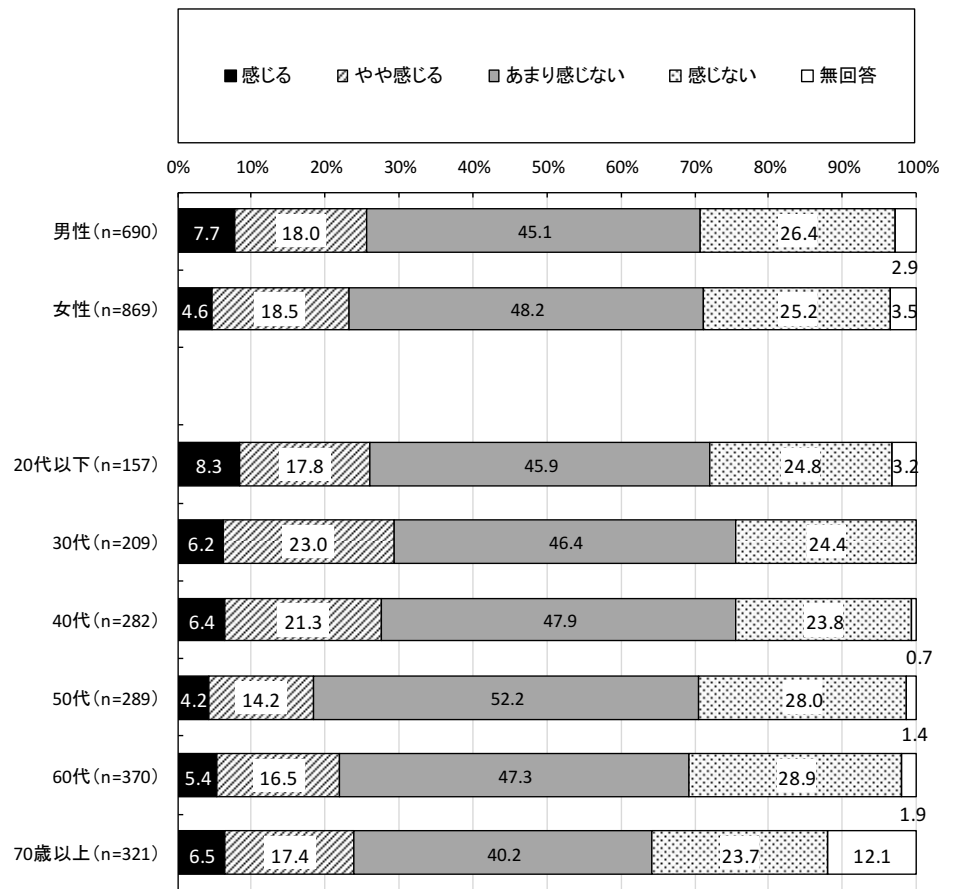
IV 調査結果

【性別・年代別】

⑤ 都市の「顔」がある

男女別に見ると、「感じる」は女性より男性が高くなっている。

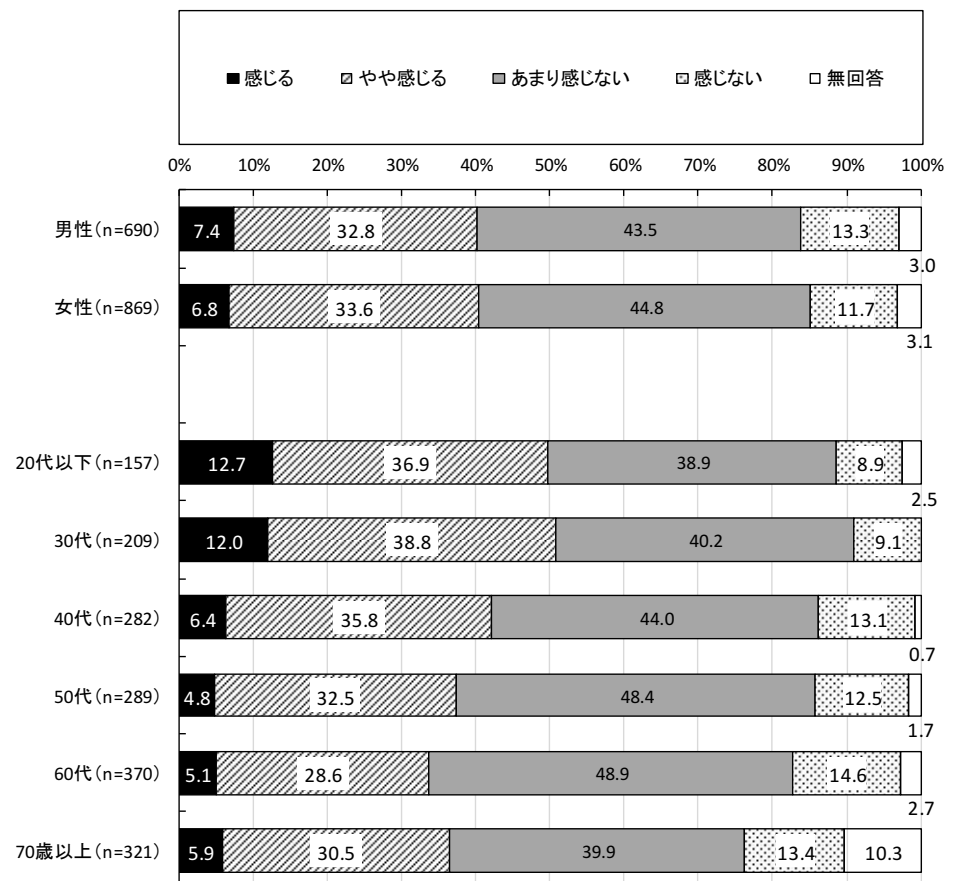
年代別に見ると、50代は「あまり感じない」「感じない」の合計が8割以上となっている。



⑥ 産業が活発

男女別に見ると、「感じる」「やや感じる」の合計は男女とも約4割となっている。

年代別に見ると、「感じる」「やや感じる」の合計は20代以下が49.6%、30代が50.8%と高くなっている。

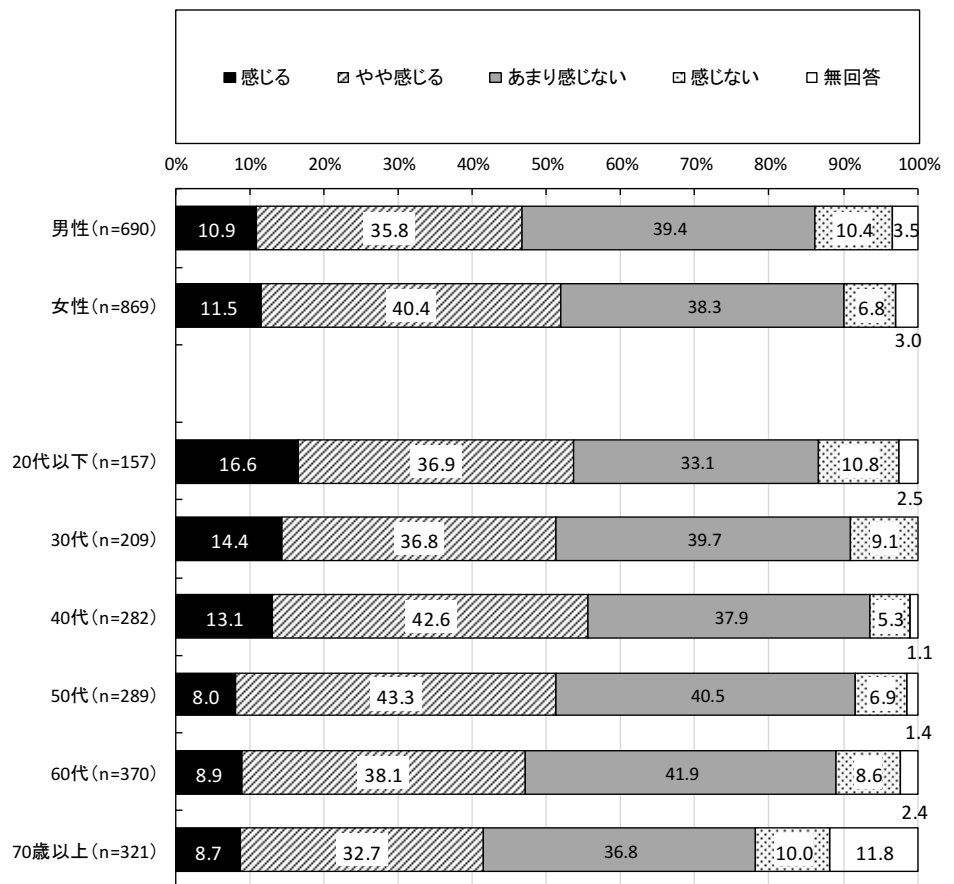


【性別・年代別】

⑦ 保全すべき歴史や伝統がある

男女別に見ると、「感じる」「やや感じる」は男性より女性が高くなっている。

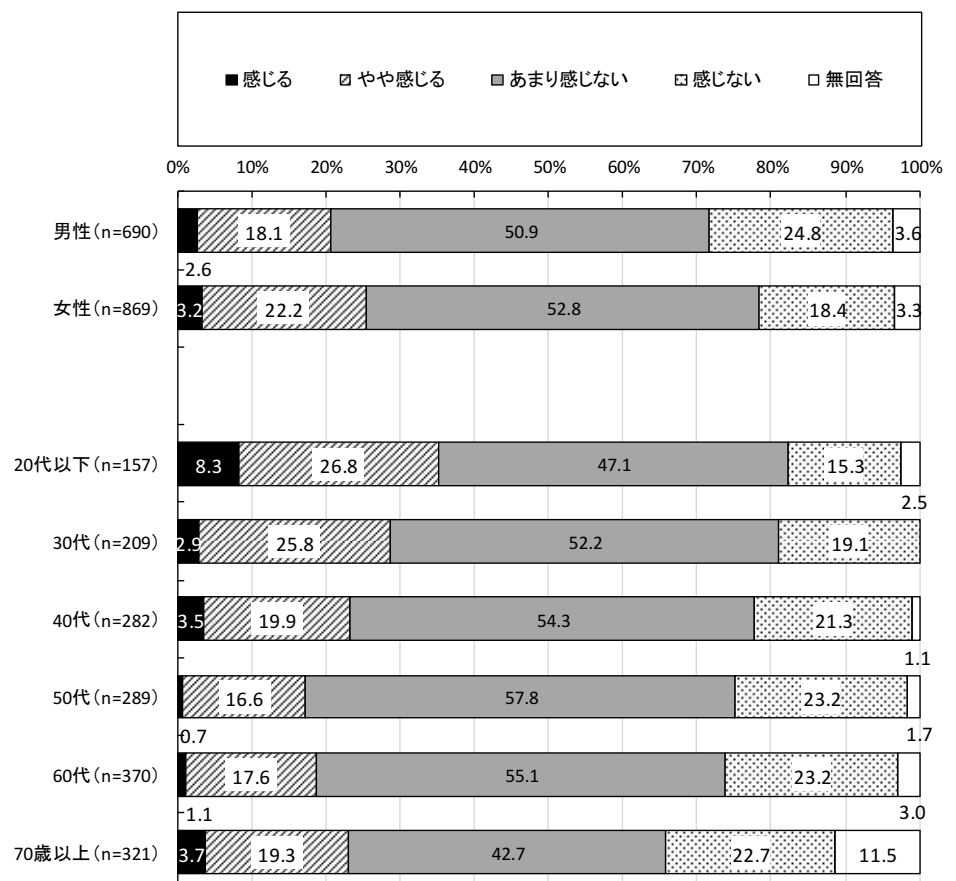
年代別に見ると、「感じる」は20代以下、30代、40代が高くなっている。



⑧ 町並み（景観）が整っている

男女別に見ると、「感じない」は女性より男性が高くなっている。

年代別に見ると、「感じる」は20代以下が8.3%と他世代と比べて高くなっている。



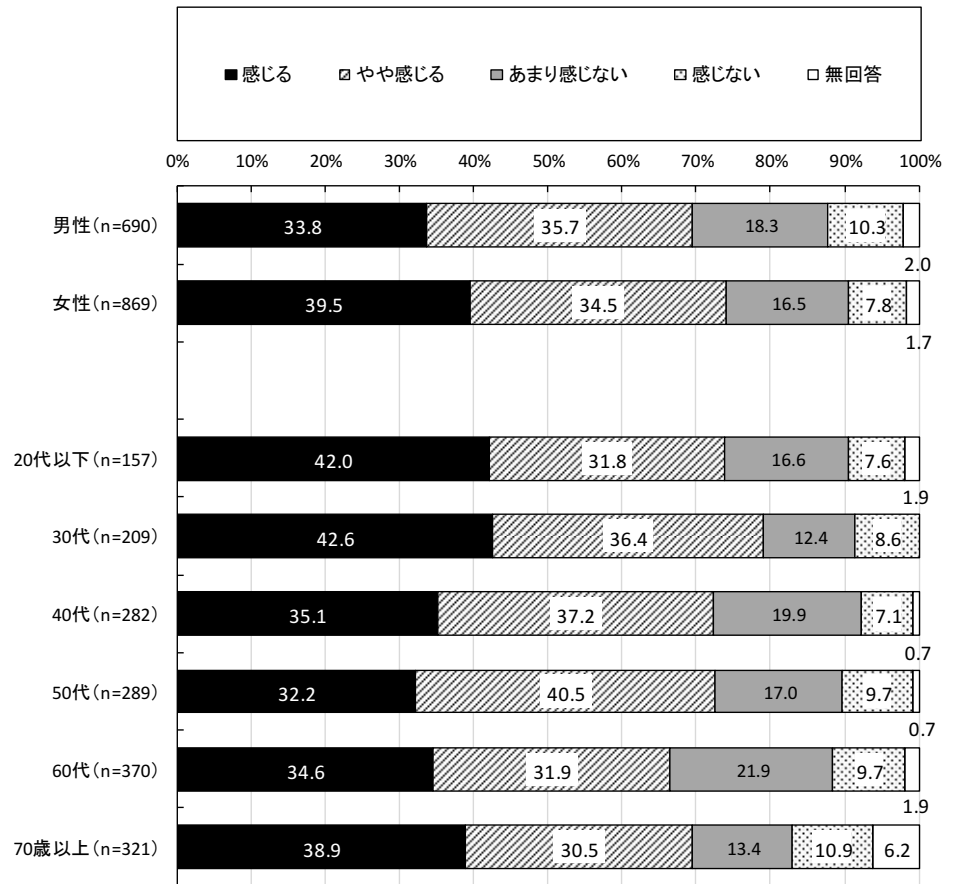
IV 調査結果

【性別・年代別】

⑨ ふだんの買い物をする店が身近にある

男女別に見ると、「感じる」は男性が33.8%、女性が39.5%と男性より女性が高くなっている。

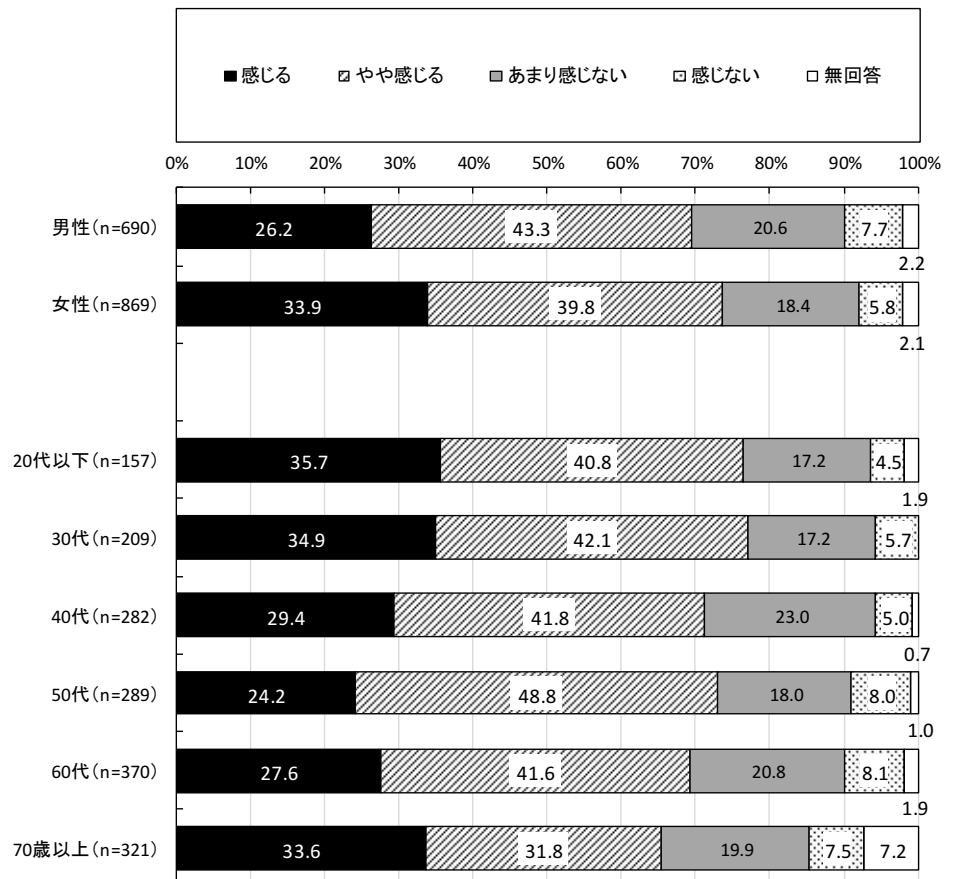
年代別に見ると、「感じる」は20代以下が42.0%、30代が42.6%と高くなっている。



⑩ 病院やまちづくりセンターなど必要な施設が身近にある

男女別に見ると、「感じる」は男性が26.2%、女性が33.9%と男性より女性が高くなっている。

年代別に見ると、「感じる」は20代以下が35.7%、30代が34.9%、70歳以上が33.6%と高くなっている。

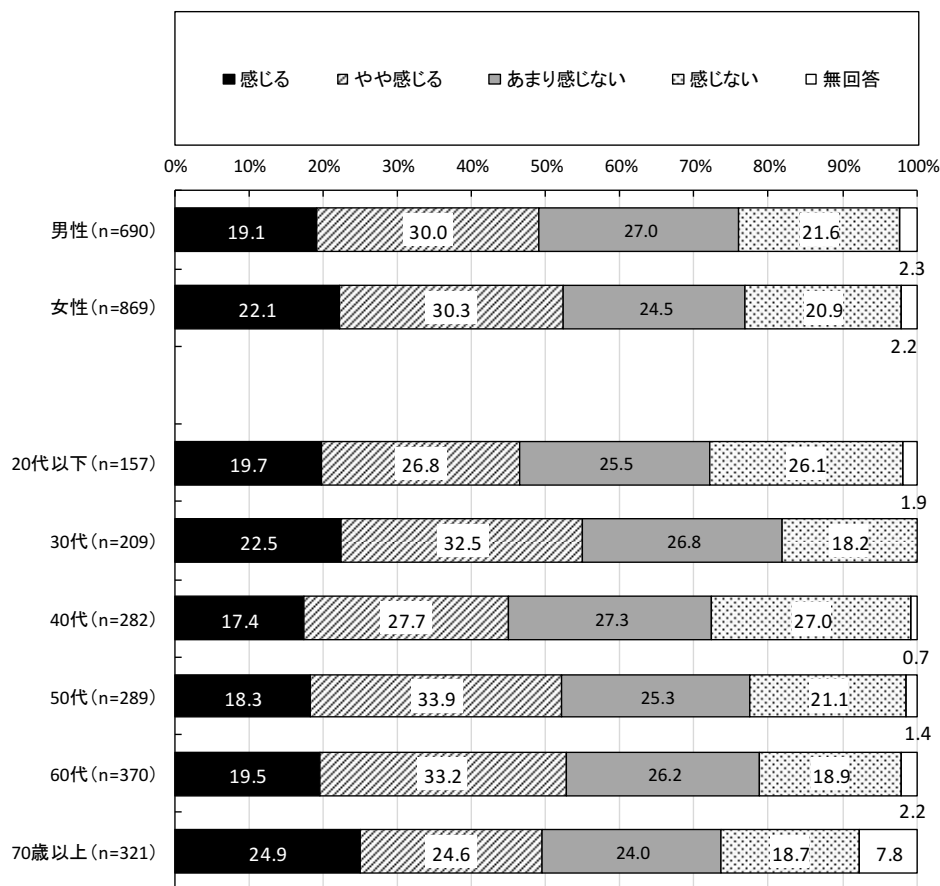


【性別・年代別】

⑪ バス停や鉄道の駅が身近にある

男女別に見ると、女性は「感じる」「やや感じる」が「あまり感じない」「感じない」よりやや高くなっている。

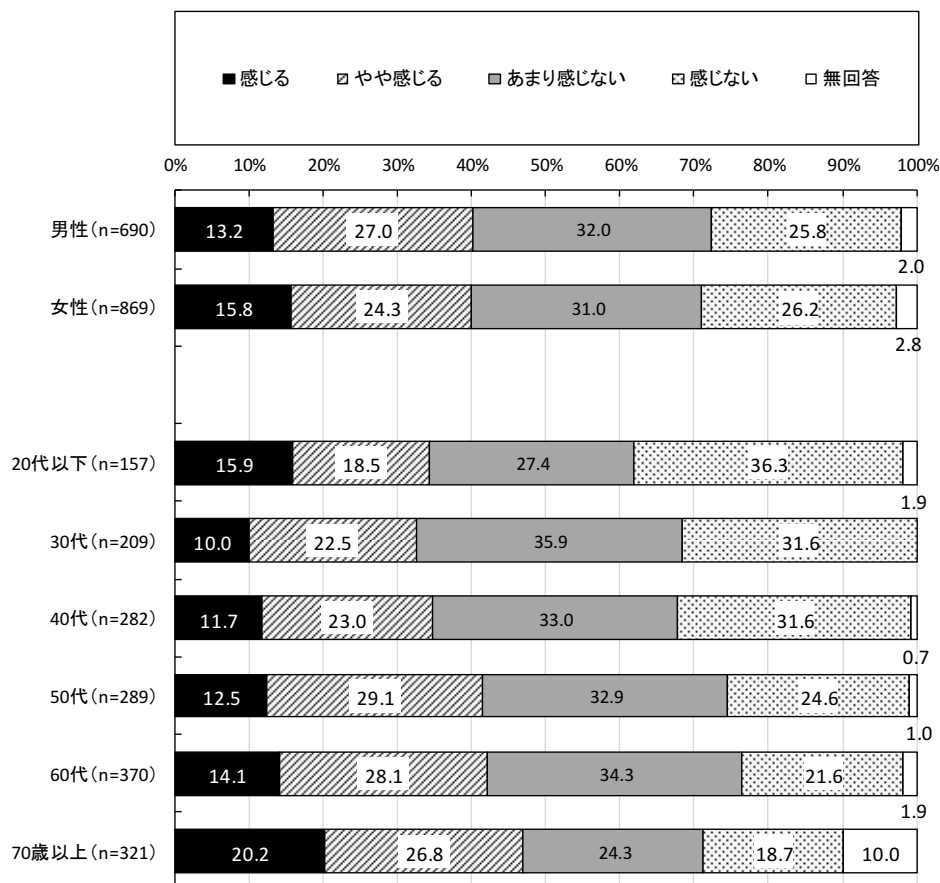
年代別に見ると、30代は「感じる」が22.5%、70歳以上が24.9%と高くなっている。「感じる」「やや感じる」の合計は30代、50代、60代が5割を超えている。



⑫ 徒歩や自転車の移動がしやすい

男女別に見ると、「感じる」「やや感じる」の合計は男女とも約4割となっている。

年代別に見ると、「感じる」が70歳以上は20.2%と高くなっている。



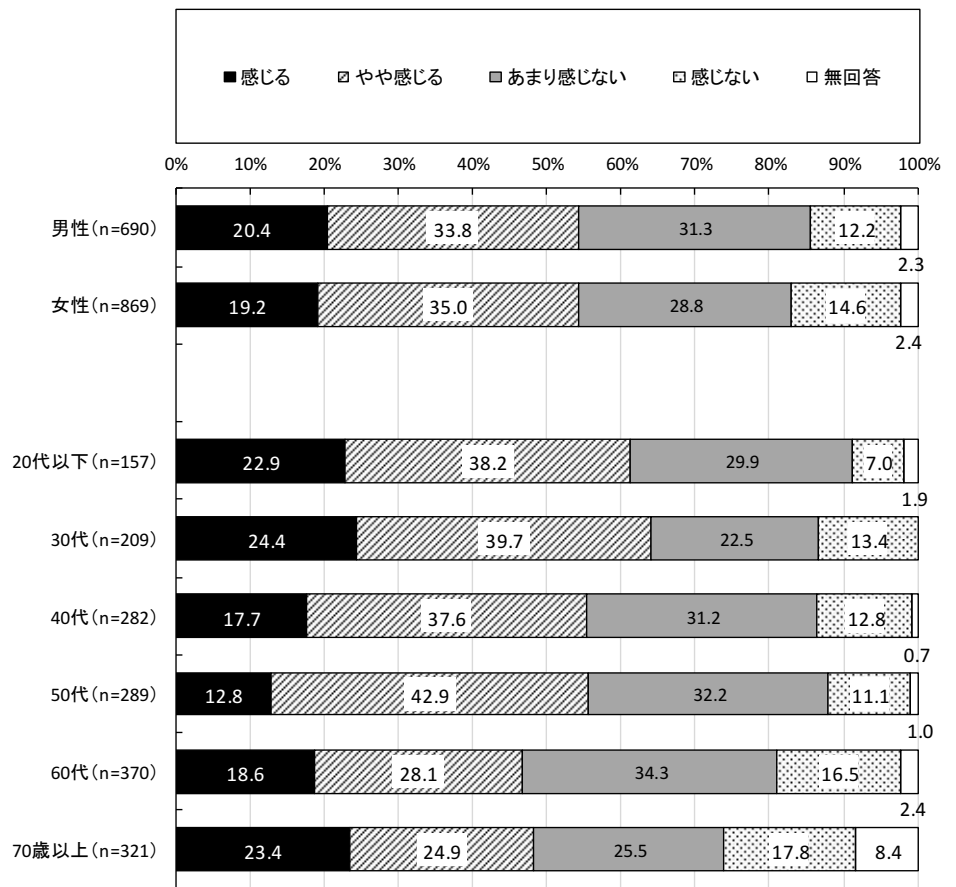
IV 調査結果

【性別・年代別】

⑬ 公園や広場など、外で遊んだり、体を動かしたりする場所が身近にある

男女別に見ると、「感じる」は男性が20.4%、女性が19.2%と、女性より男性がやや高くなっている。

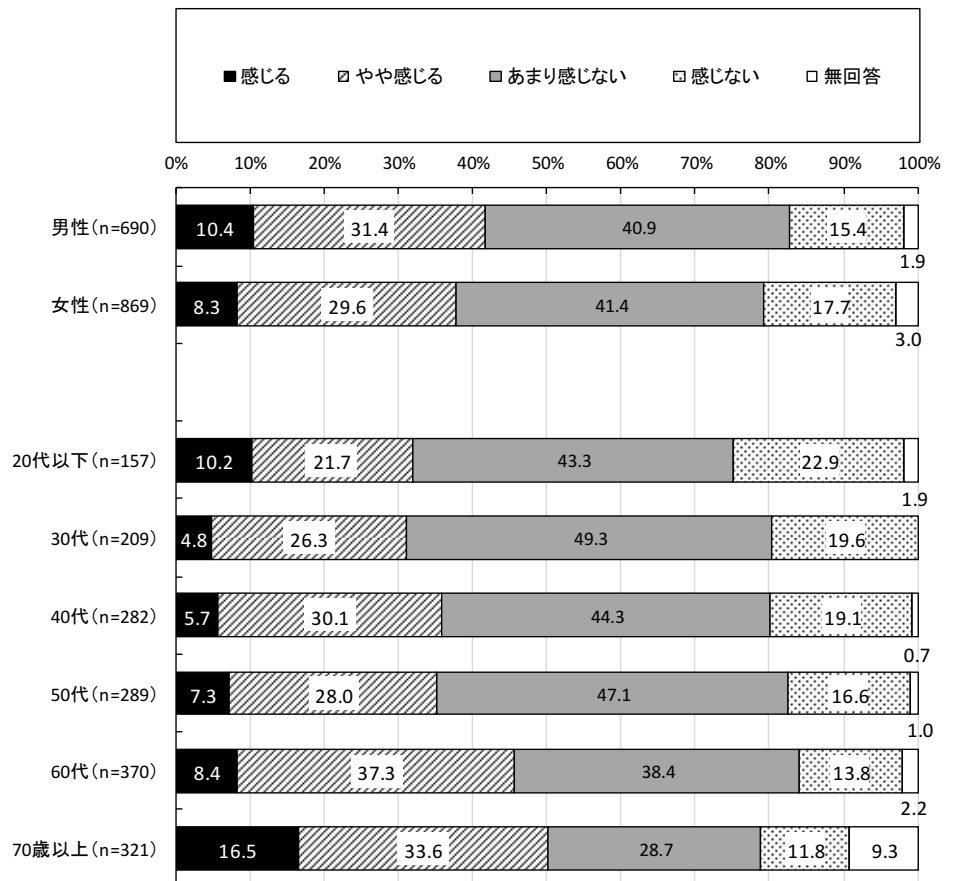
年代別に見ると、「感じる」「やや感じる」の合計が20代以下、30代が6割を超えているのに対し、60代は最も低く、47.6%にとどまっている。



⑭ 地震や火災、水害に対して安全

男女別に見ると、「あまり感じない」「感じない」はともに男性より女性が高くなっている。

年代別に見ると、「感じる」「やや感じる」の合計が20代以下、30代が3割程度にとどまっているのに対し、70歳以上は5割を占めている。

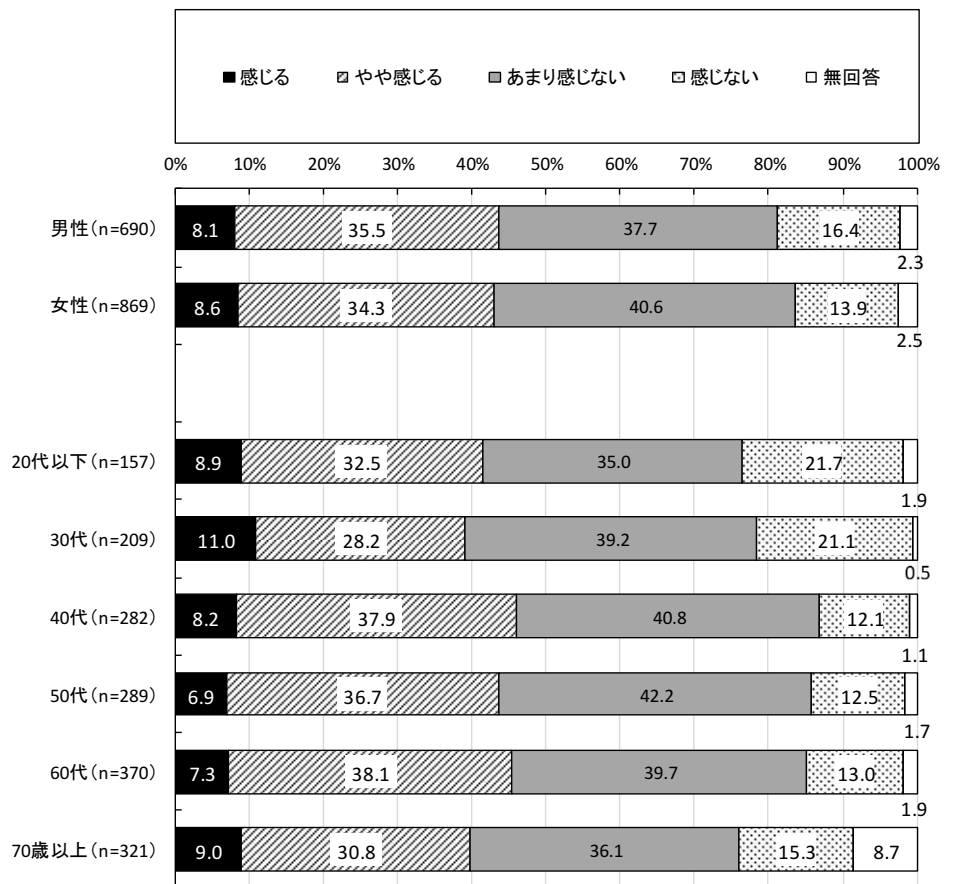


【性別・年代別】

⑮ 近所づき合いが盛ん

男女別に見ると、男女ともに「あまり感じない」が最も高い。「あまり感じない」「感じない」の合計は男女とも5割を超えている。

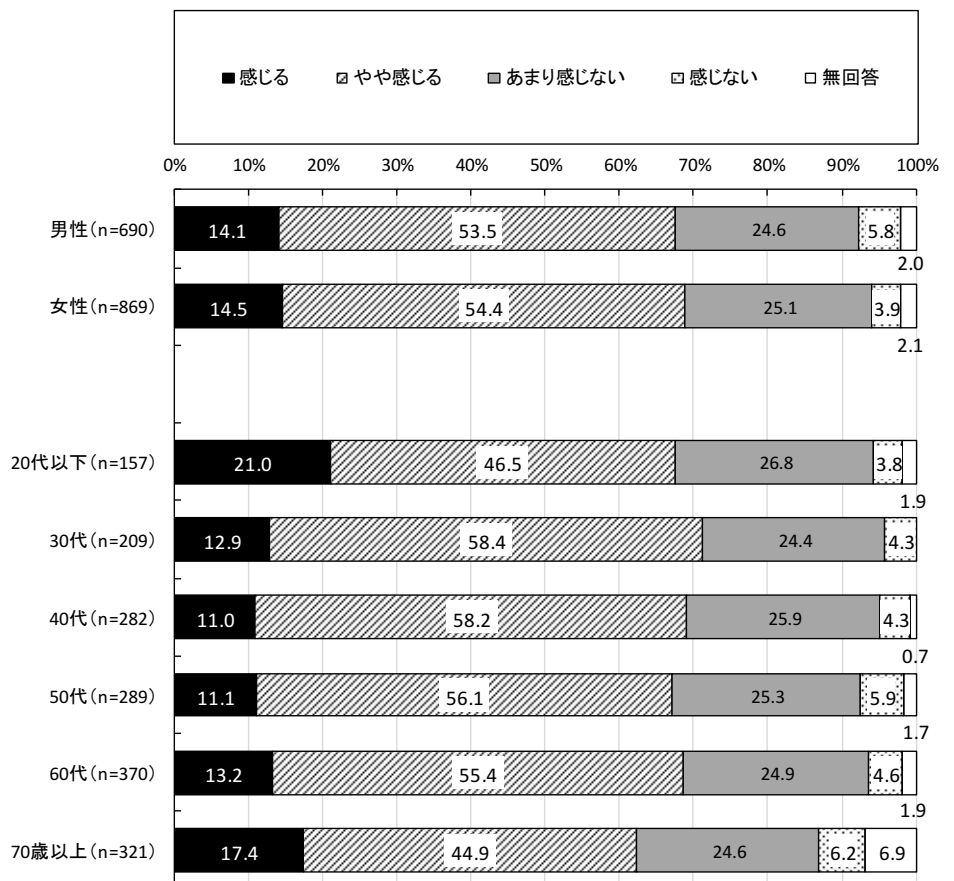
年代別に見ると、「あまり感じない」は40代が40.8%、50代が42.2%と高くなっている。



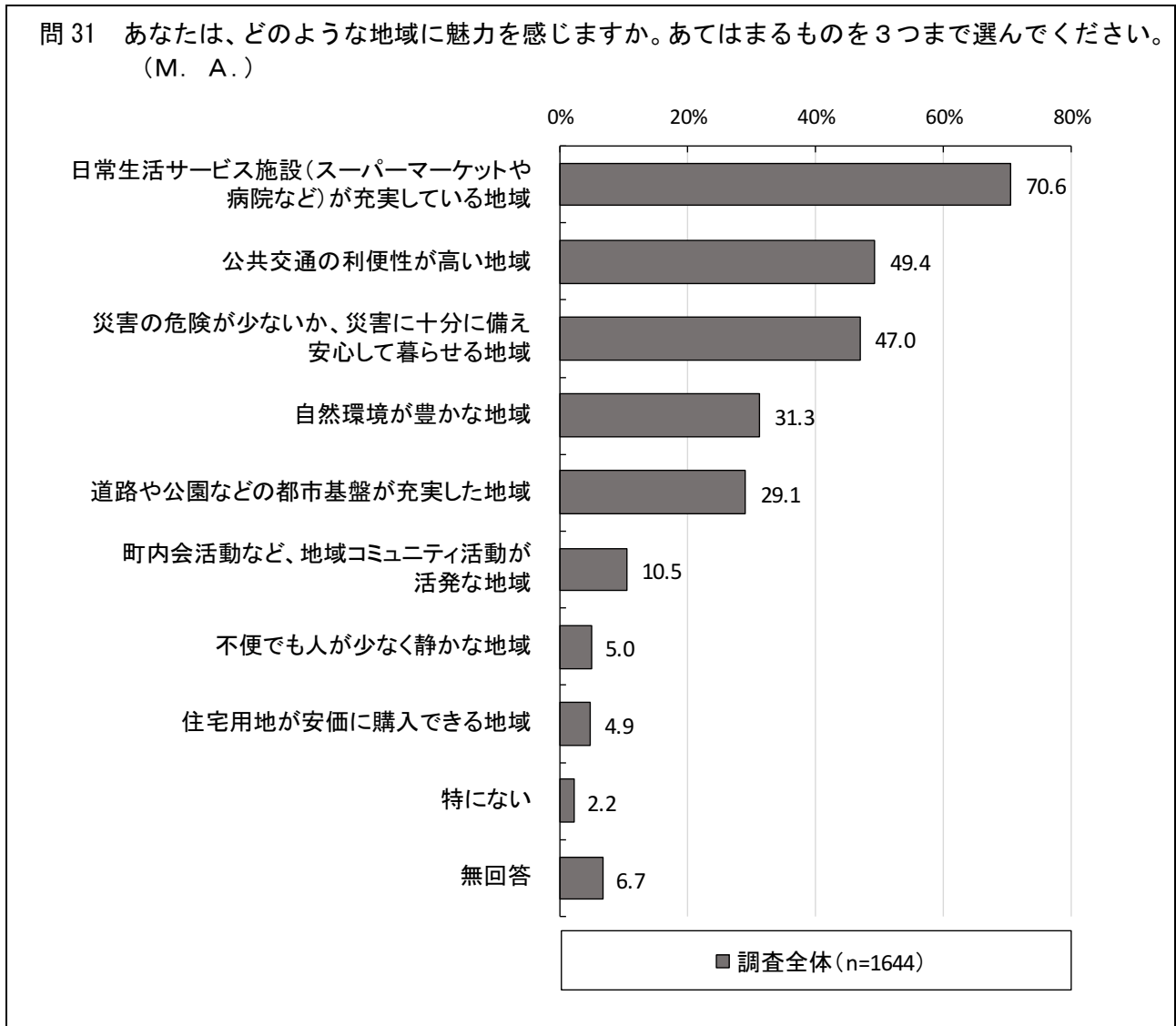
⑯ 総合的に見て暮らしやすい

男女別に見ると、男女ともに大きな差はみられない。

年代別に見ると、「やや感じる」は30代、40代、50代、60代が5割以上と高くなっている。



(2) 魅力を感じる地域について

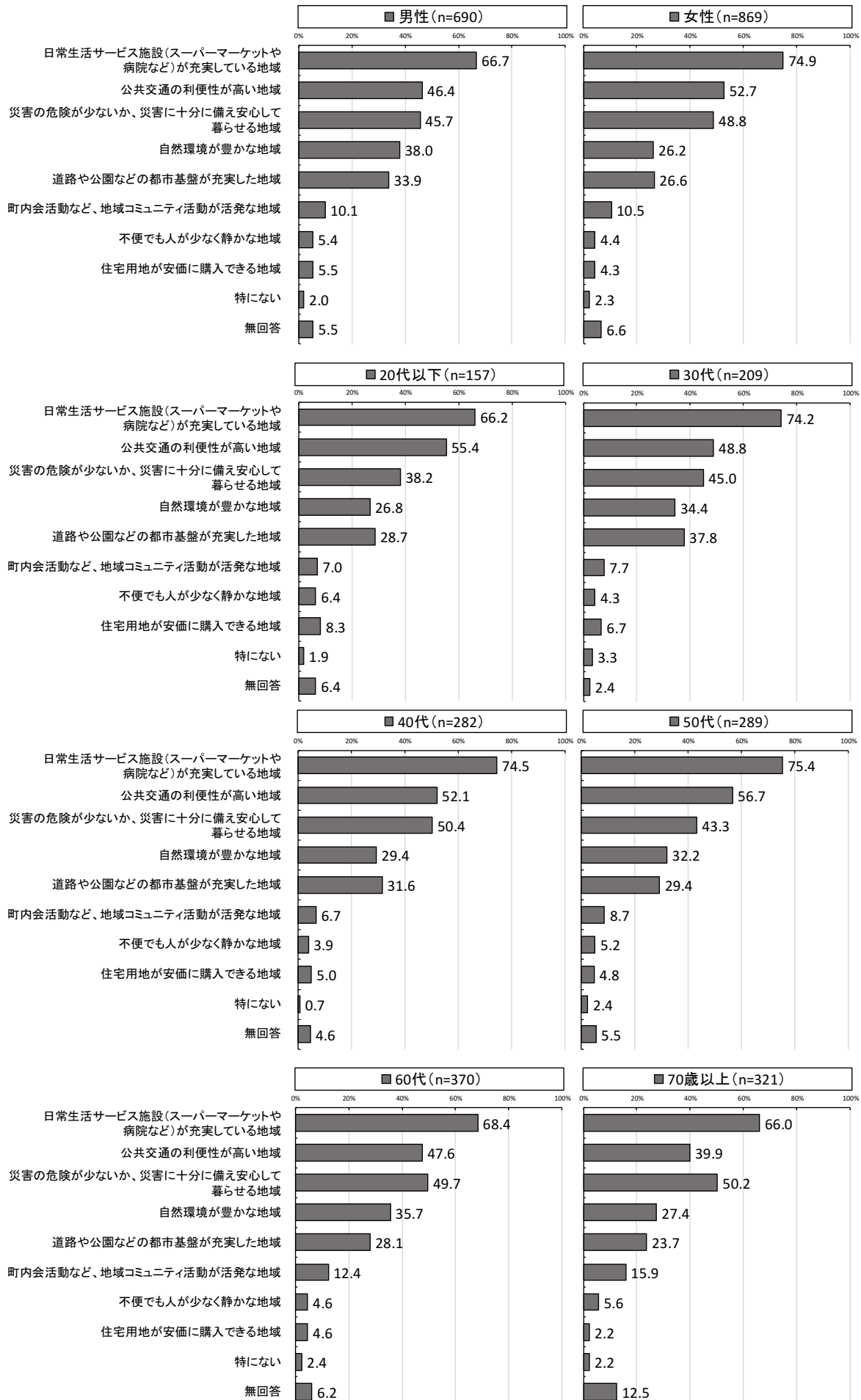


魅力を感じる地域について尋ねたところ、「日常生活サービス施設（スーパーマーケットや病院など）が充実している地域」が 70.6%と最も高くなっている。次いで「公共交通の利便性が高い地域」が 49.4%、「災害の危険が少ないか、災害に十分に備え安心して暮らせる地域」が 47.0%となっている。

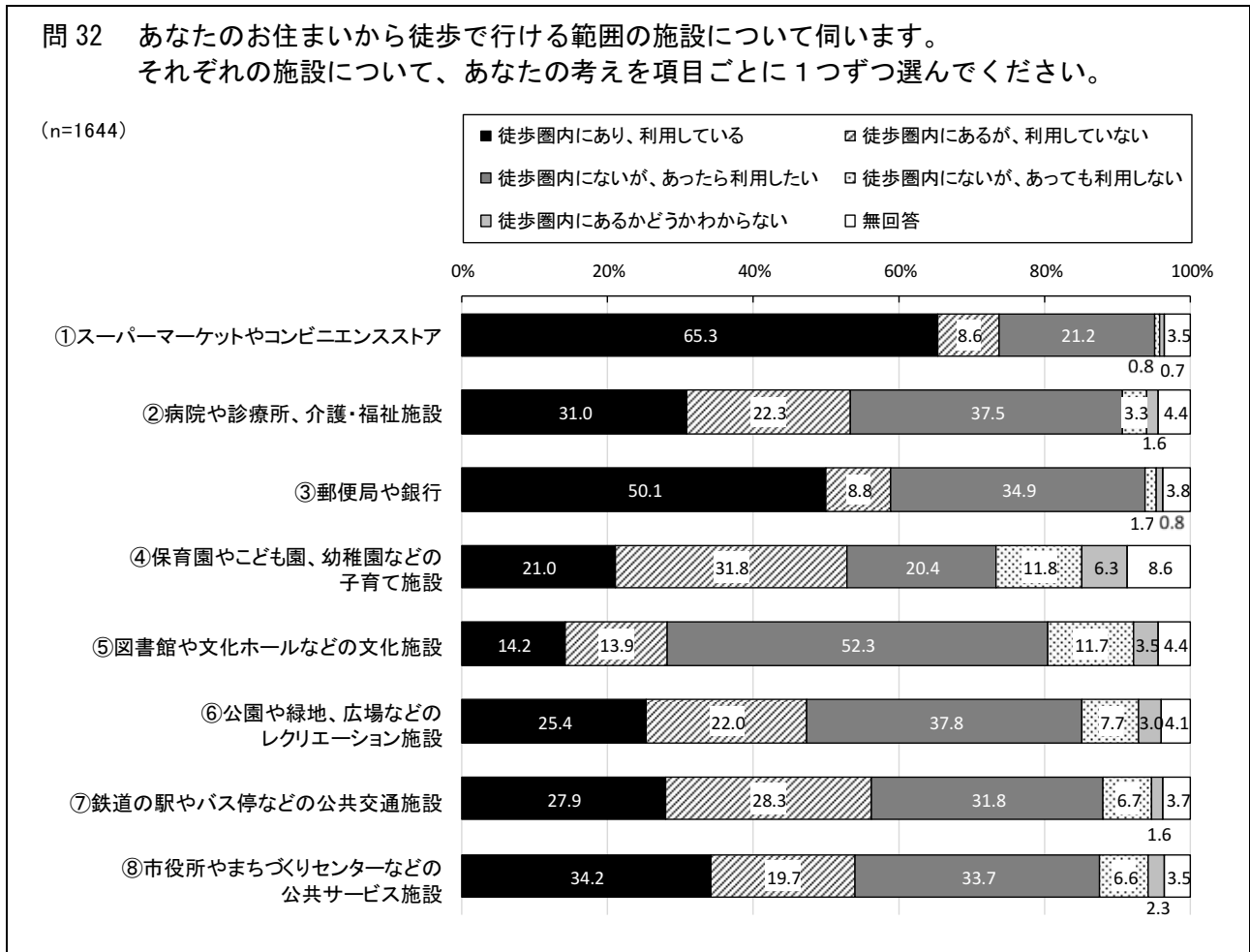
男女別に見ると、上位3項目の順位は変わらないが、男性は「自然環境が豊かな地域」「道路や公園などの都市基盤が充実した地域」が高く、女性は「日常生活サービス施設（スーパーマーケットや病院など）が充実している地域」「公共交通の利便性が高い地域」の割合が高いのが特徴である。

年代別に見ると、どの世代も「日常生活サービス施設（スーパーマーケットや病院など）が充実している地域」が最も高い。30代は「道路や公園などの都市基盤が充実した地域」が 37.8%と他世代と比べて高くなっている。70歳以上は「公共交通の利便性が高い地域」が 39.9%と他年代と比べて低くなっている。

【性別・年代別】



(3) 徒歩圏内の施設利用状況



徒歩圏内の施設利用状況について尋ねたところ、「①スーパーマーケットやコンビニエンスストア」「③郵便局や銀行」は「徒歩圏内にあり、利用している」がそれぞれ 65.3%、50.1%と高い。

また、「⑦鉄道の駅やバス停などの公共交通施設」については、「徒歩圏内にあるが、利用していない」が 28.3%を占め、「徒歩圏内にあり、利用している」が 27.9%とほぼ同じ割合となっている。同様に、「⑤図書館や文化ホールなどの文化施設」「⑥公園や緑地、広場などのレクリエーション施設」についても、「徒歩圏内にあり、利用している」「徒歩圏内にあるが利用していない」割合がほぼ同じ割合となっている。

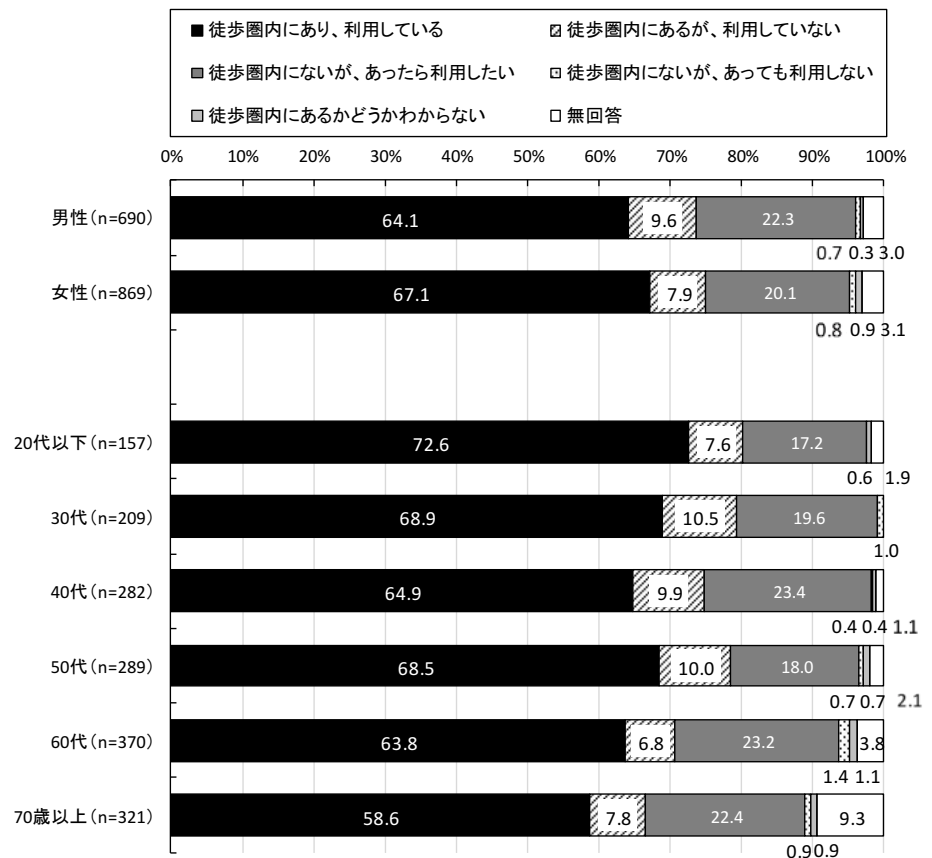
一方、「徒歩圏内がないが、あったら利用したい」割合は、「⑤図書館や文化ホールなどの文化施設」が 52.3%と高くなっている。

【性別・年代別】

① スーパーマーケットやコンビニエンスストア

男女別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は男性が64.1%、女性が67.1%となっている。

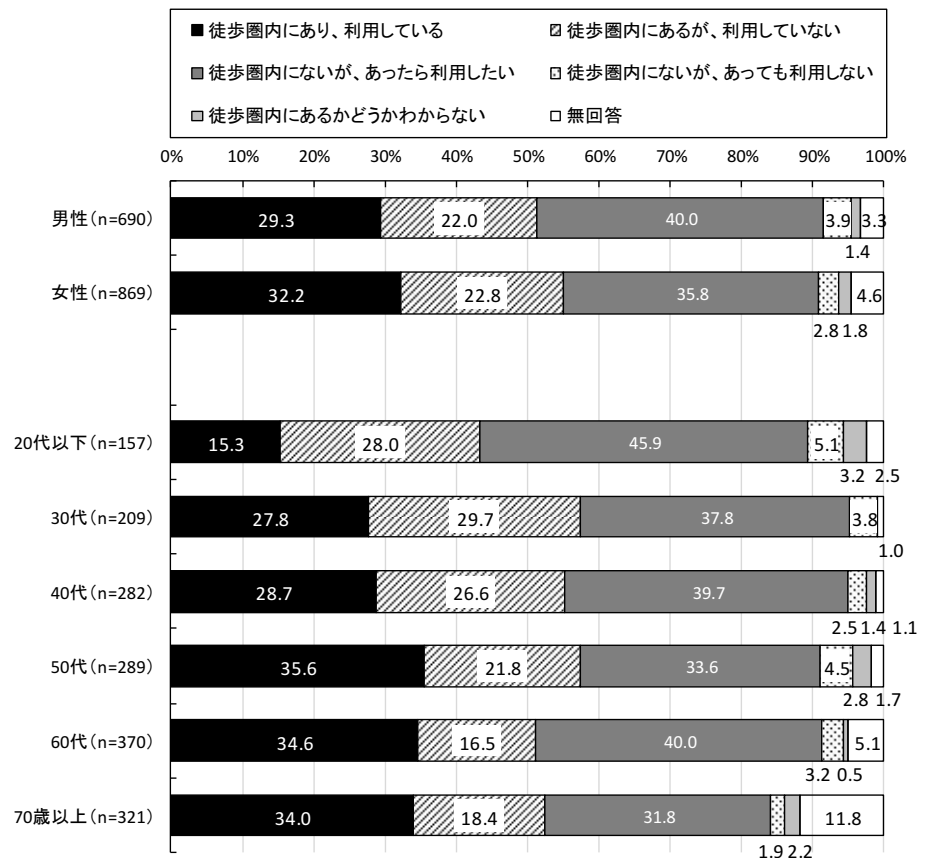
年代別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は20代が72.6%と最も高くなっている。



② 病院や診療所、介護・福祉施設

男女別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は男性が29.3%、女性が32.2%となっている。

年代別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は50代以上で3割以上となっている。



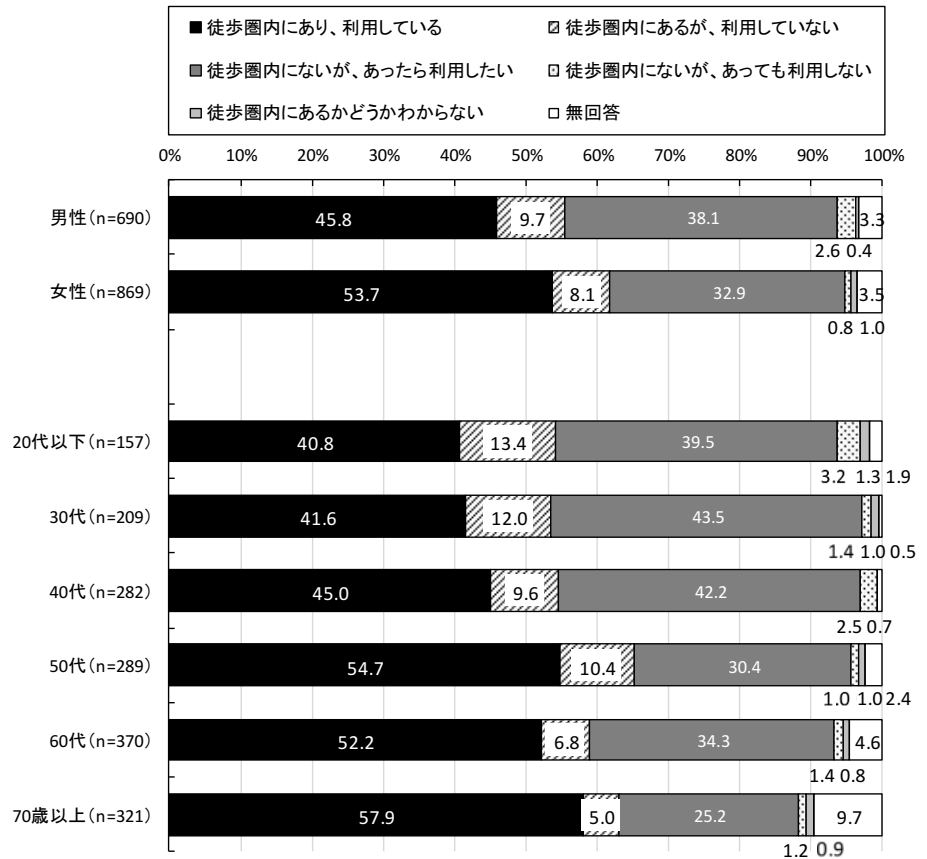
IV 調査結果

【性別・年代別】

③ 郵便局や銀行

男女別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は男性が45.8%、女性が53.7%となっている。

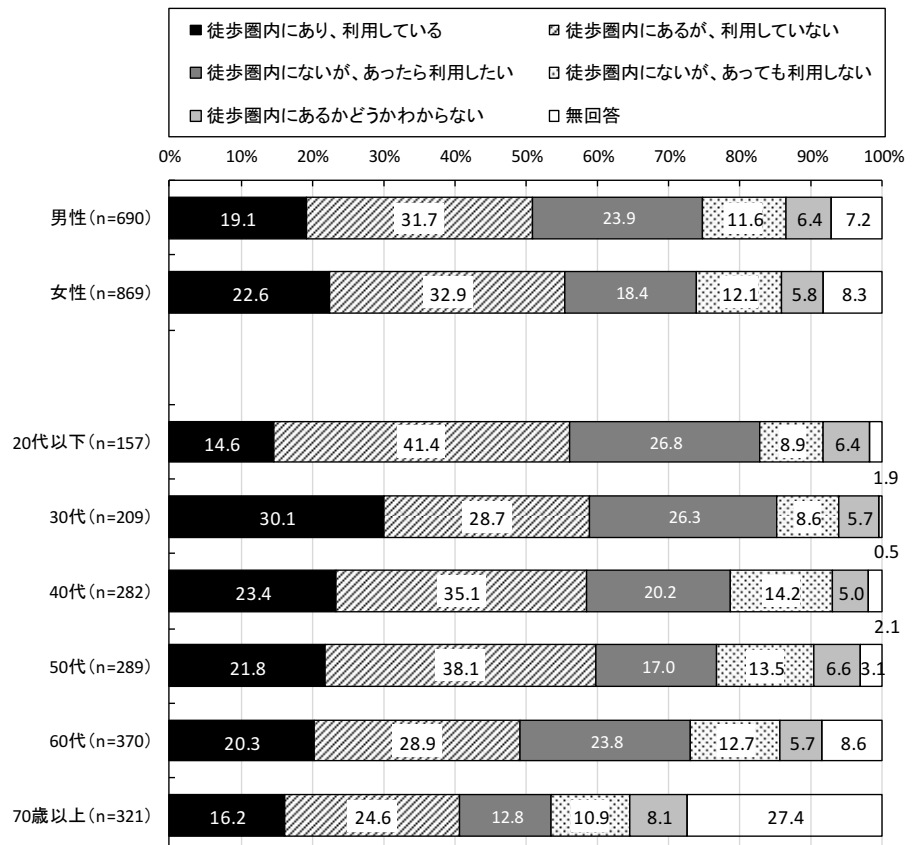
年代別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は50代以上が5割以上となっている。



④ 保育園やこども園、幼稚園などの子育て施設

男女別に見ると、「徒歩圏内にあるが、利用していない」が男性31.7%、女性32.9%となっている。

年代別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」「徒歩圏内がないが、あったら利用したい」ともに30代は高くなっている。



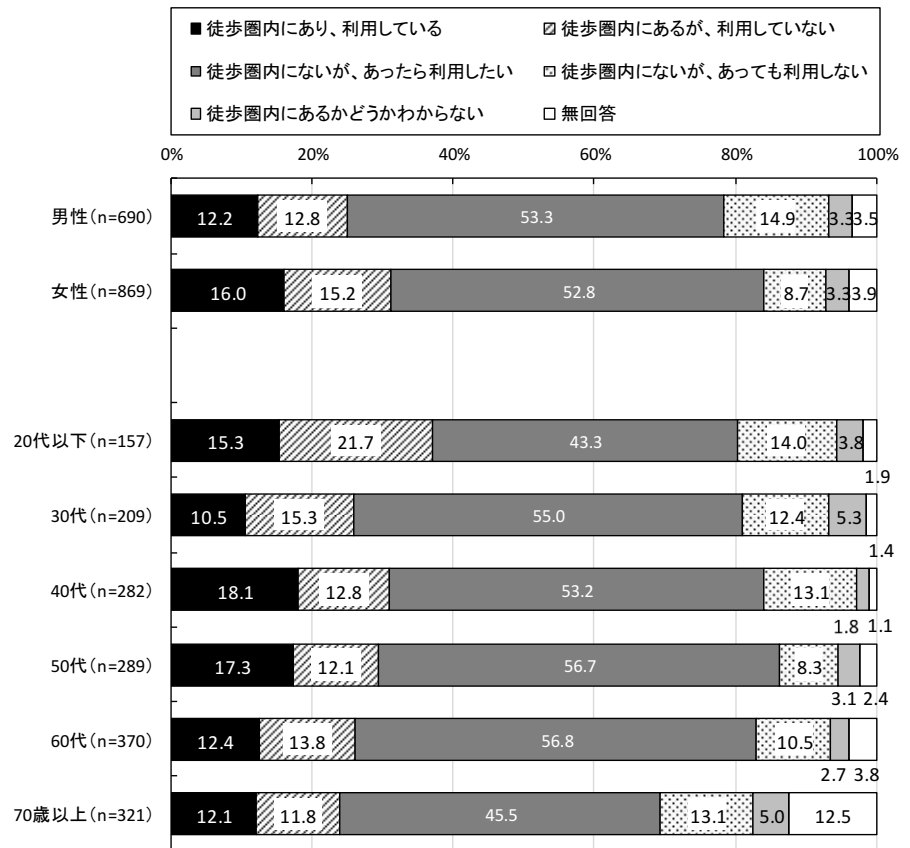
【性別・年代別】

⑤ 図書館や文化ホールなどの文化施設

男女別に見ると、「徒歩圏内がないが、あったら利用したい」が男性 53.3%、女性が 52.8%となっている。

年代別に見ると、「徒歩圏内がないが、あったら利用したい」は 30代、40代、50代、60代で5割以上となっている。

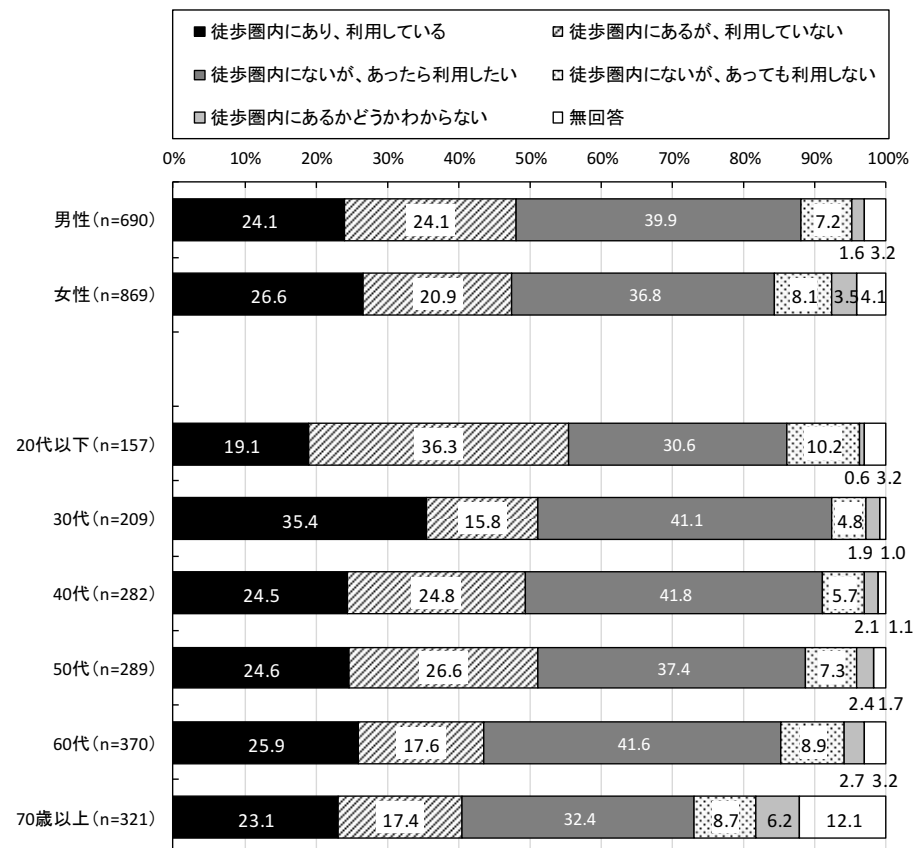
「徒歩圏内にあり、利用している」は 30代が 10.5%と他世代に比べて低くなっている。



⑥ 公園や緑地、広場などのレクリエーション施設

男女別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は男性が 24.1%、女性が 26.6%となっている。

年代別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は 30代が 35.4%と他世代と比べて高くなっている。

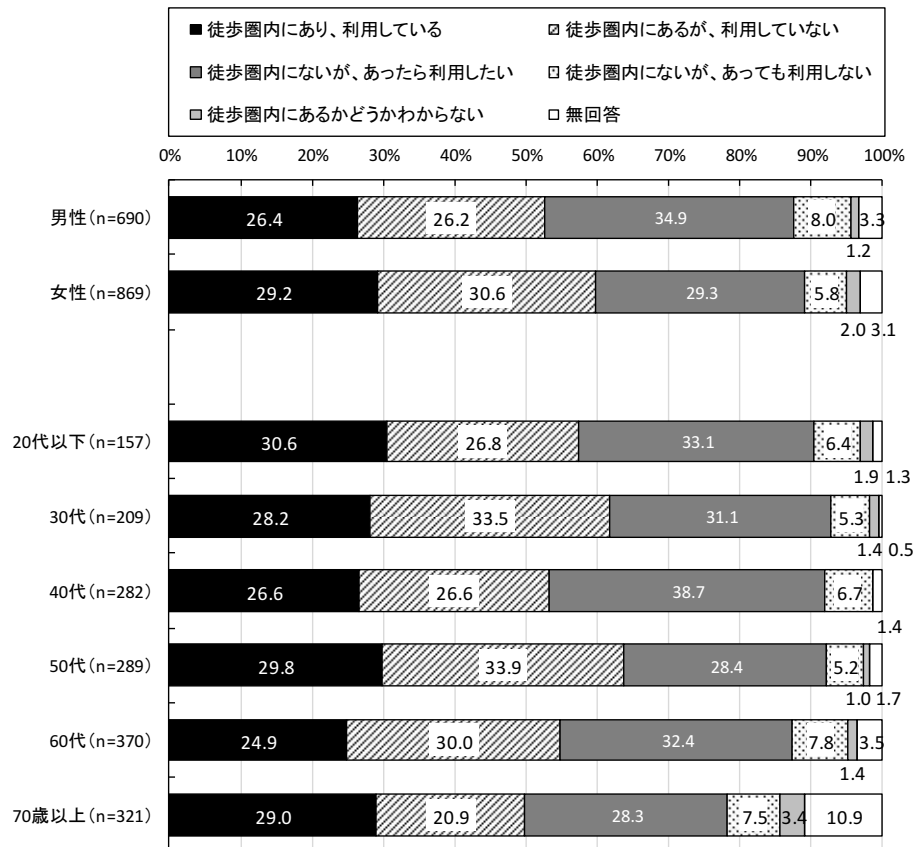


【性別・年代別】

⑦ 鉄道の駅やバス停などの公共交通施設

男女別に見ると、「徒歩圏内にないが、あったら利用したい」は男性が34.9%、女性が29.3%と女性より男性が高くなっている。

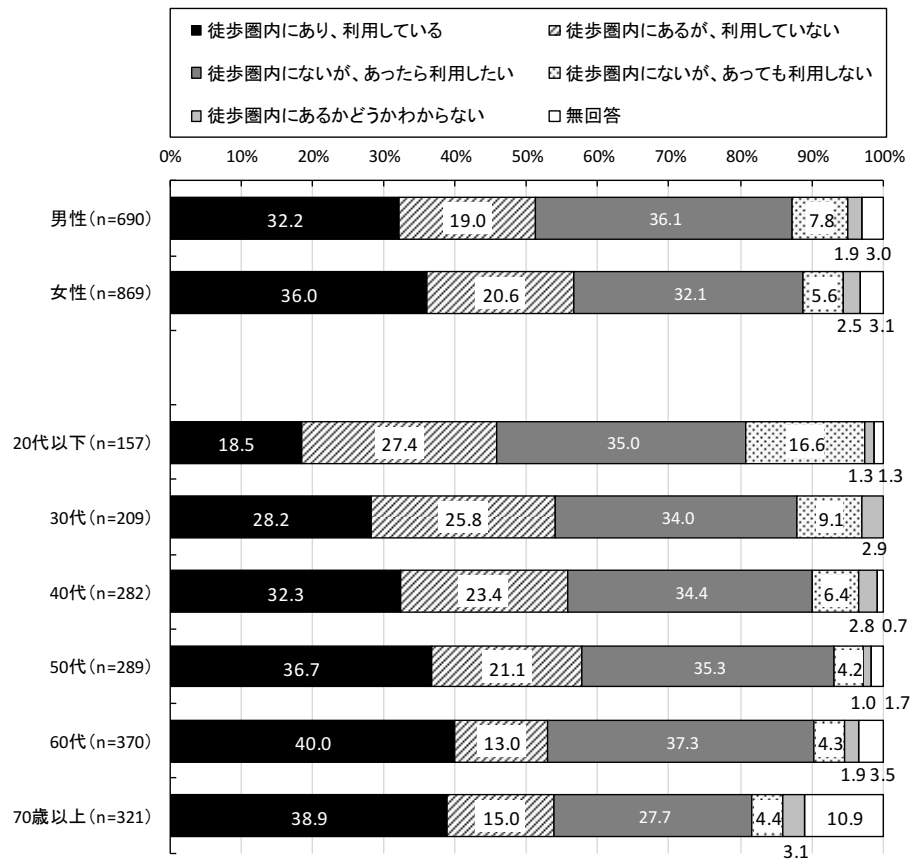
年代別に見ると、「徒歩圏内にないが、あったら利用したい」は40代が38.7%と他世代より高くなっている。



⑧ 市役所やまちづくりセンターなどの公共サービス施設

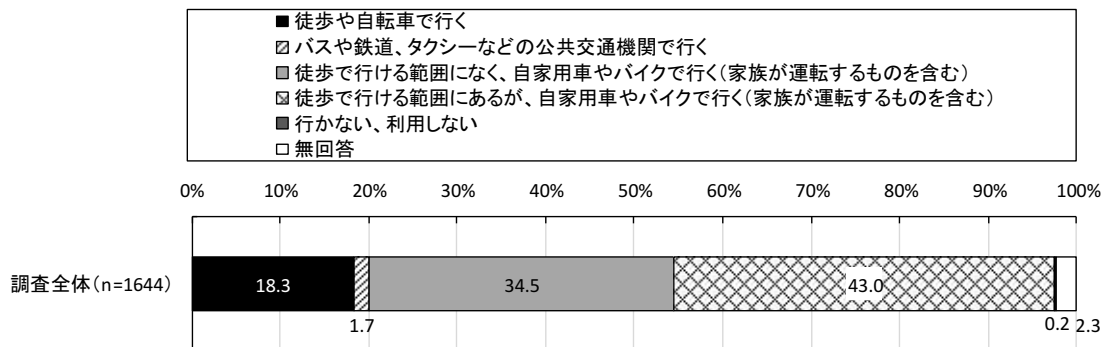
男女別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は男性が32.2%、女性が36.0%となっている。

年代別に見ると、「徒歩圏内にあり、利用している」は60代が40.0%と最も高くなっている一方、20代以下は「徒歩圏内にあるが、利用していない」「徒歩圏内にないがあっても利用しない」が他世代に比べていずれも高くなっている。

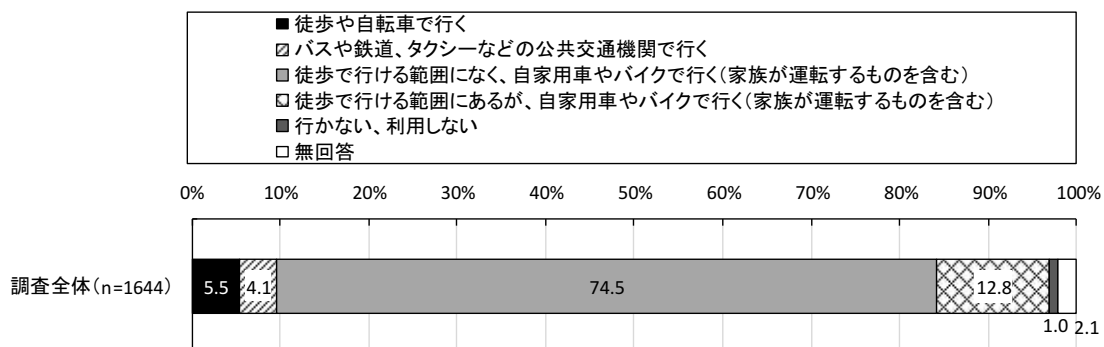


(4) 交通手段について

問 33 あなたが日常的にスーパーマーケット、コンビニエンスストア、診療所などを利用するに当たり、どのような交通手段を利用しますか。最も多いものを1つだけ選んでください。



問 34 あなたが大規模店舗（ショッピングセンターなど）、総合病院、文化施設などを利用するに当たり、どのような交通手段を利用しますか。最も多いものを1つだけ選んでください。



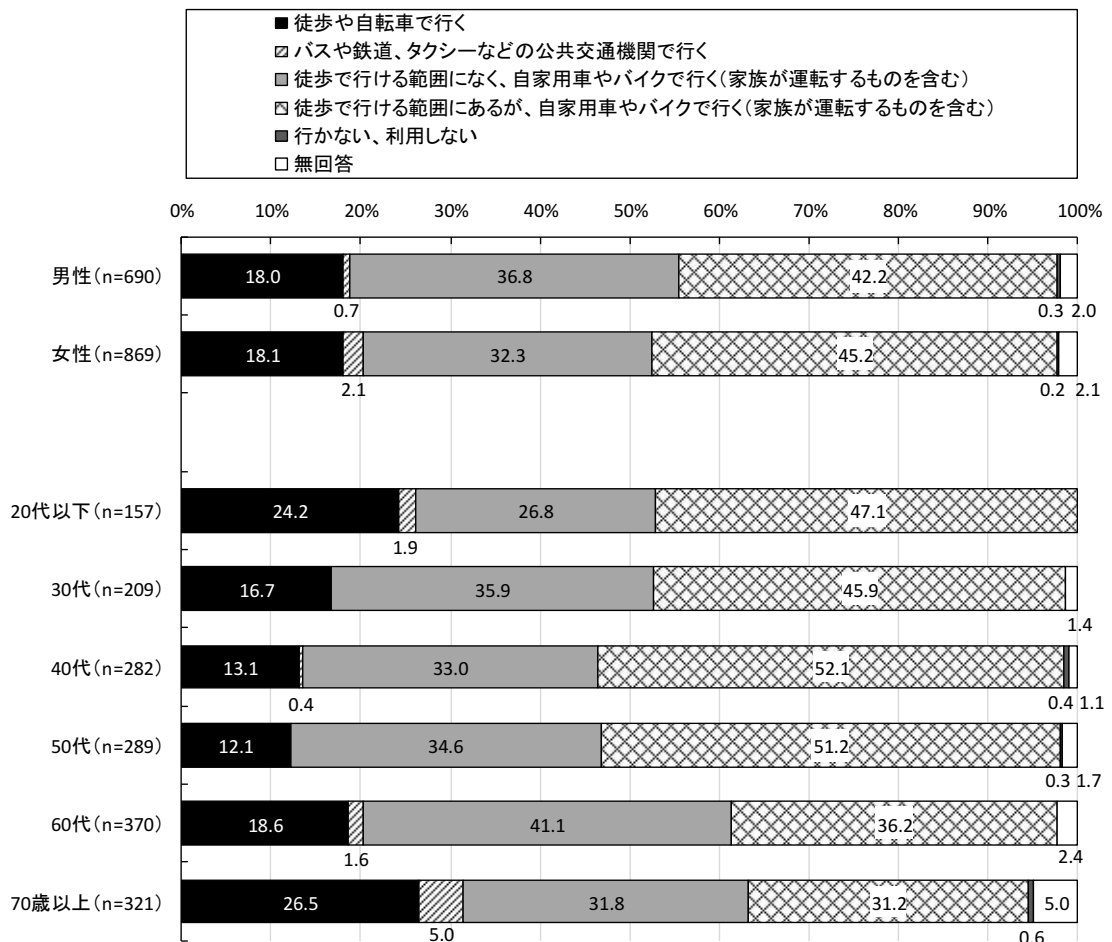
日常的に利用するスーパーマーケット、コンビニエンスストア、診療所などを利用する際の交通手段について尋ねたところ、「徒歩で行ける範囲にあるが、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」が43.0%と最も高くなっている。次いで「徒歩で行ける範囲がなく、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」が34.5%となり、両者をあわせると、「自家用車やバイクで行く」割合は77.5%を占める。

一方、大規模店舗、総合病院、文化施設などを利用する際の交通手段については、「徒歩で行ける範囲がなく、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」が74.5%と、他の項目を圧倒している。また、「徒歩で行ける範囲にあるが、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」12.8%を含めると、「自家用車やバイクで行く」割合は87.3%を占める。

IV 調査結果

【性別・年代別】

＜日常的に利用するスーパーマーケット、コンビニエンスストア、診療所などを利用する際の交通手段＞



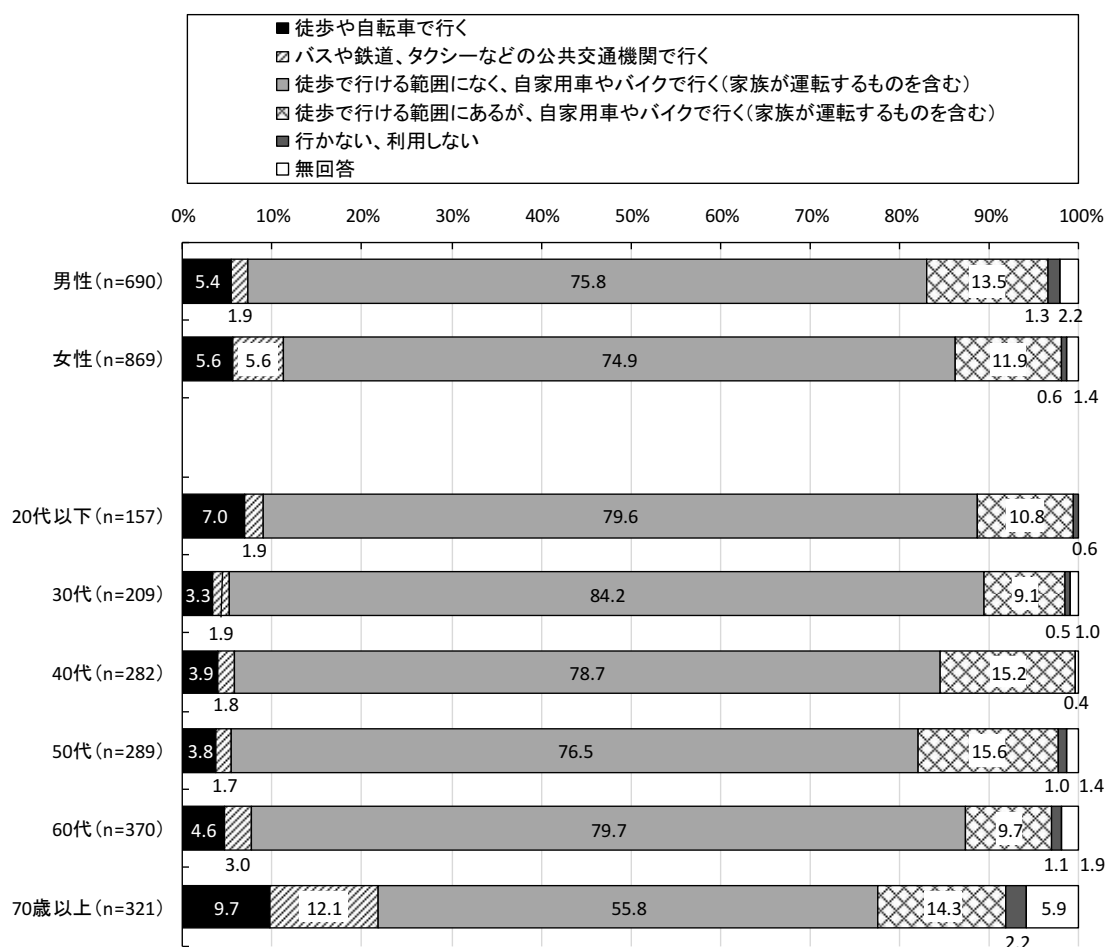
男女別に見ると、「徒歩で行ける範囲にあるが、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」は女性がやや高くなっている。

年代別に見ると、50代以下では「徒歩で行ける範囲にあるが、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」が高く、60代以上では「徒歩で行ける範囲にない、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」が高い傾向となっている。

また、「徒歩や自転車で行く」は20代以下で24.2%、70歳以上で26.5%と高い。

【性別・年代別】

＜大規模店舗、総合病院、文化施設などを利用する際の交通手段＞



男女別にみると、男女とも「徒歩で行ける範囲になく、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」が他の項目を圧倒しているが、「バスや鉄道、タクシーなどの公共交通機関で行く」は男性より女性が高くなっている。

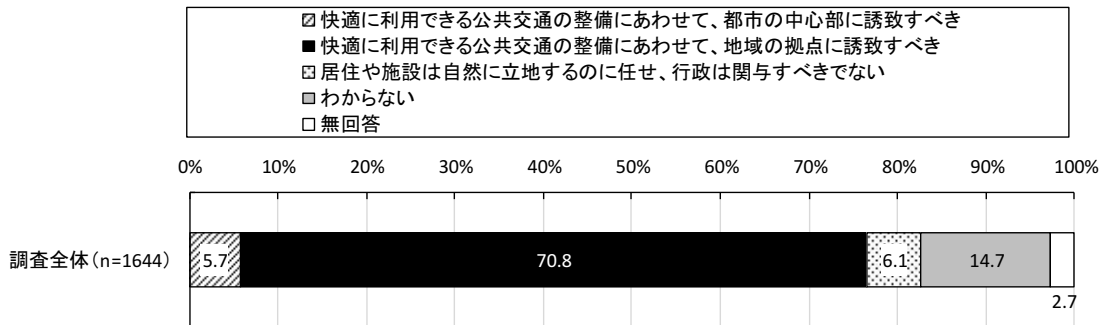
年代別に見ると、いずれの世代も「徒歩で行ける範囲になく、自家用車やバイクで行く（家族が運転するものを含む）」が他の項目を圧倒している。

70歳以上では「徒歩や自転車で行く」が9.7%、「バスや鉄道、タクシーなどの公共交通機関で行く」が12.1%と、他世代と比べて高くなっている。

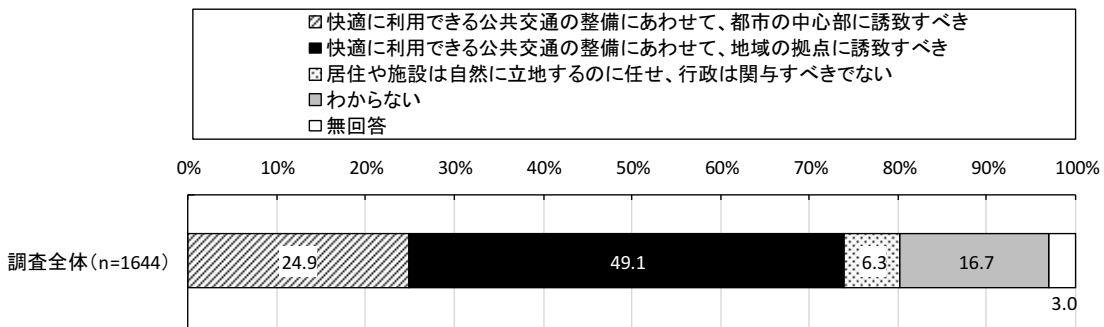
(5) 自動車を利用しない市民が安心して快適に暮らすための方法について

問 35 高齢者をはじめ、自動車を利用しない市民が、安心して快適に暮らせるためには、さまざまな施設を効率的に利用できることが重要ですが、そのためにどの方法が適していると思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

① 日常的に利用するスーパーマーケット、コンビニエンスストア、診療所などについて



② 利用頻度が少ない大規模店舗（ショッピングセンターなど）、総合病院、文化施設などについて

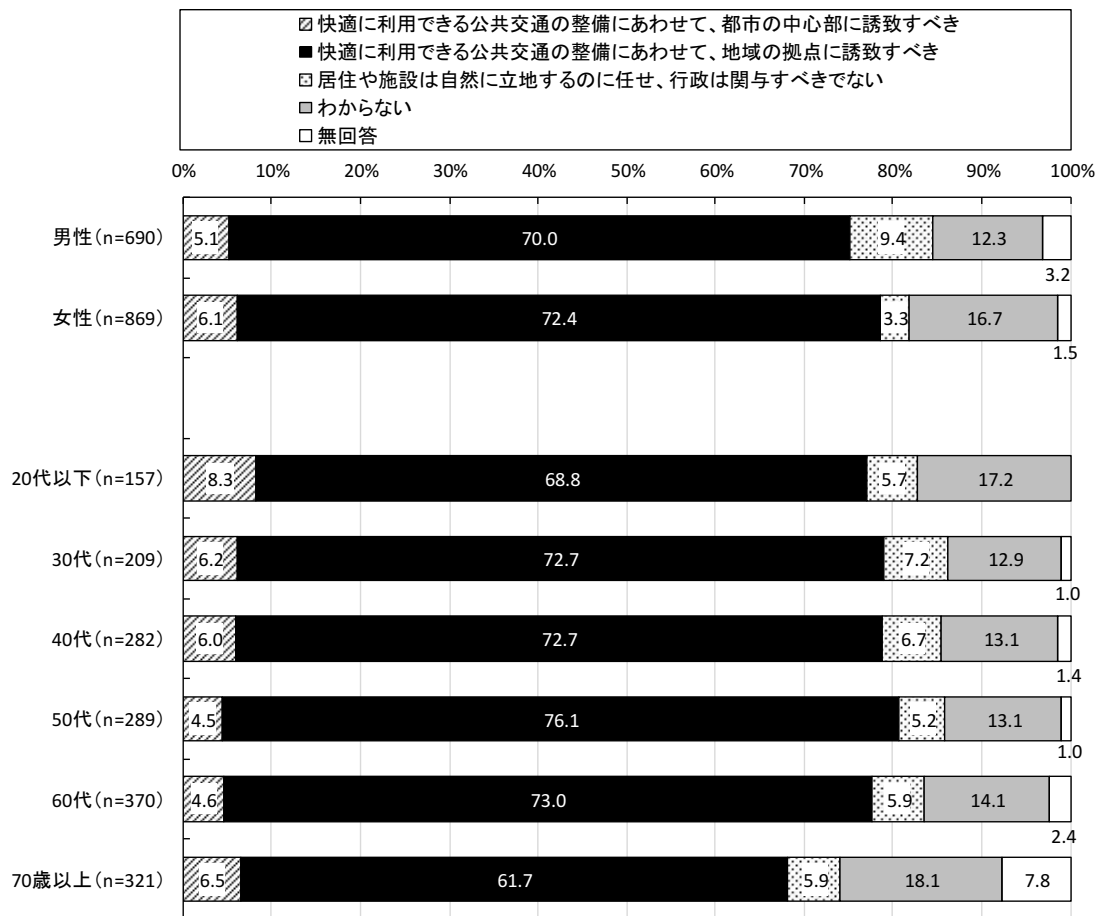


自動車を利用しない市民が安心して快適に暮らすための方法について尋ねたところ、日常的に利用するスーパーマーケット、コンビニエンスストア、診療所などについては、「快適に利用できる公共交通の整備にあわせて、地域の拠点に誘致すべき」が70.8%と最も高く、他の項目を圧倒している。

一方、利用頻度が少ない大型店舗、総合病院、文化施設などについては、「快適に利用できる公共交通の整備にあわせて、地域の拠点に誘致すべき」が49.1%、「快適に利用できる公共交通の整備にあわせて、都市の中心部に誘致すべき」が24.9%となっている。

【性別・年代別】

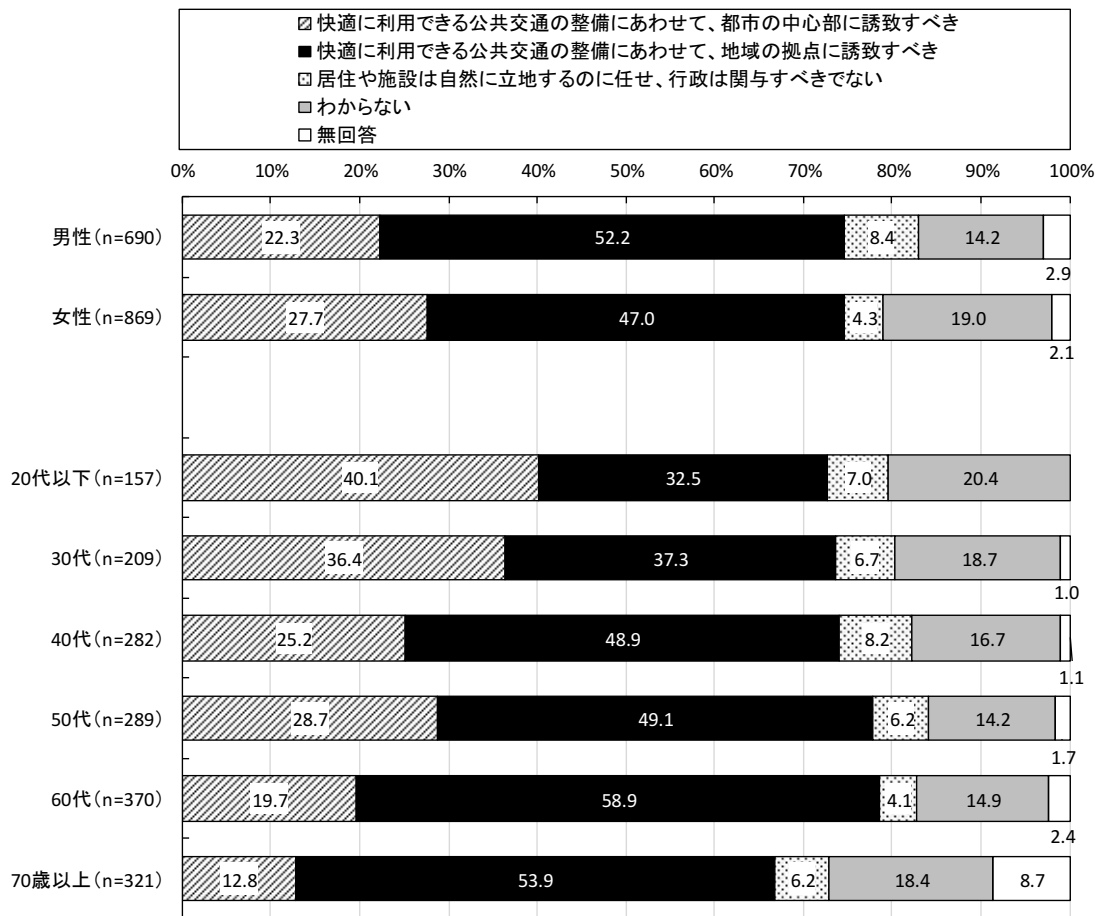
<① 日常的に利用するスーパーマーケット、コンビニエンスストア、診療所などについて>



性別・年代問わず、「快適に利用できる公共交通の整備にあわせて、地域の拠点に誘致すべき」が最も高くなっている。

【性別・年代別】

＜② 利用頻度が少ない大規模店舗（ショッピングセンターなど）、総合病院、文化施設などについて＞

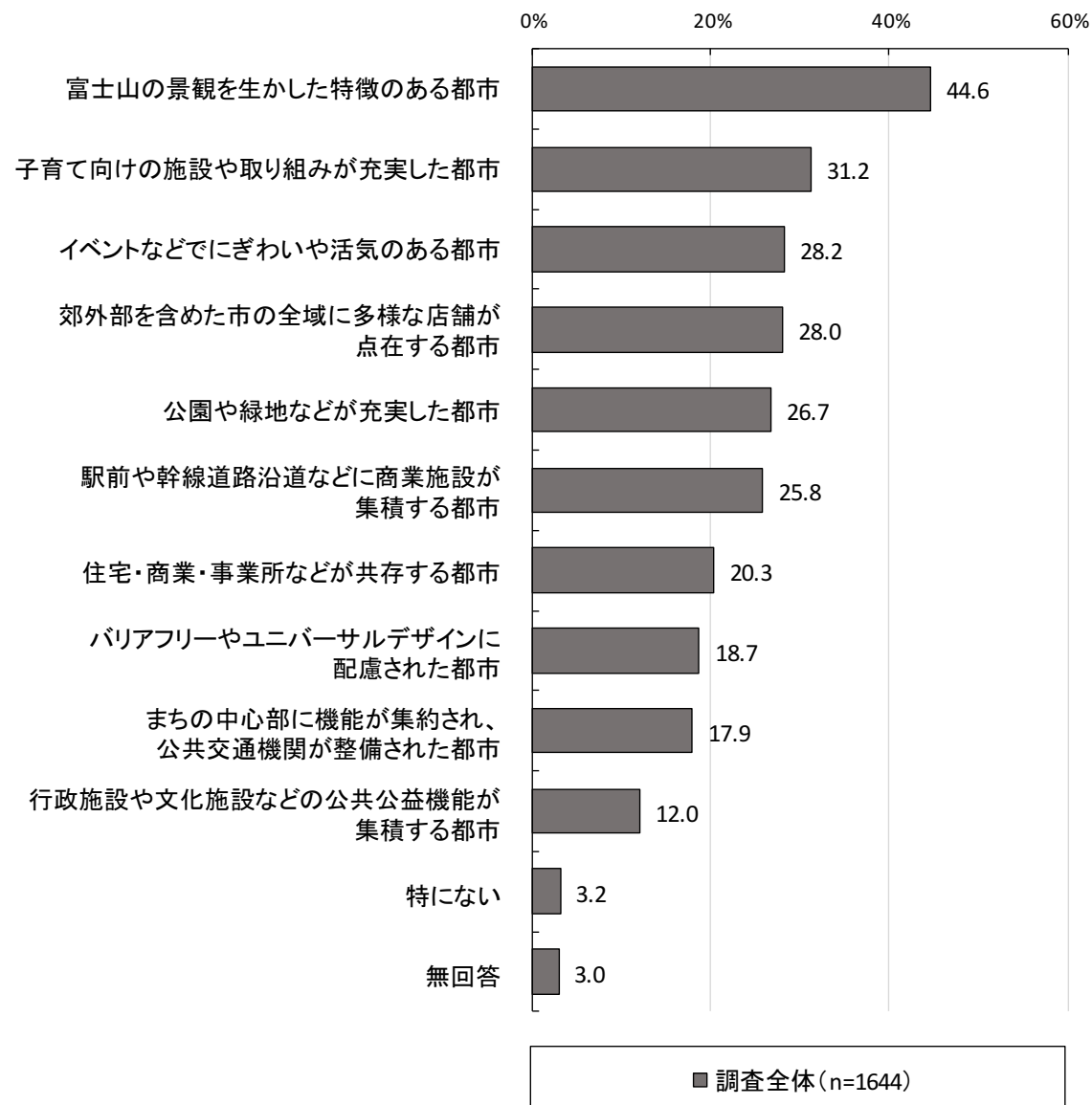


男女別に見ると、「快適に利用できる公共交通の整備にあわせて、地域の拠点に誘致すべき」が最も高い点是不変だが、「地域の拠点に誘致すべき」は男性、「都市の中心部に誘致すべき」は女性で、高い傾向になっている。

年代別に見ると、40代以上では「地域の拠点に誘致すべき」、20代以下では「都市の中心部に誘致すべき」が高くなっており、30代ではこの2者がほぼ同じ割合となった。若年層ほど「都市の中心部に誘致すべき」、年配層ほど「地域の拠点に誘致すべき」という意見となった。

(6) 富士市の目指すべき都市像について

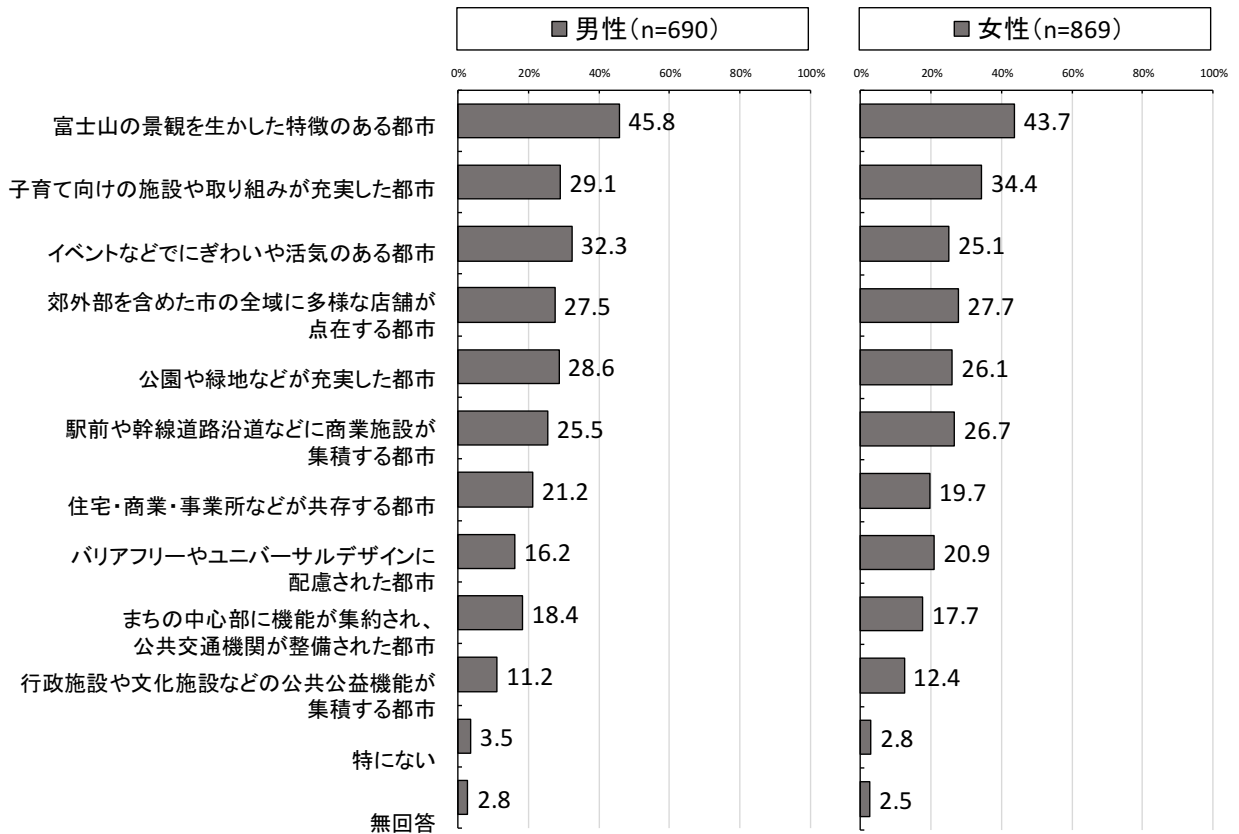
問 36 富士市は今後、どのような都市を目指していくのが望ましいと考えますか。
あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。(M. A.)



富士市は今後どのような都市を目指していくのが望ましいかについて尋ねたところ、「富士山の景観を生かした特徴のある都市」が44.6%と最も高くなっている。次いで「子育て向けの施設や取り組みが充実した都市」が31.2%、「イベントなどでにぎわいや活気のある都市」が28.2%、「郊外部を含めた市の全域に多様な店舗が点在する都市」が28.0%となっている。

IV 調査結果

【性別】

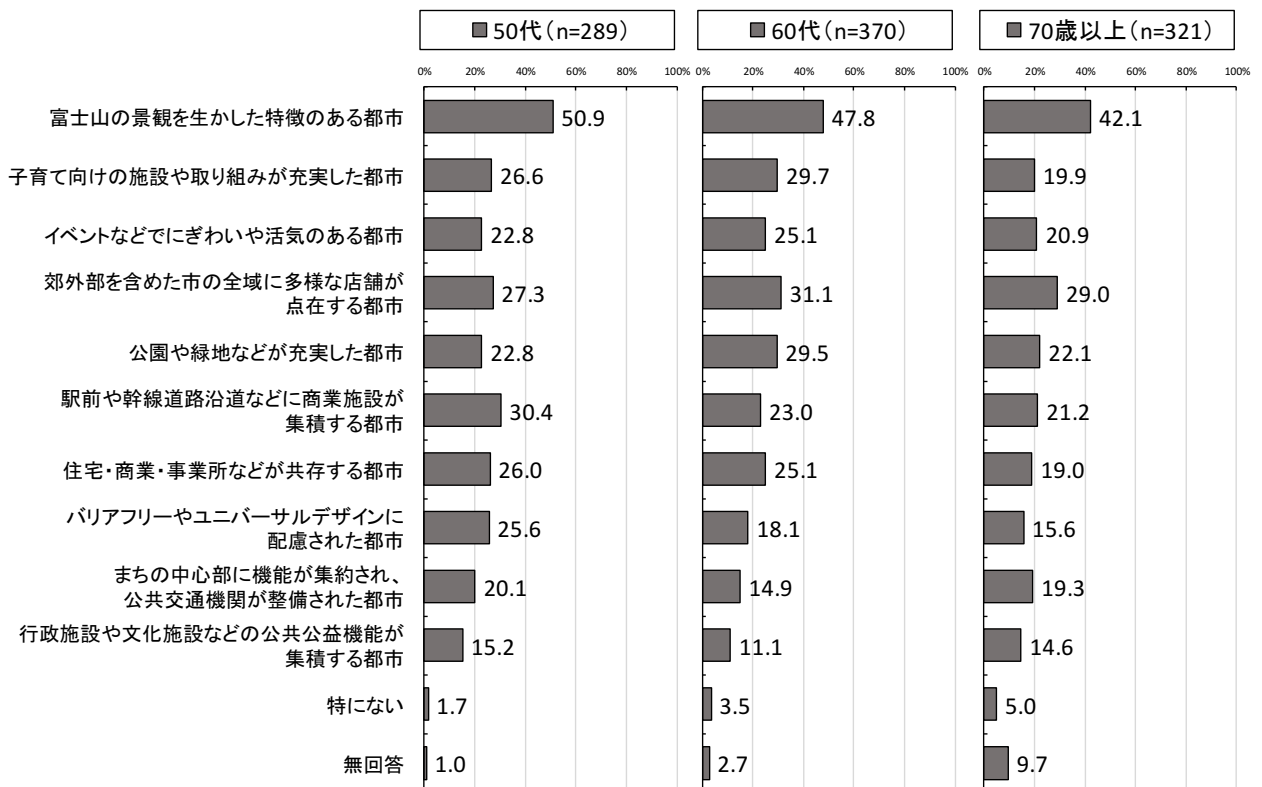
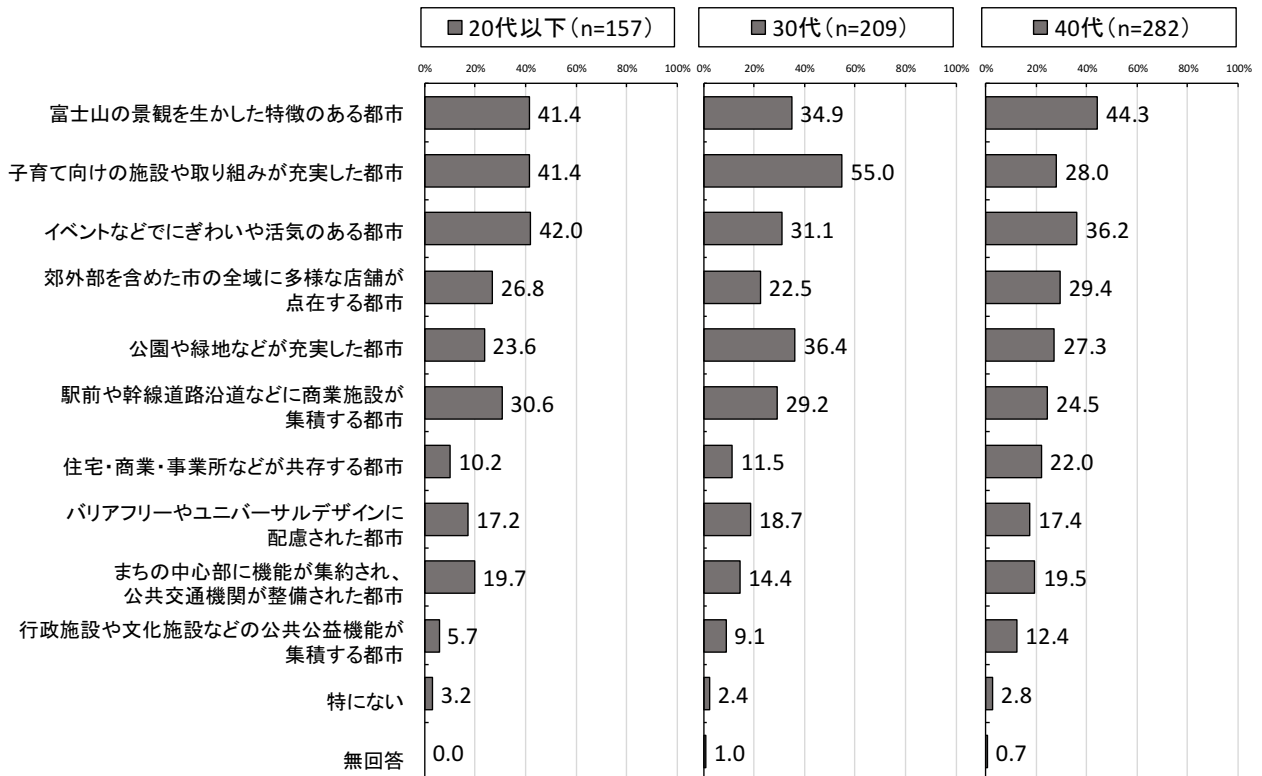


男女別に見ると、「富士山の景観を生かした特徴のある都市」が最も高い点は男女ともに変わらないが、男性では「イベントなどでにぎわいや活気のある都市」が32.3%、女性では「子育て向けの施設や取り組みが充実した都市」が34.4%と高くなっている。

年代別に見ると、30代を除いた全世代で「富士山の景観を生かした特徴のある都市」がトップとなった。特に50代では50.9%と最も高くなっている。

一方、子育て世代の30代では、「子育て向けの施設や取り組みが充実した都市」が55.0%と最も高く、次いで「公園や緑地などが充実した都市」が36.4%となっている。

【年代別】



IV 調査結果